

麻布大学

要覧 | 2023

AZABU UNIVERSITY
Since 1890

建学の精神

本学の建学の精神は『学理の討究と誠実なる実践』である。

本学は、創設者與倉東隆先生の建学の精神である、学理を討究し実践を重んじる誠実なる校風を受け継ぎ、人と動物との共存及び人と自然環境との調和の途を探求することを目的として獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学及び環境科学に関する専門の知識を教授研究し、その応用力の展開をはかるとともに、進んで学術の進歩と国民生活の向上に寄与し、平和社会の建設に貢献することとしている。

公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）結果及び獣医学教育評価結果について

麻布大学は、2017（平成 29）年度に学校教育法に規定する文部科学大臣の認証評価機関である公益財団法人大学基準協会（令和 5 年 4 月 1 日現在、国・公・私立 428 の大学及び短期大学が加盟）の認証評価を受審し、「大学基準」に適合しているとの認定を受けた。

また、麻布大学獣医学部獣医学科は、2017（平成 29）年度に全国大学獣医学関係代表者協議会（平成 31 年 4 月 1 日現在、国・公・私立 17 の大学）に加盟する獣医学系大学の中で、公益財団法人大学基準協会による我が国初の獣医学教育評価を受審し、「獣医学教育基準」に適合しているとの認定を受けた。認定期間は、いずれも 2025 年 3 月 31 日までとなる。

これらによって、麻布大学は、第一に「大学」にふさわしい要件を備えている、第二に「理念・目的」の実現に向け改善・改革のための努力を払っている、第三に改善・改革に機能する客観的な自己点検・評価システムが整っている、ことなどが評価され、広く社会に証明されたことになる。

今後も、麻布大学は、「理念・目的」の実現に向け、組織一丸となって地道な努力を続けていくこととしている。



大学基準適合認定証

麻布大学 殿

貴大学は平成29年度大学評価の結果本協会の
大学基準に適合していることを認定する

認定期間 自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 37 年 3 月 31 日

平成30年4月1日

公益財団法人 大学基準協会

会長 永田 恭 介



大学基準適合認定証



獣医学教育に関する基準適合認定証

麻布大学
獣医学部獣医学科 殿

貴学科は平成29年度獣医学教育評価の結果
本協会の獣医学教育に関する基準に適合している
ことを認定する

認定期間 自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 37 年 3 月 31 日

平成30年4月1日

公益財団法人 大学基準協会

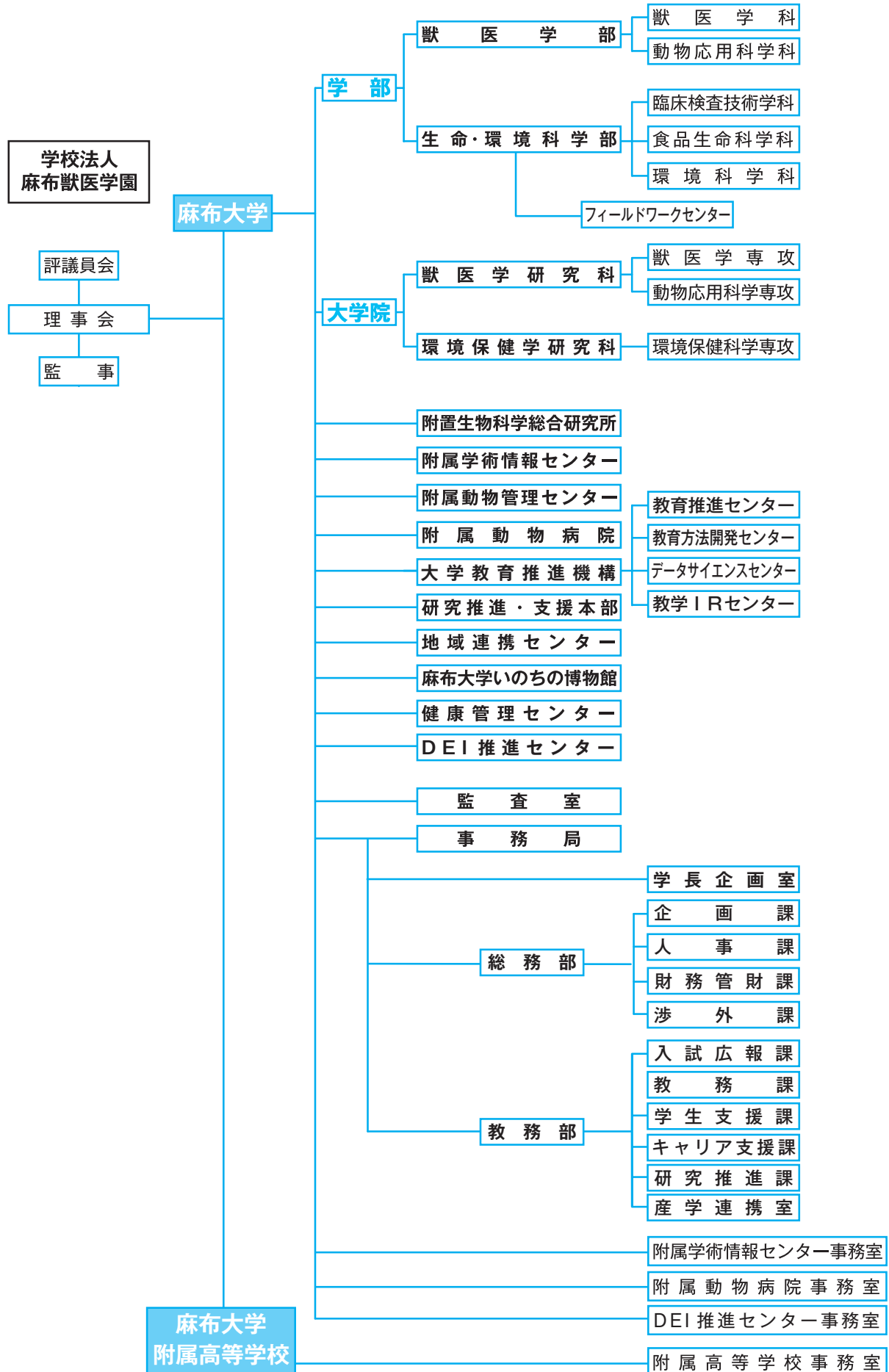
会長 永田 恭 介



獣医学教育に関する基準適合認定証

2	1. 機 構 図
3	2. 教育研究組織
3	1) 麻布大学 3 つのポリシー
3	2) 獣医学部
11	3) 生命・環境科学部
18	4) 麻布大学大学院 3 つのポリシー
18	5) 大学院獣医学研究科
27	6) 大学院環境保健学研究科
31	7) 附置生物科学総合研究所
33	8) 附属学術情報センター
34	9) 附属動物管理センター
34	10) 附属動物病院
35	11) 大学教育推進機構
35	ア) 教育推進センター
35	イ) 教育方法開発センター
35	ウ) データサイエンスセンター
35	エ) 数学 IR センター
37	12) 研究推進・支援本部
39	13) 地域連携センター
39	14) 麻布大学いのちの博物館
40	15) 健康管理センター
41	3. 教員組織
45	4. 役 職 員
48	5. 教職員数
50	6. 学生・生徒数
51	7. 入学試験状況
52	8. 卒業者数・学位授与者数及び研究生等の修了状況
53	9. 卒業後の進路状況
54	10. 各種国家試験合格状況
55	11. 単位互換協定以外における大学独自の単位認定状況
56	12. 学生表彰制度
57	13. 厚生補導施設
59	14. 奨学金給付・貸与状況
60	15. 公開講座と国際交流
63	16. 外部資金受入状況
65	17. 財務状況
66	18. 土地及び建物面積・配置図
68	19. 関連団体
68	1) 麻布大学父母会
68	2) 麻布大学同窓会
68	3) 麻布獣医学会
69	4) 麻布環境科学研究会
70	20. 沿 革
77	21. 学 年 暦 (2023 年度)

(2023 年 5 月 1 日現在)



1) 麻布大学3つのポリシー

麻布大学の目的

麻布大学は獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学及び環境科学に関する専門の学術を教授研究し、その応用能力の展開をはかるとともに、人格の完成につとめ、進んで学術の進歩と人類の生活向上に寄与し、平和社会の建設に貢献することを目的とする。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学及び環境科学の教育に基づき、ICTを活用し、人と動物と環境の共生をめざす専門的知識と技術を習得し、主体的に学び続け、他者と協働して共に成長できる、幅広い視野を持ち国際社会に対して積極的に貢献できる能力を身に付け、所定の単位の修得及び所定の課程を修了して卒業を認めた者に対して、学士の学位を授与する。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

麻布大学は、学生にディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に掲げる専門知識・技術などの実践力及び適切な倫理観を修得させるために、基礎教育あるいは教養教育系科目、専門教育系科目を体系的に編成し、ICTを活用しカリキュラムの充実を図り、講義、演習、実習等を適切に組合わせた授業により主体的・自律的な学習を促す教育を実施する。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

麻布大学では「学理の討究と誠実なる実践」を建学の精神とし、大学の教育の目的を、獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学及び環境科学に関する専門の学術を教授研究し、その応用能力の展開をはかるとともに、人格の完成につとめ、進んで学術の進歩と人類の生活向上に寄与し、平和社会の建設に貢献することとしている。この目的を達成するために、獣医学部と生命・環境科学部を設置し、そこでは教育理念として「地球共生系『人と動物と環境の共生をめざして』」を掲げて教育研究を実施している。両学部ともに、本学の建学の精神をよく理解し、教育の目的、教育理念に賛同し、明確な目的意識を持ち、主体性をもって多様な人々と協働した学びや自己の成長への強い意欲に溢れ、能動的に貢献する姿勢を持ち、また大学教育を受けるに十分な基礎学力を有する学生を求めている。

2) 獣医学部

獣医学部の理念・目的

獣医学部は、幅広い獣医学及び動物応用科学教育を行い、生命と福祉に関わる科学者としての責任感に基づいて、社会的使命を正しく遂行し得る獣医師及び動物科学の専門家を育成するとの理念に基づき、社会より与えられた責任に対して応えられ、かつ、国際的視野を持つことができる人材を養成することを目的とする。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- (1) ICTを活用して獣医学及び動物応用科学の一分野についての専門知識と技術、実践力を持ち、動物と人の健康と福祉の維持増進や動物との共生に活用できる。（知識・理解）
- (2) 科学や技術が社会に及ぼす影響を理解し、適切な倫理感を備え、高い視点から、自立的かつ論理的な判断を行うことができる。（倫理感、思考・判断）
- (3) 高度専門技術者あるいは専門技術者として自らの目標を明確に持ち、問題を提起し解決するために必要となる専門知識と技術を自ら修得するために、主体的・自律的に取り組むことができる。（自律性、関心・意欲）
- (4) 多様性のある社会において、幅広い教養や専門知識と技術を総合的に活用しながら、他者と協働して共に成長し、他者のために責任ある行動を取ることができる。（多様性理解、態度）

- (5) 自らの思考・判断の根拠とプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力をもつ。(技能・表現)

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

獣医学部では、その理念・目的に基づき、ICTを活用して幅広い教養と専門性を修得し、高い倫理感を身につけた人材を養成するため、獣医学科、動物応用科学科を置き、以下の方針に基づいて、教育課程を編成・実施します。

教育課程編成の方針

- (1) 高等学校までに履修した内容の定着が十分でない学生、あるいは高等学校で履修していない科目群をもつ学生に対して、大学教育への円滑な導入を図るための入門科目群を設置する。
- (2) 幅広い教養と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育科目を配置する。
- (3) 専門知識と技術を体系的に学ぶため、学科の専門科目を、知識と技術の順次性を確保して体系的に設置する。
- (4) 学科の専門分野を超えて、学際的な視点を養う科目を設置する。
- (5) 地域社会や産業界など外界との相互作用を通じて、視野を広げ考えを深める対話的な学びの能力を養う科目を設置する。
- (6) 獲得した知識や技術を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や、主体的かつ自律的な態度を育成するために、概論、特論、ゼミ、卒業論文などの科目を設置する。

実施の方針

- (1) 各授業科目について、到達目標、授業計画と実施方法、成績評価基準等を明確にして、シラバスで周知する。
- (2) 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を積極的に取り入れるなど、授業形態、指導方法を工夫する。
- (3) 実践力を涵養するために、ゼミや実習、卒業論文などで授業形態と指導方法を工夫する。
- (4) 成績評価基準に基づき、厳格かつ適正な評価を行う。
- (5) 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

3. アドミSSION・ポリシー（入学者受入れの方針）

獣医学部の理念・目的を達成するために、次のような資質を持つ人材を求めている。

- (1) 人や動物に対する思いやりの心を持ち、主体性をもって多様な人々と協働し、能動的に社会に貢献する意志を持っている人
- (2) 学習意欲が旺盛で、高等学校までの基礎学力、特に生物・化学を含む理科の学力が十分に備わっている人
- (3) 自ら課題を課し解決できる能力、考える力、判断する力、表現する力が備わっている人

獣医学科の目的

獣医学科では、獣医師としての科学的思考力と応用能力を展開させ、生命と福祉に関わる科学者としての社会的使命を遂行できる能力及び動物の生理や病態、疾病の処置とその予防、並びにヒトと動物の感染症、動物性食品衛生及び環境衛生に関する科学的知識と技術を併せ持つ人材の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学科に定められたカリキュラムをICTを活用して学修することで、次のような人材が育成されることを目標とする。

- (1) 獣医師としての専門分野の学問内容についての知識を持つ。
- (2) 獣医師として、臨床・家畜衛生・公衆衛生に対応できる専門家としての実践能力を持つ。

- (3) 獣医師としての高い倫理観を有し、高度な専門職業人として責任を持った行動をとることができる。
- (4) 獣医師である高度な専門職業人として、課題発展能力・問題解決能力を持ち、獣医療の進歩や生命科学に関する社会のニーズの変化に、持続的に対応できる柔軟さと学習意欲を持つ。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学科では、動物に関する分子生物、細胞、組織、器官および個体レベルの正常な機能についての知識を基盤として、感染症の原因や引き起こす病態、社会への影響、防疫はもちろん、化学物質が生命に及ぼす影響の客観的評価、動物の疾患の原因特定や予防、治療法とその結果の評価に至るまでの広範囲の獣医学知識と技術を身に付けることで、動物の保健衛生の向上ならびに畜産業の発達に貢献し、また公衆衛生の向上に寄与できる人材を育成することを目標とする。このような広範囲な獣医学専門教育を効率よく学修できるようにするため、ICTを活用する。専門教育を、基礎獣医学系（組織・解剖学、生理・生化学）、病態獣医学系（薬理・毒性学、微生物学、病理学、免疫学）、生産獣医学系（家畜衛生学、産業動物臨床学）、臨床獣医学系（小動物臨床学）及び環境獣医学系（公衆衛生学、実験動物学）の5系のカテゴリーに分け、系内及び系外教員との協力体制の下に教育を展開する。

目的に基づき、以下のような特徴あるカリキュラムを編成する。

- (1) 初等年次では、教養から基礎獣医学まで幅広い知識や倫理観を身に付けるために基礎系教員と獣医学系教員の協力による総合的なカリキュラムを設定する。

生物学、細胞生物学、分子生物学、化学、生態学などの学問の理解を通じて生命の基礎となる知識を身に付けるとともに、科学英語やコンピュータ演習を通じて、ICTを活用した情報収集、レポート作成方法を身に付ける。獣医解剖学、組織学、発生学およびこれらの実習を通じて細胞から個体における動物の形態を、また獣医生理学、生化学およびこれらの実習を通じて動物の機能について学ぶ。また教員および社会人として活躍する獣医師による獣医学概論を通じて、獣医師の仕事や責務など、卒業後の自らの姿を低学年から考える素材を提供する。

- (2) 中等年次では、病態獣医学系や生産獣医学系、臨床獣医学系の教員によって、微生物とそれによって引き起こされる病態について学ぶ専門的なカリキュラムを設定する。

寄生虫学、細菌学、ウイルス学を通じて微生物の動物体内での動態や疾病発症、伝染性について理解する。またミクロからマクロレベルの詳細な病態は、獣医病理学で深く理解できるようにする。

- (3) 高等年次では、生産獣医学系、臨床獣医学系、環境獣医学系の教員が中心となり、小動物臨床獣医師、産業動物臨床獣医師、家畜衛生獣医師あるいは公衆衛生獣医師などの獣医師としての専門性を身に付け、実践力を体得するためのカリキュラムを設定し教育している。授業では、基礎獣医学系、病態獣医学系科目で修めた技術や知識を十分応用し、疾病を分子から個体レベルまで理解できるようにする。

生産負荷をかけられる経済動物である牛や馬、豚などの特性や、疾病の発生機序と病態、診断と治療についての知見をもとに、防疫や疾病予防に関する技術と知識を提供する。また、繁殖学では、豚や牛、馬の生殖とその異常、治療法についての技術と知識を提供する。小動物分野では、さまざまな疾病について、内科学総論、臨床病理学、臨床薬理学、呼吸循環器病学、消化器病学、泌尿生殖器病学、内分泌代謝学、臨床栄養学、神経病学、血液免疫病学、皮膚病学、臨床行動学、外科学総論、手術学総論、麻酔学、軟部組織外科学、運動器病学、臨床腫瘍学、眼科学、画像診断学の立場から診療の技術と知識を提供する。

臨床系の実習においては、学術情報センターのシステムを活用し、学生が学外においてもPCやタブレットを用いて臨床技術の予習および復習を映像にて学び理解できる環境を提供する。

- (4) 問題解決能力を向上させるため、ICTを利用した論文検索で得られた知見や実験等で得られた新知見の集大成として、卒業論文を配置する。

- (5) 獣医師として、社会に巣立つための獣医師ライセンスの取得を目的とした獣医師国家試験対策のために、専門教育5系に属する獣医学系全教員の連携による総合的なカリキュラムを設定する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学科の教育は、獣医師として高い倫理観を有し、高度な専門知識・技術を身に付けて社会に貢献できる人材を養成することを目的にしているため、次のような人物を求める。

- (1) 人や動物、自然が好きな人
- (2) 獣医学に強い関心を持ち、獣医師となることについて明確な目的意識を持っている人
- (3) 獣医師になるための情熱及び他者への思いやりと奉仕の心、高い倫理観を持つ人



● 獣医学科 授業科目

1 年次～3 年次		1 ～ 3 年次	2 ～ 4 年次	2 ～ 5 年次	2・4 ～ 5 年次	2 ～ 5 年次	
基礎 教育 科目	人文系科目	社会科学系科目	基礎獣医学系	病態獣医学系	生産獣医学系	臨床獣医学系	環境獣医学系
	心理学	現代経済学	細胞生物学	獣医寄生虫学Ⅰ	牧場実習	獣医内科学	実験動物学
	動物比較心理学	法学概論	獣医遺伝学	(獣医寄生虫病学を含む)	獣医栄養学	獣医外科学	実験動物学実習
	文章表現法	現代社会学	獣医解剖学Ⅰ	獣医寄生虫学Ⅱ	家禽疫病学	獣医放射線学	獣医公衆衛生学
	総合英語		獣医解剖学Ⅱ	(獣医寄生虫病学を含む)	家畜伝染病学Ⅰ	小動物獣医総合臨床Ⅰ	(総論・食品衛生学)
	職業指導		獣医組織学	獣医寄生虫学実習	家畜伝染病学Ⅱ	小動物獣医総合臨床Ⅱ	獣医公衆衛生学
	自然科学系科目		獣医発生学	獣医薬理学総論	家畜伝染病学実習	小動物獣医総合臨床Ⅲ	(人獣共通感染症学)
	数学	物理化学概論	獣医解剖学実習	獣医薬理学各論	家畜衛生学Ⅰ	小動物臨床実習	獣医公衆衛生学
	ライフサイエンスの数学Ⅰ	生物学	獣医組織学実習	獣医薬理学実習	家畜衛生学Ⅱ	臨床病理	(環境衛生学)
	ライフサイエンスの数学Ⅱ	生物学実習	獣医生理学Ⅰ	毒性学	家畜衛生学実習	基礎・小動物獣医総合臨床Ⅰ	獣医公衆衛生学実習Ⅰ
	物理学	地学	獣医生理学Ⅱ	毒性学実習	獣医臨床繁殖学	基礎・小動物獣医総合臨床Ⅱ	獣医公衆衛生学実習Ⅱ
	物理学実験	地学実験	獣医生理学実習Ⅰ	獣医微生物学総論	産業動物獣医総合臨床	基礎・小動物獣医総合臨床Ⅲ	生物統計学
	化学	地球共生論	獣医生理学実習Ⅱ	獣医微生物学各論Ⅰ (細菌・真菌)	産業動物臨床実習	獣医総合臨床実習	野生動物学
	化学実験	生態学	分子生物学	獣医微生物学各論Ⅱ (ウイルス)	水生動物疾病学		動物行動学
有機化学	動物分類学	獣医生化学Ⅰ	獣医免疫学	基礎・産業動物獣医総合臨床		獣疫医学	
複合科目	保健体育科目	獣医生化学Ⅱ	獣医微生物学実習Ⅰ				
コンピュータ演習	保健体育	獣医生化学実習	獣医微生物学実習Ⅱ				
情報科学技術	基礎体育		獣医病理学総論				
外国語科目			獣医病理学各論Ⅰ				
〈英語〉	〈第二外国語〉		獣医病理学各論Ⅱ				
基礎科学英語	ドイツ語Ⅰ		獣医病理学実習Ⅰ				
英語購読	フランス語Ⅰ		獣医病理学実習Ⅱ				
英作文表現	スペイン語Ⅰ						
	ドイツ語Ⅱ						
	フランス語Ⅱ						
	スペイン語Ⅱ						
自由科目							
生物学入門	化学入門						
地球共生系データサイエンス・同演習Ⅰ							
地球共生系データサイエンス・同演習Ⅱ							
地球共生系サイエンスワーク							
(専 門 科 目) (共通科目)	獣医学概論 獣医療倫理・動物福祉		専門学外実習	獣医関連法規	総合獣医学	獣医学特論Ⅰ 獣医学特論Ⅱ	卒業論文
(専 門 科 目) (選択科目)	産業動物臨床基礎実習 獣医畜産管理学 畜産物利用学 飼料原料学						
	インターンシップ 最新のバイオサイエンス 臨床解剖学 小動物病院実習 産業動物アドバンス実習						

卒業要件		
区分	単位数	累計 GPA
基礎教育科目		1.1 以上
必修	9	
選択必修	6	
選択	23	
専門科目		
必修	146	
選択	5	
計	189	

取得可能学位 学士（獣医学）

動物応用科学科の目的

動物応用科学科では、動物に関わる生命科学を基盤として、人と動物のより良き関係を学び、人と動物の共生を目指して、遺伝子レベルから生態系レベルに至る動物の保有する諸機能を人間生活に安全かつ効果的に活用するための知識と技術を教授し、人と動物に関わる諸分野で活躍できる専門技術を備えた人材の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学科の定めた教育課程に在籍し、本学科の目的に沿って設定した授業科目を履修し、基準となる単位数を修得することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目は、ICTを活用し、講義、演習・実習、フィールド・ワーク、卒業論文等の科目が含まれる。この卒業要件を満たすことで、「動物生命実践的ジェネラリスト」として、主体的に学び続け、他者と協働してともに成長できる、次のような人物が育成されることを目標とする。

DP1 知識・技能

- (1) 動物応用科学における基本的な知識を体系的に理解するとともに、基礎教育等を通じて、広い教養を習得し、豊かな人間性、社会性を身につけ、生命の尊厳を守り社会の中で生じる多様な課題を解決するために必要な知識や技能を身につけていること。

DP2 思考・判断・表現

- (2) 自分の意見を文書や口頭で表現し、それに対する相手の意見を理解することで、さまざまな問題を発見し、他者と良好なコミュニケーションをとりながら解決策を導くことができること。

DP3 態度・志向性

- (3) 動物応用科学科で獲得した知識や技能を活用し、自ら学びを深め、価値観や意見の異なるさまざまな人と協働して社会に役立てることができること。

DP4 総合的な学習経験と創造的思考力

- (4) 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、科学的根拠に基づいた人と動物と環境の共生に対する論理思考と実証する方法を身につけており、自らが立てた新たな課題に、それらを適用し解決する能力を有していること。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

動物にかかわる職務は世界規模での物資の流通や人間の移動に伴い多様化している。その一方で、業務自体は各々の地域に根ざしたものであることからグローバルな視点を持って地域社会に貢献できることが必要となっている。

本学科ではICTを利用した教育により、主体的・自立的な学習を促す教育によって、専門及び関連分野の幅広い知識力と、地域に根差し現実的課題に対応した実践応用力を備えた「動物生命実践的ジェネラリスト」を育成し、社会で活躍できる人材の輩出を目指す。

そのため、1年次、2年次には、基礎教育的科目群を多く配置する。(DP2、3、4)

同時に、実践的な対応力を養うための専門領域横断的な科目（専門基礎・専門共通）を多く配置し「動物生命実践的ジェネラリスト」の基礎を形成する。(DP1)

3年次、4年次は、研究室に所属しながら動物生命科学系と動物人間関係学系と専門共通系に区分けされた科目群をバランス良く履修することで動物応用科学の研究室に依拠したそれぞれの専門を学びながら領域横断的な科目を学んで「ジェネラリスト」として専門を実践に生かす応用力・問題解決能力を開発する。

動物生命科学系科目群では、遺伝子から、細胞、組織・臓器、微生物、個体、群集、生態系までの種々の段階における生命現象を、保全・増殖、機能解析、利用・開発並びに人と動物に対する安全の観点から、分子から個体までの多様なレベルで総合的に学ぶ。

動物人間関係学系科目群では、伴侶動物、介在動物、野生動物、産業動物を対象に、人の福祉や教育現場に活用できる、動物の特性とその応用及び人と動物と環境の共生について学ぶ。

学年毎には以下のようなカリキュラム進行とした。

- (1) 1・2年次は、動物応用科学が目指す人と動物とのより良い共生のための幅広い科目を配当した。1年次前期から生物学、化学、生態学などで基礎学力を身に付け、その後段階的に専門基礎科目を配当し、動物の形態と機能、動物の特性及び基本的な病態について教育する。また、学科の学問領域を理解するための動物応用科学概論、動物人間共生論、基礎ゼミなどを通じ、動物応用科学の広がり認識し、修学意欲、社会貢献への意識を高める。
- (2) 3年次以降は、拡大・深化した動物応用科学の諸領域を動物の生命活動とその資源利用・開発に関わる動物生命科学系科目群と、人と動物のより良き共生関係を目指す動物人間関係学系科目群、専門共通系科目群に分け、それぞれをバランス良く学ぶことで領域横断的な能力を養う。
- (3) 4年次には、卒業論文等によりそれぞれの領域における動物応用科学の専門性の追求と、それを基礎とした人間社会への貢献の在り方を学ぶ。

具体的には、社会最先端の実験手法、それを基にした動物機能性製品や新たな動物飼育法、社会調査、フィールド・ワークを体験し、そのデータ解析やレポート作成・口頭発表などを通じて、最新の情報を社会へ発信する能力、社会ニーズに対応するための問題発見・解決能力を身に付けてゆく。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学科の目的を理解し、自ら学ぶ姿勢を持ち、本学での学習を通して、主体性を持って多様な人々と協働し、人と動物と社会の接点で社会に貢献できる実践的ジェネラリストとしての能力を身に付け、動物応用科学の諸領域で活躍したいという強い意志と意欲を持った人物を募集する。中でも次のような人物を求めている。

- (1) 問題意識を持ちチャレンジ精神が旺盛である人
- (2) リーダーシップと協調性を有する人
- (3) 動物応用科学の諸領域に主体的に興味を持ち続ける意欲のある人

上記の人物を求めるため、一般入試・大学入学共通テスト利用入試を行う。また、思考力・判断力・表現力等の能力、さらに協調性、主体性を持つ人物を選考するため、AO入試、推薦入試を行う。

● 動物応用科学科 授業科目

基礎教育科目		専門科目					
1 年次～3 年次		1～2 年次	2～4 年次	3～4 年次	2～4 年次	3～4 年次	
人文科学系科目	社会科学系科目	専門基礎科目	専門共通系科目	専門共通系科目	動物生命科学系科目	動物人間関係学系科目	
生命・環境倫理学 心理学 世界文化史	経済学 法律学・政治学 現代社会学	(必修科目) 動物応用科学概論 動物応用科学実習 動物機能解剖学 動物人間共生論 動物関連法規 細胞生物学 遺伝生物学 動物生理学 微生物学 分子生物学 動物生化学 動物遺伝学 基礎野生動物学 応用動物行動学 動物資源経済学 動物人間関係学 実験動物学 動物生化学実習 動物解剖・生理学実習 動物生命工学 動物行動神経科学 動物繁殖学 食品科学 動物福祉論 動物病理学 栄養化学 免疫学 社会調査論・キャリア形成 動物薬理学	(選択科目) 牧場実習 動物発生学 進化・分類学 動物管理学 動物分子生殖科学 動物飼養学 バイオインフォマティクス演習 職業指導 インターンシップ 公衆衛生学 動物栄養学実習 食品衛生学 科学の伝達	(必修科目) 動物栄養学 動物衛生学 生物統計学演習 専門ゼミ 卒業論文	(選択科目) 応用動物遺伝学 動物遺伝子工学 遺伝生命科学実習 動物繁殖学実習 実験動物学実習 毒性学 動物細胞工学 動物受精卵移植論 食品製造学 機器分析化学 家畜人工授精特別実習 食品科学実習 毒性学—機器分析実習 動物生殖制御論	(選択科目) 動物行動治療学 介在動物論 動物介在活動・療法演習 野生動物学野外演習 野生動物学 応用動物心理学実習 乗馬応用実習 動物行動管理学実習 動物環境行動学 動物発達行動学実習 動物資源経済学演習	
自然科学系科目							
ライフサイエンスの数学 ライフサイエンスの物理学 物理学実験 化学 有機化学	生物学 生態学 地球共生論 自然科学史 生物学実験 化学実験 地学 地学実験 生物学入門 化学入門						
複合科目	保健体育科目						
スタディ・スキルズ 情報処理論 コンピュータ演習 基礎ゼミ	基礎体育						
外国語科目							
〈外国語 A 科目〉 基礎科学英語 英語講読Ⅰ 英作文表現Ⅰ 総合・実用英語Ⅰ 総合・実用英語Ⅱ 英語講読Ⅱ 英語講読Ⅲ 英作文表現Ⅱ	〈外国語 B 科目〉 ドイツ語Ⅰ スペイン語Ⅰ ドイツ語Ⅱ スペイン語Ⅱ						
自由科目							
地球共生系データサイエンス・同演習Ⅰ 地球共生系データサイエンス・同演習Ⅱ 地球共生系サイエンスワーク							

卒業要件		
区分	単位数	累計 GPA
基礎教育系科目群		1.1 以上
必修	19	
選択必修	6	
選択	12	
専門基礎・専門共通系科目群		
必修	66	
選択 講義	4	
実習・演習	1	
動物生命科学系科目群		
選択 講義	4	
実習・演習	1	
動物人間関係学系科目群		
選択 講義	4	
実習・演習	1	
計	124	

取得可能学位 学士（動物応用科学）

3) 生命・環境科学部

生命・環境科学部の理念・目的

生命・環境科学部は、生命科学及び環境科学の立場から、健全な生命を育むための教育研究を展開し、もって、人の健康の維持増進や環境の安全・保全にかかわる専門性の高い技術者や環境問題に対応できる人材を育成することを目的とする。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- (1) 臨床検査技術学、食品生命科学及び環境科学の一分野について ICT を活用して専門知識と実践力を身につけ、人の健康の維持増進や環境の安全・保全に活用できる。(知識・理解)
- (2) 科学や技術が社会に及ぼす影響を理解し、適切な倫理感を備え、高い視点から、自立のかつ論理的な判断を行うことができる。(倫理感、思考・判断)
- (3) 専門技術者として自らの目標を明確に持ち、問題を提起し解決するために必要となる専門知識と技術を自ら修得するために、主体的・自律的に取り組むことができる。(自律性、関心・意欲)
- (4) 多様性のある社会において、幅広い教養や専門知識を総合的に活用しながら、他者と協働して共に成長できる責任ある行動を取ることができる。(多様性理解、態度)
- (5) 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力をもつ。(技能・表現)

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

生命・環境科学部では、その理念・目的に基づき、幅広い教養と専門性を修得し、高い倫理感を身につけた人材を養成するため、臨床検査技術学科、食品生命科学及び環境科学科を置く。各学科では ICT を活用しカリキュラムの充実を図ると共に主体的・自律的な学習を促す教育を実践するために、以下の方針に基づいて、教育課程を編成・実施する。

教育課程編成の方針

- (1) 高等学校までに履修した内容の定着が十分でない学生、あるいは高等学校で履修していない科目群をもつ学生に対して、大学教育への円滑な導入を図るための入門科目群を設置する。
- (2) 幅広い教養と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育科目を配置する。
- (3) 専門知識と技術を体系的に学ぶため、学科の専門科目を、知識と技術の順次性に留意して体系的に設置する。
- (4) 学科の専門分野を超えて、学際的な視点を養う科目を設置する。
- (5) 地域社会や産業界など外界との相互作用を通じて、視野を広げ考えを深める対話的な学びの能力を養う科目を設置する。
- (6) 獲得した知識や技術を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や、主体的かつ自律的な態度を育成するために、概論、ゼミ、卒業論文などの科目を設置する。

実施の方針

- (1) 各授業科目について、到達目標、授業計画と実施方法、成績評価基準等を明確にして、シラバスで周知する。
- (2) 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を積極的に取り入れるなど、授業形態、指導方法を工夫する。
- (3) 実践力を涵養するために、ゼミや実習、卒業論文などで授業形態と指導方法を工夫する。
- (4) 成績評価基準に基づき、厳格かつ適正な評価を行う。
- (5) 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

生命・環境科学部は、「生命科学及び環境科学の立場から、健全な生命を育むための教育研究を展開し、もって、人の健康の維持増進や環境の安全・保全に関わる専門性の高い技術者や環境問題に対応できる人材を育成すること」を目的とする。

この目的が達成されるために、次のような資質を持つ人材を求めている。

- (1) 基礎学力を有し、生命科学及び環境科学の学びを通して、自ら課題を見出し、その課題解決のため必要とする知識・技術を習得しようとする学習意欲を持ち、主体性をもって多様な人々と協働する意欲と積極性及び創造性を持っている人
- (2) 高度な専門知識をもって、社会に貢献することに強い意識を持っている人

臨床検査技術学科の目的

臨床検査技術学科は、基礎学力の充実に図り、臨床検査に関する専門知識、技術を習得し、更に高い倫理観を有し、高齢者・障害者医療にも対応可能で、感染症対策、栄養サポート、糖尿病療養指導などのチーム医療を実践する一員としてふさわしい高い能力を有する臨床検査技師を養成する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- (1) 臨床検査で必要となる専門知識と技術を修得し、社会で実践できる能力をもつ。（知識、理解）
- (2) 高い倫理観を持ち、チーム医療の一員として活躍できる能力をもつ。（倫理観）
- (3) 臨床検査により得られた情報と疾患との関連性を正確に把握できる。（思考、判断）
- (4) 臨床検査の専門性を理解し、最新の専門知識と技術を主体的に学び続けることができる。（自律性、関心・意欲）
- (5) 自ら課題を発見し、その解決方法を構築する能力、論理的にプレゼンテーションできるコミュニケーション能力をもつ。（態度、表現）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

臨床検査技術学科ではその目的に基づき、医療従事者として幅広い教養、高い専門性および倫理観を身につけるため以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。「臨床検査技師養成教育」に必要な107単位を基本として、主に1～2年次に於いて倫理観を養うための生命倫理学及びキャリア演習、科学英語論文を理解するための基礎科学英語及び医学英語などの教養科目のほか、1年次に於いてICTを活用するスキルを身につけるためのコンピュータ実習などの専門基礎科目を取り入れる。

- (1) 基礎学力並びに専門基礎学力を身につけるために1～2年次の早い時期から解剖学、組織学、生理学、微生物学、生化学、病理学、免疫学、医動物学などの専門基礎科目を必修とする。
- (2) 専門知識と技術を体系的に学ぶため、2～4年次に於いて衛生・公衆衛生学、医用工学概論などの専門基礎科目のほか、検査管理総論、臨床化学、臨床血液学、病理検査学、臨床検査総論、臨床微生物学、臨床病理学、臨床免疫学、輸血・移植検査学・同演習、臨床薬理学、臨床生理学、遺伝子検査学及び臨床検査リスクマネジメントなどの専門科目を展開する。
- (3) 問題解決に取り組む能力や必要なデータを収集し、論理的にプレゼンテーションできる能力を涵養するため、各学生がそれぞれ研究室に所属し、研究テーマを決めて研究活動に必要な知識と手技を習得（文献読解、実験、データ解析、考察及びプレゼンテーション・発表）する卒業論文を2～4年次に配置する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

日々進歩を遂げている臨床検査医学にあって、命の尊厳を尊重し、臨床検査技師として他の医療従事者と協働しチーム医療の中で活躍できる人を育成するために、次のような人材を求めている。

- (1) 臨床検査技師として医療分野で活躍したい人
- (2) 臨床検査により得られた情報と疾患との関連に興味を持てる人
- (3) 医療の高度化に伴う専門知識と技術を積極的に習得する意欲のある人
- (4) 臨床検査学を身につけるために必要な基礎学力（特に生物と化学）を有する人

● 臨床検査技術学科 授業科目

1 年次～4 年次				
教養に係る科目	教養科目			
	生命倫理学	地球共生論	基礎化学・分析化学	医療体育
	心理学	応用数学	基礎生物学	日本語表現法
	現代経済学	基礎統計学	地学	基礎英語
	日本国憲法	基礎物理学	地学実験	基礎科学英語
	労働基準法	物理学実験	基礎教養科学演習	英語講読Ⅰ
自由科目	地球共生系データサイエンス・同演習Ⅰ・Ⅱ			
	地球共生系サイエンスワーク			
専門に係る科目	専門基礎科目			
	キャリア演習	生理学実習	基礎遺伝学	臨床薬理学
	情報科学概論	生化学	免疫学Ⅰ	生殖生理・不妊症学
	解剖学・同実習	生化学実習	免疫学Ⅱ	労働生理学Ⅰ
	組織学・同実習	病理学Ⅰ	免疫学実習	労働生理学Ⅱ
	コンピュータ実習	病理学Ⅱ	医動物学・同実習	労働安全衛生法Ⅰ
	基礎化学実験	病理学実習	医用工学概論	労働安全衛生法Ⅱ
	生物有機化学	微生物学総論	衛生・公衆衛生学Ⅰ	労働衛生Ⅰ
	生理学Ⅰ	微生物学実習	衛生・公衆衛生学Ⅱ	労働衛生Ⅱ
	生理学Ⅱ	電子工学概論	衛生・公衆衛生学実習	
	専門科目			
	検査管理総論	病理検査学Ⅱ	臨床病理学	臨床検査リスクマネジメント
	臨床化学Ⅰ（RI 検査学を含む）	病理検査学実習	臨床免疫学	総合臨床検査学Ⅰ
	臨床化学Ⅱ	臨床検査総論Ⅰ	臨床免疫学実習	総合臨床検査学Ⅱ
	臨床化学実習	臨床検査総論Ⅱ	臨床生理学Ⅰ	総合臨床検査学Ⅲ
	臨床血液学Ⅰ	臨床検査総論実習	臨床生理学Ⅱ	総合臨床検査学演習
	臨床血液学Ⅱ	臨床微生物学Ⅰ	臨床生理学実習	臨床実習
	臨床血液学実習	臨床微生物学Ⅱ	遺伝子検査学	卒業論文
	輸血・移植検査学・同演習	臨床微生物学実習	遺伝子検査学実習	
	病理検査学Ⅰ			

卒業要件		
区分	単位数	累計 GPA
必修科目	108	1.1 以上
選択科目	16	
— 教養科目	4	
— 専門科目	12	
計	124	

取得可能学位 学士（保健衛生学）

食品生命科学科の目的

食品生命科学科は、健康な社会を維持・発展させるために、人の公衆衛生及び保健衛生学を基礎として食品科学・栄養学及び衛生学を学び、食の安全・安心に関わるリスク評価と食品の機能性に関わる専門性の高い食品衛生、食品科学及び公衆衛生分野で活躍する幅広い職業人を養成する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- (1) 食品生命科学についての専門的知識と実践力に加え、数理・統計学の知識、情報科学分野のスキルを持ち、食の安全・安心と人の健康の増進に活用し、科学的根拠に基づく情報発信をすることができる。（知識・理解）
- (2) 食の安全・安心と人の健康に関わる生物学・化学的分析技術と知識が社会に及ぼす影響を理解し、適切な倫理観を持ち自立的かつ論理的な判断を行うことができる。（倫理観、思考・判断）
- (3) 食品生命科学に関わる科学実験やその調査結果を解析・評価するために必要となる専門的知識と技術を自ら修得するために、情報通信技術（ICT）を活用して主体的・自律的に取り組むことができる。（自律性、関心・意欲）
- (4) 食の安全・安心と食品の機能性に関わる知識を多様性のある社会において総合的に活用することができ、他者と協働して共に成長できる。（多様性理解、態度）
- (5) 食品生命科学分野において、自らの思考・判断のプロセスを説明伝達するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を持ち、ICTを活用して発信することができる。（技能・表現）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

食品生命科学科では、生命・環境科学部の理念・目的に基づき、幅広く深い教養とともに、食の安全・安心に関わるリスク評価と食品の機能性に関する専門性を修得し、高い倫理感を身につけた人材を養成する。ICTを活用したカリキュラムの充実を図ることにより、食の安全・安心、食の健康、食の情報に関わる教育の効率化を図り、主体的・自律的な学習を促進する。

- (1) 初年度、高等学校までの履修内容の定着が十分でない学生、あるいは高等学校で履修していない科目群を持つ学生に対して、大学教育への円滑な導入を図るための「基礎生物学・同実習」、「基礎化学」、「基礎化学実習」など入門科目群を設置する。
- (2) 全ての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、実社会で活躍する企業人の講義を受け、卒業後に活躍できる分野を想起させることを目標とした「フレッシュャーズセミナー」を配置する。
- (3) 食育教育と食の健康・医療分野への応用（フードアプリケーションサイエンス）と行政機関・食品検査機関への応用（フードレギュラトリーサイエンス）分野の両者の専門科目を体系的に学ぶため、順次性に留意し該当する専門科目を設置する（2－3年）。
- (4) 大学の教育理念である人、動物、環境の共生について理解を深める「地球共生論」を配置し学科の専門分野を超えて学際的な視点を養う。
- (5) 地域社会や産業界との相互作用を通じて、広い視野で対話的な学びの能力を養う科目「インターンシップ」を設置する。
- (6) 卒業論文（3－4年）に取り組むことにより、自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力および自律性を身に付ける。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

食品生命科学科では、生命・環境科学部の理念・目的に基づき、幅広く深い教養とともに、食の安全・安心に関わるリスク評価と食品の機能性に関する専門性を持つ人材をICTを活用し育成することを教育理念・目的とする。この目的が達成されるため、次のような資質を持つ人材を求めている。

- (1) 食品生命科学についての専門的知識を学ぶために、高校までの基礎学力（特に、生物、化学、英語、など）を有す

る人。(知識・理解)

- (2) 食の安全・安心と人の健康に関わる問題の解決に科学的に強い興味を持ち、論理的な判断を行うことができる人。(倫理観、思考・判断)
- (3) 食品生命科学に関わる問題を解決するための検証実験や調査に主体的・自律的に取り組むことができる人。(自律性、関心・意欲)
- (4) 主体性を持って多様な人々と協働し、能動的に地域や社会における食の安全・安心と食の健康に関わる問題を身につけた知識やプレゼンテーション・コミュニケーション能力をこれらの解決に役立てたいと考えている人。(多様性、理解、態度、技能・表現)

● 食品生命科学科 授業科目

1 年次～ 4 年次			
教養に係る科目	教養科目		
	フレッシュャーズセミナー 基礎生物学・同実習 基礎化学 基礎数学 食生活と健康科学 心理学 社会学概論 地球共生論	基礎生物統計学 基礎化学実習 地学 地学実験 食環境論 生命倫理学 日本国憲法 現代経済学	基礎物理学 物理学実験 医療体育 基礎英語 基礎科学英語 英語講読 ライティング基礎 基礎ドイツ語
自由科目	地球共生系データサイエンス・同演習Ⅰ・Ⅱ 地球共生系サイエンスワーク 食品開発 PBL 実習 食のデータサイエンス・同演習		
専門に係る科目	専門科目		
	コンピューター演習基礎 コンピューター演習応用 解剖組織学 解剖組織学実習 有機化学 機器分析学・同実習 分子細胞生物学・同実習 栄養学 栄養学実習 遺伝子工学基礎 微生物学総論 微生物学実習 実験動物学 食品学 食品学実習 生理学 生理学実習 生化学	生化学実習 食品生化学 病原微生物学 病原微生物学実習 公衆衛生学 公衆衛生学実習 食品衛生学 食品衛生学実習 食品分析学 食品分析学実習 病理学 衛生動物学 食中毒科学 薬理学 毒性学 予防医学 食品機能学 食物アレルギー論	公衆栄養学 公衆栄養学実習 疫学概論 食品バイオテクノロジー 応用栄養学 臨床栄養学 環境衛生学 食品加工学・保蔵科学 食品加工学・保蔵科学実習 食品安全学 食のレギュラトリーサイエンス 食品寄生虫学 放射線衛生学 バイオインフォマティクス 衛生行政学 HACCP 管理論 インターンシップ 卒業論文

卒業要件（必要単位修得数）		
区分	単位数	累計 GPA
必修科目	84	1.1 以上
選択科目	40	
└ 教養科目	10	
└ 専門科目	30	
計	124	

取得可能学位 学士（保健衛生学）

環境科学科の目的

環境科学科は、環境を保全し健全な社会を持続的に発展させるために、環境衛生学、環境分析学、環境評価学及び環境保全学を学び、環境問題を正確に把握し対応できる能力を身に付け、これまでに集積された科学技術を有効に活用し、環境保全や社会の持続的発展に貢献できる人材の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- (1) 健康な環境を創造する意欲や社会に貢献する責任感を持ち、環境の諸問題を解決するために持続的に取り組むことができる。（環境に対する問題意識と愛情を持続する力）
- (2) 環境の問題を正確に捉えるために、理化学的、生物学的、社会学的な調査・分析を行い、環境の実態（環境の健康度）とそのヒト、生態系および社会への影響を正しく評価することができる。（環境問題を発見・分析・把握する力）
- (3) 健全な環境の保護・保全のために、技術的（自然科学）、社会的（社会科学）な知識を用いて、様々な環境の問題を制御・管理し、より健全な環境の創成に取り組むことができる。（環境問題を解決する力）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

環境科学科では、生命・環境科学部の理念・目的に基づき、ICTを活用したカリキュラムの充実をはかり、幅広い教養とともに、環境問題に関わる自然科学および社会科学に関する専門性を習得し、高い倫理観と環境と人と社会に対する深い愛情を身につけた人材を育成する。

- (1) 1年次には大学生として必要な一般教養と、環境問題を学ぶ上で必須となる自然科学及び社会科学の導入科目を配置する。さらに、コミュニケーション能力を養うために、アクティブラーニングの要素を取り入れた科目を配置する。
- (2) 専門科目においては、環境問題の把握や解決に必要な科学知識などを段階的に習得するように、講義・実習・演習を配置する。
- (3) 環境問題を把握し解決する力を養うために、環境分析、環境衛生、環境評価、環境改善に関する自然科学系科目の講義・演習・実習を配置すると共に、社会科学系科目の講義を配置する。
- (4) 能動的な思考や現実的な解決能力を養うために、卒業論文、課題研究やインターンシップを配置する。
- (5) 化学物質の使用や労働衛生、社会調査に関する資格を取得できるように、必要な科目を配置する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

健康な環境の創成を目標に、様々な環境の問題を発見し、その問題を解決することに粘り強く取り組める人材を育成するために、次のような人を求めている。

- (1) 化学、生物、英語などの基礎学力を有している人。
- (2) 環境保全や環境問題に強い関心がある人。
- (3) 環境科学やその対策技術について学習意欲がある人。
- (4) 環境科学科の教育理念、教育方針、教育内容等を理解し、環境保全や環境問題解決に貢献する強い意欲を持っている人。

1 年次～ 4 年次

教養に係る科目	一 般	基礎人文社会	基礎科学
	フレッシュャーズセミナー 基礎体育	法学入門 社会学概論 人権論 現代経済学 経営学入門 日本国憲法 生命倫理学 SDGs と未来共生科学	コンピュータ概論・同実習 基礎化学 基礎生物学 地学 地学実験 基礎数学 地球共生論 基礎物理学 物理学実験
自由科目	語 学		
	Core I TOEIC A Core I TOEIC B 基礎科学英語	Core II TOEIC A Core II TOEIC B 環境英語	基礎フランス語 基礎ドイツ語

地球共生系データサイエンス・同演習Ⅰ・Ⅱ 地球共生系サイエンスワーク 環境野生動物学 野生動物共生学

専門に係る科目	環境基礎	環境衛生	環境分析
	基礎統計学・同演習 地球環境科学 化学 基礎化学実習 基礎生物学実習 環境生態学 水環境学 大気環境学 微生物学総論 微生物学実習 生化学 環境植物学 科学技術論 生理学 分子細胞生物学・同実習 地域コミュニティ論 環境フィールドスタディ 環境生命科学 環境経済学 科学技術英語	衛生動物学・同実習 公衆衛生学 環境衛生学実習 食品衛生学 水質衛生学 環境衛生学 食品衛生学実習 労働基準法 労働衛生学 放射線衛生学 上水処理工学 労働生理学 労働安全衛生法 環境・病原微生物学 病原微生物学実習 衛生管理学	分析化学 機器分析学・同実習 有機化学 無機化学 環境計量分析学 環境計量分析学実習 環境計量学・同演習
専門に係る科目	環境評価	環境保全	発展・展開
	社会調査入門 フィールドワーク入門 社会調査法 環境・衛生統計学 環境毒性学 環境毒性学実習 社会調査実習Ⅰ 社会調査実習Ⅱ 環境データサイエンス演習 環境リスク学・同演習 生物多様性フィールドワーク演習	水処理工学実習 環境修復技術論 化学物質安全管理学演習 衛生行政学 下水・産業排水処理工学 廃棄物リサイクル論 建築物衛生管理学・同演習 公害防止管理学・同演習	リサーチローテーション 課題研究Ⅰ インターンシップ 資源エネルギー環境論 環境ビジネス論 課題研究Ⅱ 卒業論文

卒業要件（必要単位修得数）		
区分	単位数	累計 GPA
必修科目	89	1.1 以上
選択科目	35	
└ 教養科目	16	
└ 専門科目	19 ※ 2	
計	124	

※選択必修科目 6 単位以上及び選択科目 13 単位を含む

取得可能学位 学士（環境科学）

4) 麻布大学大学院 3つのポリシー

麻布大学大学院は、麻布大学の建学の精神に則り、本学学部における教育の基礎の上に、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、高い技術力及び研究遂行能力を養い、また、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

（修士）

動物応用科学、畜産学、生命科学、健康科学、環境科学及び社会科学それぞれの専門領域において、広い視野を持って高度な専門知識及び研究技術並びに科学者としての倫理観を備え、所定の単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。学位を授与される者は、専門性が求められる職業を担うための能力を身に付け、人と動物と環境の共生をめざして、健康社会、食の安全に貢献することができる。

（博士）

獣医学、動物応用科学、畜産学、生命科学、健康科学、環境科学及び社会科学それぞれの専門領域において、深い学識及び卓越した高度な専門知識及び研究技術並びに社会的実践能力を備え、かつ、学術の理論及び科学者としての倫理観を備え、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。学位を授与される者は、研究者として自立した研究活動ができる、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究・分析・提案能力を身に付け、人と動物と環境の共生をめざして、健全な社会の発展と国際貢献に寄与することができる。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

麻布大学では、大学院学生に、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に掲げる高度な専門性を持つ職業人として、獣医学、畜産学、生命科学、健康科学及び環境科学に関する専門的知識及び研究技術などを基盤とした研究能力、課題解決能力、そして科学者としての倫理観を身に付けさせるために、各専攻分野の教育に必要な講義、演習、実習等を適切に組合せた授業を編成し、研究指導する。また幅広くかつ深い学識あるいは学際的な分野の学習の機会を提供するために他研究科・他専攻の授業科目を履修する機会を設け、あるいは全学大学院生を対象にした大学院特別講義を開講している。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

麻布大学では「学理の討究と誠実なる実践」を建学の精神とし、これに則り、大学院の教育の目的を、本学の教育理念に基づいた学部での教育研究を基盤として、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、高い技術力及び研究遂行能力を養い、また高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養い、文化の進展に寄与することとしている。この目的を達成するために、獣医学研究科と環境保健学研究科を設置し、教育研究を実施している。両研究科ともに、建学の精神をよく理解し、大学院の教育の目的に賛同し、本学大学院の目指す教育を受けるに相応しい能力・適性を有し、かつ研究意欲が旺盛な者で、大学院教育を受けるに十分な学士課程を修了レベルの幅広い知識と教養を有する学生を求めている。

5) 大学院獣医学研究科

獣医学研究科は、獣医学、動物応用科学を基盤として、動物と人（ヒト）の健康社会・生命科学を探究し、地球上に共存する動物と人（ヒト）に関わる学術の論理及び応用を追究・教授することを理念とする。この理念に基づき、獣医学研究科は、人類と動物の福祉、社会の平和、生物としての共生並びに文化の進展に貢献する人材を育てることを目的とする。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

獣医学研究科の理念・目的に沿って設定した修士課程又は博士課程の修了要件において、所定の単位を修得し、修士又は博士の学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、獣医学専攻博士課程にあっては博士（獣医学）、動物応用科学専攻博士後期課程にあっては博士（学術）、同博士前期課程にあっては修士（動物応用科学）の学位を、それぞれ授与する。学位を授与される者は、幅広い視野に立った学識を有し、獣医学又は動物応用科学に関する専門的知識及び研究技術を持ち、人類と動物の健康社会に貢献する研究者及び教育者、又は高度な専門性を持つ職業人として社会に貢献できる能力を身に付けている。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

獣医学研究科の理念・目的を実現するよう、専門分野や専攻科目の枠を超えた幅広い共通科目及び研究指導体制を組む。その上で、獣医学及び動物応用科学に関する各専門分野及び専攻科目において、特色ある講義、演習及び実験・実習によって、より深い専門的知識を習得するコースワークと、研究者として自立した研究活動を行い、高度な専門性を持つ職業人として必要な研究能力及び豊かな学識が身に付けられるように適切に配慮したリサーチワークのカリキュラムを編成する。

研究者として必要な研究倫理、課題解決能力、論理的思考力及び科学的な課題設定能力を養わせ、並びに学術発表及び質疑応答等を通じてプレゼンテーション能力や国際感覚が備わるようにする。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

獣医学研究科の理念・目的を達成するために、次のような資質を持つ人材を求めている。

- (1) 獣医学・動物応用科学に関連する諸科学の基礎知識を備えており、かつ国際化に対応できるだけの語学力を備えている人
- (2) 人類と動物の健康社会・生命科学の研究領域に関する深い探求心を持つ人
- (3) 高度な専門性を持つ職業人としての意識も持ち、国内外問わず広い視野を持って社会的使命に柔軟に応えることができる人

獣医学専攻の目的

獣医学専攻では動物とヒトの生命科学として、より高度な臨床獣医師や高度の専門性を有する職業人、研究者及び教育者を養成するため、問題解決能力、実践・実務能力を重視した教育研究体制を組織する。また、獣医学専攻では、ヒトの健康に寄与することも考慮し、主として、予防獣医学、遺伝子診断、遺伝性疾患、免疫治療、移植、感染症、臨床薬理、臨床中毒、臨床病理、病態病理及びバイオインフォマティクスなどの幅広い研究・教育を通して、より専門性の高い研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

●獣医学専攻博士課程

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- (1) 博士課程にあっては、所定の修業年限である4年以上在学し、必修20単位、選択10単位計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、博士論文を提出した者について行う学位論文の審査（ループリック評価）及び最終試験に合格した者に、博士（獣医学）の学位を与える。
- (2) ただし、博士課程に3年以上在学し、定められた授業科目につき課程修了必要単位を修得し、かつ、特に優れた研究業績を上げ、指導教員を含む3人以上の本研究科教授会構成員が推薦し、博士論文を提出した者について行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者には、修業年限の特例により博士（獣医学）の学位を与える。
- (3) また、博士課程修了にあたっては、以下の水準に到達していることを目安とする。

- 1) 幅広い視野に立った学識を有し、それぞれの専門領域における高度な学識（専門的知識と見識）並びに研究技術を習得している。さらに、その学識と研究技術に基づいて独自に課題を設定し、それを解決・展開できる能力を身に付けている。
- 2) 必要に応じて他の研究者及び研究機関との連携を図ることができる能力を身に付けている。
- 3) 研究成果を国際的に公表するために必要な英語でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力及論文作成能力を身に付けている。

上記3点の能力を通じて、獣医学における高度な専門性を持つ職業人、研究者及び教育者として社会に貢献できるようにする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- (1) 専門分野や専攻科目の枠を超えた幅広い学識を共通科目の講義により習得させる。
- (2) 獣医学に関する専攻科目の専門的知識を、各専攻科目に配当された授業科目の講義、演習並びに実験・実習により習得させる。
- (3) それぞれの指導教員との討論のもとで、自ら主体的に各分野の先端的な研究課題に取り組み、博士論文としてまとめる。これにより、課題解決方法、論理的思考、発展的な課題設定方法についてより深く学ばせる。
- (4) 研究成果を学内の課程博士論文中間発表及び論文発表会で発表させるとともに、国内外の学会及び学術誌において発表することを支援する。これにより、日本語のみならず、英語を始めとする外国語でのプレゼンテーション及び質疑応答能力を養わせる。また、対外的な評価を受けることで、自己の研究能力を客観的に評価する機会を与える。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

獣医学専攻博士課程では、より高度な専門性を持つ職業人、研究者及び教育者の養成を目指す。そのために次のような人物を求めている。

- (1) 獣医学に関連する諸科学の基礎知識を持ち、かつ、国際的な視点を持ち合わせている人
- (2) 獣医学に関する新たな知識の創造及び新技術の開発に取り組み、それによって人類と動物の健康維持に貢献しようとする意識のある人
- (3) 獣医学にとどまらず、新たな学際的な研究領域に対しても果敢に挑戦しようとする意欲を持っている人

● 獣医学専攻 分野・専攻科目と授業科目〈博士課程〉

分野	専攻科目	研究領域	授業科目	単位数	分野	専攻科目	研究領域	授業科目	単位数
動物 構造 機能 学	生体構造学	獣医解剖学	獣医解剖学特論	2	動物 疾病 制御 学	生体疾病 制御学	獣医病理学	獣医病理学特論	2
			獣医解剖学特別演習Ⅰ	2				獣医病理学特別演習Ⅰ	2
			獣医解剖学特別演習Ⅱ	2				獣医病理学特別演習Ⅱ	2
			獣医解剖学特別演習Ⅲ	2				獣医病理学特別演習Ⅲ	2
			獣医解剖学特別実験Ⅰ	3				獣医病理学特別実験Ⅰ	3
			獣医解剖学特別実験Ⅱ	3				獣医病理学特別実験Ⅱ	3
			獣医解剖学特別実験Ⅲ	3				獣医病理学特別実験Ⅲ	3
			獣医解剖学特別実験Ⅳ	3				獣医病理学特別実験Ⅳ	3
		獣医組織・ 発生学	獣医組織・発生学特論	2			獣医薬理学	獣医薬理学特論	2
			獣医組織・発生学特別演習Ⅰ	2				獣医薬理学特別演習Ⅰ	2
			獣医組織・発生学特別演習Ⅱ	2				獣医薬理学特別演習Ⅱ	2
			獣医組織・発生学特別演習Ⅲ	2				獣医薬理学特別演習Ⅲ	2
			獣医組織・発生学特別実験Ⅰ	3				獣医薬理学特別実験Ⅰ	3
			獣医組織・発生学特別実験Ⅱ	3				獣医薬理学特別実験Ⅱ	3
			獣医組織・発生学特別実験Ⅲ	3				獣医薬理学特別実験Ⅲ	3
			獣医組織・発生学特別実験Ⅳ	3				獣医薬理学特別実験Ⅳ	3
		分子生物学	分子生物学特論	2			獣医微生物学	獣医微生物学特論	2
			分子生物学特別演習Ⅰ	2				獣医微生物学特別演習Ⅰ	2
			分子生物学特別演習Ⅱ	2				獣医微生物学特別演習Ⅱ	2
			分子生物学特別演習Ⅲ	2				獣医微生物学特別演習Ⅲ	2
			分子生物学特別実験Ⅰ	3				獣医微生物学特別実験Ⅰ	3
			分子生物学特別実験Ⅱ	3				獣医微生物学特別実験Ⅱ	3
			分子生物学特別実験Ⅲ	3				獣医微生物学特別実験Ⅲ	3
			分子生物学特別実験Ⅳ	3				獣医微生物学特別実験Ⅳ	3
動物 構造 機能 学	生体機能学	獣医生理学	獣医生理学特論	2	動物 疾病 制御 学	生体疾病 制御学	感染症学	感染症学特論	2
			獣医生理学特別演習Ⅰ	2				感染症学特別演習Ⅰ	2
			獣医生理学特別演習Ⅱ	2				感染症学特別演習Ⅱ	2
			獣医生理学特別演習Ⅲ	2				感染症学特別演習Ⅲ	2
			獣医生理学特別実験Ⅰ	3				感染症学特別実験Ⅰ	3
			獣医生理学特別実験Ⅱ	3				感染症学特別実験Ⅱ	3
			獣医生理学特別実験Ⅲ	3				感染症学特別実験Ⅲ	3
			獣医生理学特別実験Ⅳ	3				感染症学特別実験Ⅳ	3
		獣医生化学	獣医生化学特論	2			寄生虫学	寄生虫学特論	2
			獣医生化学特別演習Ⅰ	2				寄生虫学特別演習Ⅰ	2
			獣医生化学特別演習Ⅱ	2				寄生虫学特別演習Ⅱ	2
			獣医生化学特別演習Ⅲ	2				寄生虫学特別演習Ⅲ	2
			獣医生化学特別実験Ⅰ	3				寄生虫学特別実験Ⅰ	3
			獣医生化学特別実験Ⅱ	3				寄生虫学特別実験Ⅱ	3
			獣医生化学特別実験Ⅲ	3				寄生虫学特別実験Ⅲ	3
			獣医生化学特別実験Ⅳ	3				寄生虫学特別実験Ⅳ	3

分野	専攻科目	研究領域	授業科目	単位数
動物 疾病 制御 学	生体疾病 制御学	獣医免疫学	獣医免疫学特論	2
			獣医免疫学特別演習Ⅰ	2
			獣医免疫学特別演習Ⅱ	2
			獣医免疫学特別演習Ⅲ	2
			獣医免疫学特別実験Ⅰ	3
			獣医免疫学特別実験Ⅱ	3
			獣医免疫学特別実験Ⅲ	3
			獣医免疫学特別実験Ⅳ	3
	生体機能 制御学	実験動物学	実験動物学特論	2
			実験動物学特別演習Ⅰ	2
			実験動物学特別演習Ⅱ	2
			実験動物学特別演習Ⅲ	2
			実験動物学特別実験Ⅰ	3
			実験動物学特別実験Ⅱ	3
			実験動物学特別実験Ⅲ	3
			実験動物学特別実験Ⅳ	3
獣 医 環 境 科 学	獣医環境 制御学	家畜衛生学	獣医栄養学特論	2
			獣医栄養学特別演習Ⅰ	2
			獣医栄養学特別演習Ⅱ	2
			獣医栄養学特別演習Ⅲ	2
			獣医栄養学特別実験Ⅰ	3
			獣医栄養学特別実験Ⅱ	3
			獣医栄養学特別実験Ⅲ	3
			獣医栄養学特別実験Ⅳ	3
	獣医環境 科学	公衆衛生学	家畜衛生学特論	2
			家畜衛生学特別演習Ⅰ	2
			家畜衛生学特別演習Ⅱ	2
			家畜衛生学特別演習Ⅲ	2
			家畜衛生学特別実験Ⅰ	3
			家畜衛生学特別実験Ⅱ	3
			家畜衛生学特別実験Ⅲ	3
			家畜衛生学特別実験Ⅳ	3
獣 医 環 境 科 学	獣医環境 科学	公衆衛生学	公衆衛生学特論	2
			公衆衛生学特別演習Ⅰ	2
			公衆衛生学特別演習Ⅱ	2
			公衆衛生学特別演習Ⅲ	2
			公衆衛生学特別実験Ⅰ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅱ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅲ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅳ	3
	獣医環境 科学	公衆衛生学	公衆衛生学特論	2
			公衆衛生学特別演習Ⅰ	2
			公衆衛生学特別演習Ⅱ	2
			公衆衛生学特別演習Ⅲ	2
			公衆衛生学特別実験Ⅰ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅱ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅲ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅳ	3

備考

所属している研究領域の特論、特別演習及び特別実験（計20単位）を必修とし、他の研究領域の授業科目から10単位以上を選択し、合計30単位以上を履修する。ただし、応用動物科学研究領域の授業科目は選択できない。

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修	20
選択	10
計	30

※所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

取得可能学位 博士（獣医学）

分野	専攻科目	研究領域	授業科目	単位数
獣 医 臨 床 科 学	獣医診断 治療学	獣医内科学	獣医内科学特論	2
			獣医内科学特別演習Ⅰ	2
			獣医内科学特別演習Ⅱ	2
			獣医内科学特別演習Ⅲ	2
			獣医内科学特別実験Ⅰ	3
			獣医内科学特別実験Ⅱ	3
			獣医内科学特別実験Ⅲ	3
			獣医内科学特別実験Ⅳ	3
	獣医診断 治療学	獣医外科学	獣医外科学特論	2
			獣医外科学特別演習Ⅰ	2
			獣医外科学特別演習Ⅱ	2
			獣医外科学特別演習Ⅲ	2
			獣医外科学特別実験Ⅰ	3
			獣医外科学特別実験Ⅱ	3
			獣医外科学特別実験Ⅲ	3
			獣医外科学特別実験Ⅳ	3
獣 医 臨 床 科 学	獣医診断 治療学	獣医放射線学	獣医放射線学特論	2
			獣医放射線学特別演習Ⅰ	2
			獣医放射線学特別演習Ⅱ	2
			獣医放射線学特別演習Ⅲ	2
			獣医放射線学特別実験Ⅰ	3
			獣医放射線学特別実験Ⅱ	3
			獣医放射線学特別実験Ⅲ	3
			獣医放射線学特別実験Ⅳ	3
	獣医診断 治療学	臨床繁殖学	臨床繁殖学特論	2
			臨床繁殖学特別演習Ⅰ	2
			臨床繁殖学特別演習Ⅱ	2
			臨床繁殖学特別演習Ⅲ	2
			臨床繁殖学特別実験Ⅰ	3
			臨床繁殖学特別実験Ⅱ	3
			臨床繁殖学特別実験Ⅲ	3
			臨床繁殖学特別実験Ⅳ	3
応 用 動 物 科 学	応用動物科学	応用動物科学	応用動物科学特論	2
			応用動物科学特別演習Ⅰ	2
			応用動物科学特別演習Ⅱ	2
			応用動物科学特別演習Ⅲ	2
			応用動物科学特別実験Ⅰ	3
			応用動物科学特別実験Ⅱ	3
			応用動物科学特別実験Ⅲ	3
			応用動物科学特別実験Ⅳ	3
	応用動物科学	応用動物科学	応用動物科学特論	2
			応用動物科学特別演習Ⅰ	2
			応用動物科学特別演習Ⅱ	2
			応用動物科学特別演習Ⅲ	2
			応用動物科学特別実験Ⅰ	3
			応用動物科学特別実験Ⅱ	3
			応用動物科学特別実験Ⅲ	3
			応用動物科学特別実験Ⅳ	3
共 通	共通科目	共通領域	動物科学特論Ⅰ	2
			動物科学特論Ⅱ	2
			動物科学特論Ⅲ	2
	共通科目	共通領域	動物科学特論Ⅰ	2
			動物科学特論Ⅱ	2
			動物科学特論Ⅲ	2
			動物科学特論Ⅰ	2
			動物科学特論Ⅱ	2
			動物科学特論Ⅲ	2

動物応用科学専攻博士前期課程の目的

動物応用科学専攻博士前期課程では、日本社会の実情にあった、人と動物の健康社会を科学する人材を養成するため、動物、微生物などに由来する遺伝子、細胞、タンパク質などの機能解析とその応用、食品科学における危険要因の低減、除去及び生理活性マテリアルとしての環境改善への応用、更に「健康な動物」の持つ機能の人間生活への活用、野生動物の保全・人間社会との軋轢の軽減などの研究・教育を通して、高度な専門性職業人に必要な能力を養うことを目的とする。

●博士前期課程（修士課程）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- (1) 博士前期課程（修士課程）にあつては、所定の修業年限である2年以上在学し、必修・選択両科目を併せて30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、修士論文を提出した者について行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士（動物応用科学）の学位を与える。
- (2) ただし、博士前期課程（修士課程）に1年以上在学し、所定の課程修了必要単位数を修得し、かつ、特に優れた研究業績を上げ、指導教員を含む3人以上の本研究科教授会構成員が推薦し、修士論文を提出した者について行う学位論文の審査（ルーブリック評価）及び最終試験に合格した者には、修業年限の特例により修士（動物応用科学）の学位を与える。
- (3) 博士前期課程（修士課程）修了に当たっては、以下の水準に到達していることを目安とする。
 - 1) 幅広い視野に立った学識を有し、動物、微生物などに由来する遺伝子、細胞、タンパク質などの機能解析とその応用、食品科学における危険要因の低減、除去及び生理活性マテリアルとしての環境改善への応用、更に「健康な動物」の持つ機能の人間生活への活用、野生動物の保全・人間社会との軋轢の軽減などの研究領域に関する高度な専門知識を習得している。
 - 2) それぞれの専門領域における科学的な課題設定方法、論理的思考、各分野の先端的知識の収集及び実験手法など基本的な研究技術を習得している。
 - 3) それぞれの研究成果を学会等において公表するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- (1) 専門分野や専攻科目の枠を超えた幅広い学識を共通科目の講義により習得させる。
- (2) 動物応用科学に関する専攻科目の専門的知識を、各専攻科目に配当された授業科目の講義、演習並びに実験・実習により習得させる。
- (3) それぞれの指導教員のもとで、研究指導を受けながら研究課題に積極的に取り組み、修士論文としてまとめる。これにより、科学的な課題設定方法、論理的思考、各分野の先端的知識及び実験手法について学ばせる。
- (4) 研究成果を学内の課程修士論文中間発表及び論文発表会で発表させるとともに、学外の学会等において発表することを支援する。これにより、プレゼンテーション及び質疑応答能力を養わせる。

アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）

博士前期課程（修士課程）では、人と動物の健康社会を科学する高度な専門性職業人の養成を目指す。そのために次のような人物を求めている。

- (1) 学部の専門にかかわらず、人と動物の健康を科学する動物応用科学の基礎となる生物学、化学の基礎知識を持ち、かつ、国際化に対応できるだけの語学力を備えている人
- (2) 動物応用科学に強い関心を持ち、新しい知識の吸収意欲があり、かつ、それらの知識を科学的発見及び問題解決に結びつけようとする意識のある人
- (3) 動物応用科学の社会的使命をよく認識し、リーダーシップと協調性を持って問題解決に果敢に挑戦しようとする意欲を持っている人

●動物応用科学専攻 分野・専攻科目と授業科目〈博士前期課程〉

分野	専攻科目	授業科目	単位数	分野	専攻科目	授業科目	単位数
動物生命科学	動物資源育種学	動物生理遺伝学特論	1	動物共生科学	動物行動管理学	応用動物行動学特論Ⅰ	1
		動物資源制御学特論	1			応用動物行動学特論Ⅱ	1
		動物資源工学特論	1			応用動物管理学特論Ⅰ	1
		動物ゲノム解析学特論	1			応用動物管理学特論Ⅱ	1
		動物生命科学特別演習Ⅰ－Ⅰ	2			動物共生科学特別演習Ⅰ－Ⅰ	2
		動物生命科学特別演習Ⅰ－Ⅱ	4			動物共生科学特別演習Ⅰ－Ⅱ	4
		動物生命科学特別研究Ⅰ－Ⅰ	6			動物共生科学特別研究Ⅰ－Ⅰ	6
		動物生命科学特別研究Ⅰ－Ⅱ	8			動物共生科学特別研究Ⅰ－Ⅱ	8
	動物生殖科学	動物生殖科学特論Ⅰ	1		野生動物学	野生動物学特論Ⅰ	1
		動物生殖科学特論Ⅱ	1			野生動物学特論Ⅱ	1
		動物生殖制御学特論	1			保全生態学特論Ⅰ	1
		低温細胞生物学特論	1			保全生態学特論Ⅱ	1
		動物生命科学特別演習Ⅱ－Ⅰ	2			動物共生科学特別演習Ⅱ－Ⅰ	2
		動物生命科学特別演習Ⅱ－Ⅱ	4			動物共生科学特別演習Ⅱ－Ⅱ	4
		動物生命科学特別研究Ⅱ－Ⅰ	6			動物共生科学特別研究Ⅱ－Ⅰ	6
		動物生命科学特別研究Ⅱ－Ⅱ	8			動物共生科学特別研究Ⅱ－Ⅱ	8
	動物工学	動物工学特論Ⅰ	1		介在動物学	動物人間関係学特論Ⅰ	1
		動物工学特論Ⅱ	1			動物人間関係学特論Ⅱ	1
		発生・生殖生物学特論	1			動物観比較文化特論	1
		遺伝子科学特論	1			動物介在療法特論	1
		動物生命科学特別演習Ⅲ－Ⅰ	2			動物共生科学特別演習Ⅲ－Ⅰ	2
		動物生命科学特別演習Ⅲ－Ⅱ	4			動物共生科学特別演習Ⅲ－Ⅱ	4
		動物生命科学特別研究Ⅲ－Ⅰ	6			動物共生科学特別研究Ⅲ－Ⅰ	6
		動物生命科学特別研究Ⅲ－Ⅱ	8			動物共生科学特別研究Ⅲ－Ⅱ	8
	比較毒性学	比較毒性学特論Ⅰ	1		伴侶動物学	動物神経科学特論Ⅰ	1
		比較毒性学特論Ⅱ	1			動物神経科学特論Ⅱ	1
		環境毒性学特論	1			動物社会認知学特論	1
		実験腫瘍学特論	1			動物発達行動学特論	1
		動物生命科学特別演習Ⅳ－Ⅰ	2			動物共生科学特別演習Ⅳ－Ⅰ	2
		動物生命科学特別演習Ⅳ－Ⅱ	4			動物共生科学特別演習Ⅳ－Ⅱ	4
		動物生命科学特別研究Ⅳ－Ⅰ	6			動物共生科学特別研究Ⅳ－Ⅰ	6
		動物生命科学特別研究Ⅳ－Ⅱ	8			動物共生科学特別研究Ⅳ－Ⅱ	8
	食品科学	食品科学特論Ⅰ	1		動物資源経済学	動物資源経済学特論Ⅰ	1
		食品科学特論Ⅱ	1			動物資源経済学特論Ⅱ	1
		畜産物利用学特論	1			動物産業経済学特論Ⅰ	1
		応用微生物学特論	1			動物産業経済学特論Ⅱ	1
		動物生命科学特別演習Ⅴ－Ⅰ	2			動物共生科学特別演習Ⅴ－Ⅰ	2
		動物生命科学特別演習Ⅴ－Ⅱ	4			動物共生科学特別演習Ⅴ－Ⅱ	4
		動物生命科学特別研究Ⅴ－Ⅰ	6			動物共生科学特別研究Ⅴ－Ⅰ	6
		動物生命科学特別研究Ⅴ－Ⅱ	8			動物共生科学特別研究Ⅴ－Ⅱ	8
	基礎生命科学	基礎生命科学特論Ⅰ	1		動物倫理・文化学	動物倫理学特論Ⅰ	1
		基礎生命科学特論Ⅱ	1			動物倫理学特論Ⅱ	1
		基礎細胞生物学特論Ⅰ	1			動物文化史特論Ⅰ	1
		基礎細胞生物学特論Ⅱ	1			動物文化史特論Ⅱ	1
		動物生命科学特別演習Ⅵ－Ⅰ	2			動物共生科学特別演習Ⅵ-I	2
		動物生命科学特別演習Ⅵ－Ⅱ	4			動物共生科学特別演習Ⅵ-II	4
		動物生命科学特別研究Ⅵ－Ⅰ	6			動物共生科学特別研究Ⅵ-I	6
		動物生命科学特別研究Ⅵ－Ⅱ	8			動物共生科学特別研究Ⅵ-II	8
動物応用医科学	動物応用医科学	動物応用医科学特論Ⅰ	2	共通	共通必修科目	アカデミックプレゼンテーション	2
		動物応用医科学特論Ⅱ	2			動物科学特論	2
		動物応用医科学特別演習Ⅰ	2		共通選択科目	英語特別演習	2
		動物応用医科学特別演習Ⅱ	4				
		動物応用医科学特別研究Ⅰ	6				
		動物応用医科学特別研究Ⅱ	8				

必修科目について：所属している専攻の科目で特別演習と特別研究の計20単位、同専攻の特論から2単位及び共通必修科目2単位、計24単位とする。

ただし、動物応用医科学専攻は、動物応用医科学特論Ⅰを必修とする。
選択科目について：所属している専攻の科目で必修として履修していない特論及び他専攻の特論並びに環境保健学研究科の特論及び共通選択科目（ただし、自由科目を除く。）から計6単位以上を選択する。

ただし、動物応用医科学特論Ⅰ及び動物応用医科学特論Ⅱを選択することはできない。

麻布大学学則第34条の2に基づいて早期履修した授業科目のうち、選択科目として単位に充当できない授業科目は、自由科目として単位に充当する。

動物応用科学専攻 博士前期課程

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修	24
選択	6
計	30

※所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

取得可能学位 修士（動物応用科学）

動物応用科学専攻博士後期課程の目的

動物応用科学専攻博士後期課程では、博士前期課程（修士課程）で修得した広い視野に立って、より高度な専門性をもつ職業人、研究者及び教育者を養成するため、人と動物健康科学などの研究・教育を通してその学術的基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

●博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- (1) 博士後期課程にあっては、所定の修業年限である3年以上在学し、必修科目12単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、博士論文を提出した者について行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（学術）の学位を与える。
- (2) ただし、博士後期課程に2年以上在学し、所定の課程修了必要単位数を修得し、かつ、特に優れた研究業績を上げ、指導教員を含む3人以上の本研究科教授会構成員が推薦し、博士論文を提出した者について行う学位論文の審査（ループリック評価）及び最終試験に合格した者には、修業年限の特例により博士（学術）の学位を与える。
- (3) 博士後期課程修了に当たっては、以下の水準に到達していることを目安とする。
 - 1) それぞれの専門領域における高度な学識（専門的知識と見識）並びに研究技術を習得している。さらに、その学識と研究技術に基づいて独自に課題を設定し、それを解決・展開できる能力を身に付けている。
 - 2) 必要に応じて他の研究者及び研究機関との連携を図ることができる能力を身に付けている。
 - 3) 研究成果を国際的に公表するために必要な英語でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力及び論文作成能力を身に付けている。
 - 4) 上記3点の能力を通じて、人と動物の健康社会に貢献する高度な専門性を持つ職業人、研究者及び教育者としての資質を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- (1) それぞれの指導教員との討論のもと、自ら主体的に各分野の先端的な研究課題に取り組み、博士論文としてまとめる。これにより、課題解決方法、論理的思考、発展的な課題設定方法についてより深く学ばせる。
- (2) 研究成果を学内の課程博士論文中間発表会及び論文発表会で発表させるとともに、国内外の学会及び学術誌において発表することを支援する。これにより、日本語のみならず、英語を始めとする外国語でのプレゼンテーション及び質疑応答能力を養わせる。また、対外的な評価を受けることで、自己の研究能力を客観的に評価する機会を与える。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

博士後期課程では、博士前期課程で修得した幅広い視野に立って、より高度な専門性を持つ職業人、研究者及び教育者の養成を目指す。そのために次のような人物を求めている。

- (1) 動物応用科学に関連する諸科学の基礎知識を持ち、かつ、国際的な視点を持ち合わせている人
- (2) 動物応用科学に関する新たな知識の創造及び新技術の開発に取り組み、それによって人類と動物の福祉、社会の平和、生物としての共生並びに文化の進展に貢献しようとする意識のある人
- (3) 動物応用科学にとどまらず、新たな学際的な研究領域に果敢に挑戦しようとする意欲を持っている人

●動物応用科学専攻 分野・専攻科目と授業科目〈博士後期課程〉

分野	専攻科目	授業科目	単位数	分野	専攻科目	授業科目	単位数
動物生命科学	動物資源育種学	動物応用科学特別演習Ⅰ－Ⅰ	2	動物共生科学	動物行動管理学	動物応用科学特別演習Ⅵ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅰ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅵ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅰ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅵ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅰ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅵ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅰ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅵ－Ⅲ	4
	動物生殖科学	動物応用科学特別演習Ⅱ－Ⅰ	2		野生動物学	動物応用科学特別演習Ⅶ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅱ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅶ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅱ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅶ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅱ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅶ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅱ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅶ－Ⅲ	4
	動物工学	動物応用科学特別演習Ⅲ－Ⅰ	2		介在動物学	動物応用科学特別演習Ⅷ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅲ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅷ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅲ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅷ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅲ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅷ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅲ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅷ－Ⅲ	4
	比較毒性学	動物応用科学特別演習Ⅳ－Ⅰ	2		伴侶動物学	動物応用科学特別演習Ⅸ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅳ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅸ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅳ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅸ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅳ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅸ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅳ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅸ－Ⅲ	4
	食品科学	動物応用科学特別演習Ⅴ－Ⅰ	2		動物資源経済学	動物応用科学特別演習Ⅹ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅴ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅹ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅴ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅹ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅴ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅹ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅴ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅹ－Ⅲ	4
	基礎生命科学	動物応用科学特別演習ⅩⅡ－Ⅰ	2		動物倫理・文化学	動物応用科学特別演習ⅩⅢ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習ⅩⅡ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習ⅩⅢ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究ⅩⅡ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究ⅩⅢ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究ⅩⅡ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究ⅩⅢ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究ⅩⅡ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究ⅩⅢ－Ⅲ	4
動物応用医科学	動物応用科学特別演習Ⅺ－Ⅰ	2	動物応用医科学	動物応用科学特別演習Ⅺ－Ⅰ	2		
	動物応用科学特別演習Ⅺ－Ⅱ	2		動物応用科学特別演習Ⅺ－Ⅱ	2		
	動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅰ	2		動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅰ	2		
	動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅱ	2		動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅱ	2		
	動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅲ	4		動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅲ	4		

備考

所属している専攻の特別演習と特別研究計12単位を必修とする。

動物応用科学専攻 博士後期課程

卒業要件（必要単位修得数）

区分

単位数

※所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

取得可能学位 博士（学術）

6) 大学院環境保健学研究科

環境保健学研究科は、生命・環境科学部における教育・研究を基盤として、人を中心に、健康、食、環境の三つの要素を統合的かつ科学的に理解し、教育研究の展開を追究するため、深い学術的教育・研究を行うことを理念とする。この理念に基づき、環境保健学研究科は、人が健やかで安全に暮らせる社会の構築に貢献できる能力を有する人及び高度専門職業人を育成することを目的とする。

環境保健科学専攻博士前期課程の目的

環境保健学研究科の教育理念・目的に基づき、環境保健科学専攻では、高い倫理観を養うとともに、バイオサイエンスを取り入れた臨床検査技術学領域、食品健康科学領域及び環境科学領域における高度な専門知識と技術を備えた中堅の研究者、技術者又は統括指導者となるにふさわしい能力を養成することを目的とする。

●博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- (1) 博士前期課程の修了要件を満たしたもので、かつ食品科学、健康科学、環境科学の横断した分野および環境保健科学分野に関する専門的知識および学際的知識並びに研究能力をもち、関連する分野で中堅研究者、高度技術者になる能力をもつ。
- (2) 専門的知識や学際的知識および修得した研究能力が社会に及ぼす影響を理解して、倫理観を備え論理的かつ科学的に物事を判断することができる。
- (3) 臨床検査技術学と食品健康科学及び環境科学に関わる諸問題を総合的に解明する基礎的かつ応用的能力をもって、社会に貢献することができる。
- (4) 多様性のある社会において修得した専門的知識および学際的知識を総合的に活用して教育研究職等で活躍することができる。
- (5) コメディカルな分野において、中堅研究者、技術者として科学的根拠に基づいた正確な情報を伝達するためのプレゼンテーション能力や論文作成することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- (1) 専門分野の基礎となる幅広い知識を習得させるために、健康、食、環境分野の必修科目として開講されている授業科目の講義、実験及び実習を配置するとともに資格取得のためのプログラムを設置する。
- (2) 所属する専門分野において独創的研究を行うために「特別演習」及び「特別実験」を2年間にわたって配置する。
- (3) 修士号にふさわしい学識と倫理観を修得するため、共通科目として「アカデミック英語コミュニケーション」及び「科学者・研究者論」および他研究科の授業科目を配置する。
- (4) コメディカルな分野において、プレゼンテーション能力や論文作成能力を養うために、入学後、早期に1人の研究指導教員及び2人の副研究指導教員を決定し、研究計画から実施まで3人の指導教員により研究指導システムをおく。
- (5) 専門領域における研究者として社会的に活躍できる人材とするため、学内外の研究発表を積極的に推進するプログラムをおく。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

博士前期課程では、国の内外を問わず、またこれまでの大学・学部での専攻学科にとらわれず高い基礎学力と、将来に対する明確な目標とそれぞれの各研究分野に対して強い興味を持った人物を求めている。

- (1) 4年生大学卒業資格および同等の学力を有し、食品化学、健康科学、環境科学の横断した分野および環境保健科学に強い関心を持ち学習意欲に富んだ人
- (2) 社会人等でこれらの分野に関わる業務に就いており、さらに高度な専門性を身につけ、倫理観をもって社会に貢献する意思をもつもの
- (3) 食品科学、健康科学、環境科学の横断した分野および環境保健科学の研究課題に対し、解決しうる広範な知識を習得し、実践する意欲をもつもの

● 環境保健科学専攻 専門分野と開講授業科目〈博士前期課程〉

専門分野	授業科目	単位	専門分野	授業科目	単位
精神機能学	精神機能学特論	2	生活環境科学	生活環境科学特論	2
	精神機能学特別演習Ⅰ	4		生活環境科学特別演習Ⅰ	4
	精神機能学特別演習Ⅱ	2		生活環境科学特別演習Ⅱ	2
	精神機能学特別実験Ⅰ	6		生活環境科学特別実験Ⅰ	6
	精神機能学特別実験Ⅱ	8		生活環境科学特別実験Ⅱ	8
生体機能学	生体機能学特論	2	食品健康科学	食品健康科学特論	2
	生体機能学特別演習Ⅰ	4		食品健康科学特別演習Ⅰ	4
	生体機能学特別演習Ⅱ	2		食品健康科学特別演習Ⅱ	2
	生体機能学特別実験Ⅰ	6		食品健康科学特別実験Ⅰ	6
	生体機能学特別実験Ⅱ	8		食品健康科学特別実験Ⅱ	8
生体防御学	生体防御学特論	2	栄養疫学	栄養疫学特論	2
	生体防御学特別演習Ⅰ	4		栄養疫学特別演習Ⅰ	4
	生体防御学特別演習Ⅱ	2		栄養疫学特別演習Ⅱ	2
	生体防御学特別実験Ⅰ	6		栄養疫学特別実験Ⅰ	6
	生体防御学特別実験Ⅱ	8		栄養疫学特別実験Ⅱ	8
微生物学	微生物学特論	2	環境保健社会科学	環境保健社会科学特論	2
	微生物学特別演習Ⅰ	4		環境保健社会科学特別演習Ⅰ	4
	微生物学特別演習Ⅱ	2		環境保健社会科学特別演習Ⅱ	2
	微生物学特別実験Ⅰ	6		環境保健社会科学特別実験Ⅰ	6
	微生物学特別実験Ⅱ	8		環境保健社会科学特別実験Ⅱ	8
病理学	病理学特論	2	環境教育学	環境教育学特論	2
	病理学特別演習Ⅰ	4		環境教育学特別演習Ⅰ	4
	病理学特別演習Ⅱ	2		環境教育学特別演習Ⅱ	2
	病理学特別実験Ⅰ	6		環境教育学特別実験Ⅰ	6
	病理学特別実験Ⅱ	8		環境教育学特別実験Ⅱ	8
分子病態解析学	分子病態解析学特論	2	共通科目	◎アカデミック英語コミュニケーション	2
	分子病態解析学特別演習Ⅰ	4		◎科学者・研究者論	2
	分子病態解析学特別演習Ⅱ	2		※環境調査演習	2
	分子病態解析学特別実験Ⅰ	6		※質的調査演習	2
	分子病態解析学特別実験Ⅱ	8		※多変量解析演習	2

備考

◎印：全ての学生にとって必修科目となる。（4単位）

自己の所属する専門分野の科目は、全て必修とする。（22単位）

それ以外に、選択科目として他の専門分野の特論科目及び獣医学研究科動物応用科学専攻博士前期課程の特論科目（動物応用医学特論は除く）から2科目以上を選択して、合計30単位以上を修得する。

※印：専門社会調査士の資格を取得するためには、単位修得が必要な科目となる。（6単位）ただし、修了要件には含まない。

麻布大学学則第34条の2に基づいて早期履修した授業科目のうち、選択科目として単位に充当できない授業科目は、自由科目として単位に充当する。

環境保健科学専攻 博士前期課程

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修	26
選択	4
計	30

※所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

取得可能学位 修士（環境保健科学）

環境保健科学専攻博士後期課程の目的

博士前期課程で修得した知識と技術を更に向上させ、独創性の高い研究能力を培い、関連する分野で自立した研究者、指導者となるに相応しい能力を養成することを目的とする。

●博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- (1) 博士後期課程の修了要件を満たしたもので、かつ食品科学、健康科学、環境科学の横断した分野および環境保健科学分野に関する専門的知識および学際的知識並びに独創性の高い研究能力をもち、関連する分野で自立した研究者、高度技術者および総括指導者になる能力をもつ。
- (2) 専門的知識や学際的知識および修得した研究能力が社会に及ぼす影響を理解して、十分な倫理観を備え論理的かつ科学的に物事を判断することができる。
- (3) 自立した研究者、技術者として総括指導能力が求められる環境において、目標を明確にし、社会に貢献することができる。
- (4) 多様性のある社会において修得した専門的知識および学際的知識を総合的に活用して、社会の発展と人々の健康のために科学者、研究者として責任ある行動をとることができる。
- (5) コメディカルな分野において、総括的研究指導者として科学的根拠に基づいた正確な情報を伝達するためのプレゼンテーション能力や論文作成することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- (1) 更に高度な専門的知識を習得させるため、健康、食、環境分野の応用知識及び学際的分野の幅広い知識を、特論として配置するとともに資格取得のためのプログラムを設置する。
- (2) 所属する専門分野において独創的研究を行うために「特別演習」及び「特別実験」を3年間にわたって配置する。
- (3) コメディカルな分野において、総括的研究指導者として優れたプレゼンテーション能力や論文作成能力を養うために、入学後、早期に1人の研究指導教員及び2人の副研究指導教員を決定し、3人の指導教員による総合的で綿密かつ高度な研究指導システムをおく。
- (4) 専門領域における研究者として国際的に活躍できる人材とするため、学内外の研究発表を積極的に推進するプログラムをおく。

アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）

博士後期課程では、環境保健学研究科の理念・目的を達成するために、次のような資質を持つ人材を求めている。

- (1) 食品科学、健康科学、環境科学の横断した分野および環境保健科学に関連する諸科学の修士号を取得したもの又は同等の知識学力を有するもの。
- (2) 食品科学、健康科学、環境科学の横断した分野および環境保健科学の研究領域に関する深い探求心を持つもの
- (3) 食品科学、健康科学、環境科学の横断した分野および環境保健科学の研究課題に対し、研究者として高い倫理観を持ち、論理的な思考を持って解決することができるもの
- (4) コメディカルな分野において高度専門職業人としての意識も持ち、国内外問わず広い視野を持って高度な研究者、技術者あるいは総括指導者として活躍したいもの

●環境保健科学専攻 専門分野と開講授業科目〈博士後期課程〉

専門分野	授業科目	単位	専門分野	授業科目	単位
精神機能学	精神機能学特別演習Ⅰ	2	生活環境科学	生活環境科学特別演習Ⅰ	2
	精神機能学特別演習Ⅱ	2		生活環境科学特別演習Ⅱ	2
	精神機能学特別実験Ⅰ	4		生活環境科学特別実験Ⅰ	4
	精神機能学特別実験Ⅱ	2		生活環境科学特別実験Ⅱ	2
	精神機能学特別実験Ⅲ	2		生活環境科学特別実験Ⅲ	2
生体機能学	生体機能学特別演習Ⅰ	2	食品健康科学	食品健康科学特別演習Ⅰ	2
	生体機能学特別演習Ⅱ	2		食品健康科学特別演習Ⅱ	2
	生体機能学特別実験Ⅰ	4		食品健康科学特別実験Ⅰ	4
	生体機能学特別実験Ⅱ	2		食品健康科学特別実験Ⅱ	2
	生体機能学特別実験Ⅲ	2		食品健康科学特別実験Ⅲ	2
生体防御学	生体防御学特別演習Ⅰ	2	栄養疫学	栄養疫学特別演習Ⅰ	2
	生体防御学特別演習Ⅱ	2		栄養疫学特別演習Ⅱ	2
	生体防御学特別実験Ⅰ	4		栄養疫学特別実験Ⅰ	4
	生体防御学特別実験Ⅱ	2		栄養疫学特別実験Ⅱ	2
	生体防御学特別実験Ⅲ	2		栄養疫学特別実験Ⅲ	2
微生物学	微生物学特別演習Ⅰ	2	環境保健 社会科学	環境保健社会科学特別演習Ⅰ	2
	微生物学特別演習Ⅱ	2		環境保健社会科学特別演習Ⅱ	2
	微生物学特別実験Ⅰ	4		環境保健社会科学特別実験Ⅰ	4
	微生物学特別実験Ⅱ	2		環境保健社会科学特別実験Ⅱ	2
	微生物学特別実験Ⅲ	2		環境保健社会科学特別実験Ⅲ	2
病理学	病理学特別演習Ⅰ	2	環境教育学	環境教育学特別演習Ⅰ	2
	病理学特別演習Ⅱ	2		環境教育学特別演習Ⅱ	2
	病理学特別実験Ⅰ	4		環境教育学特別実験Ⅰ	4
	病理学特別実験Ⅱ	2		環境教育学特別実験Ⅱ	2
	病理学特別実験Ⅲ	2		環境教育学特別実験Ⅲ	2
分子病態解析学	分子病態解析学特別演習Ⅰ	2			
	分子病態解析学特別演習Ⅱ	2			
	分子病態解析学特別実験Ⅰ	4			
	分子病態解析学特別実験Ⅱ	2			
	分子病態解析学特別実験Ⅲ	2			

備考

上に掲げた授業科目のうち、自己の所属する専門分野の科目は、全て必修（12単位）とする。

環境保健科学専攻 博士後期課程

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修	12
計	12

※所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

取得可能学位 博士（学術）

7) 附置生物科学総合研究所

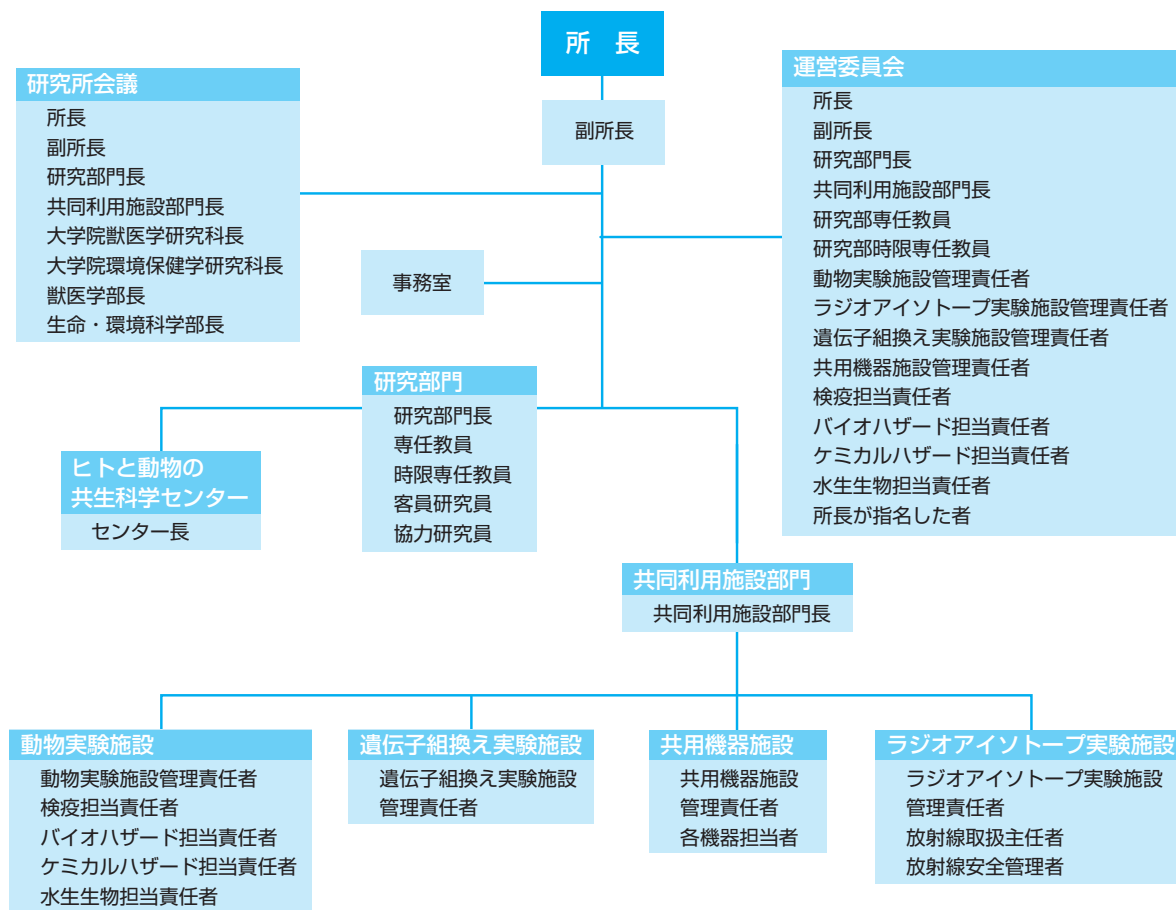
生物科学総合研究所は、「生物科学とその関連学術分野における総合的な研究機能を果たすとともに、これら領域の教育研究基盤の充実を図り、併せて国内外における学術交流の発展に寄与すること」を目的として1988（昭和63）年に設立された大学附置研究所である。

研究所は、1997（平成9）年に文部省（現文部科学省）「ハイテク・リサーチ・センター」の選定を受け、環境汚染物質として問題となっているダイオキシン関連物質のうち、生体影響の大きいコプラナー PCBs について時限研究プロジェクトを組み、関連する研究成果を輩出した後、2006（平成18）年度に終了した。2020（令和2）年度からは、文部科学省・私立大学研究ブランディング事業「動物共生科学の創生による、ヒト健康社会の実現」の後継事業として、本研究所内の研究部門に『ヒトと動物の共生科学センター』をバーチャル組織として立ち上げ、従来からのプロジェクト研究の発展型として位置づけている。

研究所は、3階建、延べ床面積約3,500平方メートルの建物で、研究部門及び共同利用施設部門から構成されている。研究部門は、毎年、学内のライフサイエンス系の各委員会と共催し、「動物実験実施等に関する教育訓練」、「バイオセキュリティ教育訓練」等の企画・実施を行っており、共同利用施設部門は、動物飼育施設、動物実験施設、遺伝子組換え実験施設、ラジオアイソトープ実験施設及び共用機器施設等を設けている。これらの各施設を使用したトキシコロジー（毒性）研究、代謝研究、遺伝子研究、生理機能研究、感染症研究及び、水生生物の研究を含む研究体制が整備されている。

また、研究所は、本学の研究活動拠点としての機能の充実と安全性確保の考え方にに基づき、国の指針に則り、動物福祉面・安全面・衛生面に留意した設備や備品の整備を推進している。

〈生物科学総合研究所組織図〉



[共同利用施設部門の概要]

本部門は、動物飼育施設、動物実験施設、遺伝子組換え実験施設、ラジオアイソトープ実験施設を統括管理している。

(1) 動物飼育施設

SPF 動物飼育施設	SPF 動物を対象とした飼育施設であり、主にマウス・ラットの飼育を行っている。本飼育施設外からの物品の持ち込み、人の入域を制限し、清浄な飼育環境を維持している。
Clean 動物飼育施設	Clean グレード以上の飼育施設であり、マウス・ラットはさらにクリーンラック内に収容され、二重の感染防御に努めている。
Conventional 動物飼育施設	イス・ネコを対象とした飼育施設であり、実験用に生産された動物のみの飼育を行っている。
検疫施設	研究所に導入する動物を検疫する施設であり、「外部から病気を持ち込まない」という防疫目的のため、動物の微生物学的なグレードが SPF レベル未満の場合には、導入動物を検疫施設にて検収することになっている。
水生生物飼育施設	水生動植物（魚介類及び両生類など）を飼育する施設である。本飼育施設は恒温室となっており、低温飼育室（13℃）と常温飼育室（23℃）がある。

(2) 動物実験施設

化学物質毒性実験施設	化学物質を用いた実験が実施できる施設である。飼育室には、それぞれ目的に合わせて切り替え可能な陰陽圧兼用動物飼育ラックが設備されており、内分泌攪乱化学物質や発がん性物質をはじめとする多くの化学物質の人や動物に及ぼす影響並びに環境に及ぼす影響についての研究が進められている。
感染実験施設	感染実験を目的とした実験動物の飼育や実験が実施できる施設である。飼育室のほか、実験室、洗浄室を整備している。各種実験動物を用いて病原体（ウイルス、細菌、寄生虫等）の感染実験を行い、感染症の発症機序、診断法、治療法等の研究を進めている。 なお、本施設では、病原体の実験施設からの漏出及び屋外からの侵入を遮断するため、全ての器具器材は滅菌処理される。

(3) 遺伝子組換え実験施設

本施設は、P1、P2 バイオハザードレベルの実験に対応した 3 部屋から構成されており、本学の遺伝子研究を支援するための実験施設である。遺伝子構造、分子獣医学、遺伝子科学に関連する遺伝子組換え技術を含めた遺伝子工学の分析と発展を目的としている。また、2022 年度に本実験施設内に BSL3（四種病原体等限定）が使用可能なエリアを設置し、運用を開始した。

(4) ラジオアイソトープ実験施設

本施設では、各種トレーサー実験、ラジオイムノアッセイ法によるホルモンなどの生理活性物質定量、組換え体を用いた機能活性の評価、ウイルスの分離と性状解析等が行われており、法律及び規則に基づいた正しい放射性同位元素の使用と厳密な管理の上に機能運営されている。

本施設内の主設備として RI を用いる代謝実験室のほか、P1、P2 の遺伝子組換え実験が実施可能な遺伝子組換え実験施設、RI 測定室等を有し、主な機器として液体シンチレーションカウンター、 γ -カウンターなどがある。

8) 附属学術情報センター

学術情報センターは、図書館と情報システムに関する機能を持つ組織で、学生や教職員の教育研究に必要な図書及び学術資料並びに情報関連機器及びネットワークを総合的に管理運営する総合機関で、図書館、メディアステーション及びコンピュータ教室の運用を行っている。

図書館は、本学のほぼ中央に位置する3階建ての建物で、1階はエントランスホール、貸出・返却等窓口、共同閲覧室及び事務室などがあり、2、3階に開架式書架、閲覧室及び複写室を備えており、貸借、閲覧、コピーなど自由に利用できる利用者のための開架式図書館としている。教養図書、学術図書、専門図書、関連科目図書、雑誌等、多種多様の資料を数多く備え、学生の勉学や教職員の研究の推進に必要な学術情報源としての機能を備えている。

メディアステーションは、図書館に隣接する9号館の1階にあり、図書館とは連絡通路で連結されている。メディアステーションは、インターネット接続・学内ネットワーク（AUnet）の管理運営の中核機能を果たしており、本学の教育研究に必要な電子情報の利用及び情報の電子化の場となっている。

コンピュータ教室は、9号館1階に2教室、8号館6階に1教室の計3教室あり、授業で使用しない時間は、9号館の9101教室及び8号館の8602教室を、「オープンルーム」として学生に開放している。

(1) 図書、資料の所蔵数及び図書受入れ状況

(2023年3月31日現在)

所蔵区分	図書の冊数(冊)		定期刊行物の種類(種類)		視聴覚資料の所蔵数(点数)	電子ジャーナルの種類(種類)	過去5年間の図書受入れ状況				
	図書の冊数	開架図書の冊数(内数)	内国書	外国書			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
附属学術情報センター	116,530	87,548	3,478	1,283	2,445	5,620	2,103	2,099	1,875	1,628	1,109
研究室所蔵分	12,338	-	-	-	541	-	478	297	399	268	67
計	128,868	87,548	3,478	1,283	2,986	5,620	2,581	2,396	2,274	1,896	1,176

[注] 1 附属学術情報センターの図書の冊数には、電子ブックを含む。

2 附属学術情報センターの開架図書の冊数(内数)には、電子ブックを含めない。

3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含む。

4 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載

(2) 製本雑誌の所蔵数及び受入れ状況

(2023年3月31日現在)

所蔵区分	製本雑誌の冊数(冊)		過去5年間の製本雑誌受け入れ状況				
	冊数	開架冊数(内数)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
附属学術情報センター	60,395	55,357	205	243	250	237	51

[注] 1 雑誌を製本したものである。図書の冊数とは別に算出している。

(3) 2022年度図書館利用サービス

館外貸出		文献複写		図書貸借		レファレンスサービス 受付件数
貸出者数	貸出冊数	受付件数	依頼件数	貸出件数	借受件数	
6,371	14,681	1,272	313	27	29	403

(※文献複写、図書貸借件数は、キャンセルを除く)

(4) PC 端末台数

	8号館	9号館	メディアステーション	図書館	計
PC 端末台数	99	170	75	4	348

(5) 2022年度利用状況

区分	入館者数	開館日数	開館時間	授業・試験のある期間	授業・試験のない期間
学術情報センター	72,720	268	月～金曜日	8時30分～21時	9時～17時
オープンルーム(※)	—	—	土曜日	10時～18時	休館
			日曜日・祝日	—	—

※1 2022年度は新型コロナ対策による換気のため扉を開放しており、統計は取っていない

9) 附属動物管理センター

本学は、都市化された地域に位置しており、教育や研究のために多くの動物を飼育していることから、学内飼育動物の適正な飼養管理及び飼育動物から人への危害防止並びに環境の汚染（騒音・悪臭・汚水）防止等に対応することを目的とし、1997（平成9）年7月に附属動物管理センターを発足した。附属動物管理センターの具体的な業務としては、（1）各動物飼育施設の保守・点検・修繕等の施設維持管理、（2）教育用動物の衛生管理、飼養管理及び搬入・搬出管理、（3）動物福祉及び動物愛護に関する教育訓練の開催などである。

小動物飼育施設 (771.4㎡)	小動物舎施設 (182.3㎡)	豚舎施設 (492.8㎡)	牛舎施設 (413.1㎡)	厩舎施設 (587.09㎡)	多目的動物舎 (726.7㎡)	家畜尿汚水 処理施設	処理能力 5トン/日
飼育室 11室	飼育室 4室	交配妊娠豚房 1室 (17分房)	成牛バドック 4か所 (12頭分)	馬房 1室 (22頭分)	羊舎 2室 (30頭分)		
検疫室 1室	飼料保管室 1室	分娩豚房 1室 (7分房)	子牛・育成バドック 1か所 (3頭分)	準備室 1室	鶏舎 5室 (200羽分)	家畜ふん乾燥発酵 処理施設	生産力 0.5 トン/日
動物運動場 1室	動物運動場 4か所	離乳豚房 1室 (8分房)	子牛繋留所 1か所 (1頭分)	馬具・飼料等置場 5か所	動物一時繋留所 1室 (6頭分)		
検査室 1室	その他 2室	肥育豚房 1室 (8分房)	飼料倉庫 1室	ミーティン グルーム 2室	隔離舎 1室 (3頭分)	土壌脱臭施設	処理能力 72.0㎡/分
処置・洗浄室 1室		豚洗浄室 1室	チップ置場 1室	男女更衣室 2室	飼料倉庫 2室		
共同実験室 1室		AI室 1室	搾乳機械室 1室	物置 1室	倉庫 1室		
その他 5室		精液処理室 1室	倉庫 1室	馬体洗い場 9頭分		動物飼育エリア用 更衣室棟	48.0㎡ 4室
		その他 5室					

10) 附属動物病院（家畜病院）

沿革

1890（明治23）年	東京獣医講習所開設
1949（昭和24）年	附属家畜病院として発足
1964（昭和39）年	麻布大学獣医学部附属家畜病院規定制定
1971（昭和46）年	動物病院棟（旧5号館）竣工
1989（平成元）年	動物病院改装
1999（平成11）年	獣医臨床センター竣工
2007（平成19）年	大学附属動物病院となる
2008（平成20）年	特任教員制度導入
2014（平成26）年	産業動物臨床教育センター（LAVEC）竣工
2021（令和3）年	総合診療科設置

活動

学園の創立以来、動物病院は獣医学科の中心的存在で、1971（昭和46）年8月に完成した5号館の1階部分にあったが、1999（平成11）年秋に、更なる発展を目指して小動物診療部門と検査部門が新しい獣医臨床センターに移転した。この動物病院の「獣医教育病院」としての位置づけは、設置者の学校法人麻布獣医学園でも再確認しており、2000（平成12）年度からは新たな運営方式が試みられた。更に2007（平成19）年度からは獣医学部附属から大学附属となり、教育・診療システムの抜本的な改革に取り組んでいる。

また、2020（令和3）年4月から、紹介病院からの少しでも早く見てもらいたいという要望を叶えるため「総合診療科」を新たに設置した。一方、馬、牛及び豚などの診療を担う産業動物診療部門は、2014（平成26）年に竣工した産業動物臨床教育センター（LAVEC）において診療を行っている。

2022年度 動物種別診療件数

	馬	牛	豚	羊	山羊	犬	猫	その他	合計
全般	0	1,805	0	43	6	7,846	2,275	0	11,975
学用（全般内数）	0	482	0	40	0	338	101	0	961

11) 大学教育推進機構

大学教育推進機構は、教育推進センター、教育方法開発センター、データサイエンスセンター、教学 IR センターの4つのセンターからなっており、本学全体の教育の特徴付けを行う中心組織です。

この機構は、本学の教育の充実を組織的に展開し、質の向上を図るために設置し、学部・学科との連携により全学的な教育の充実を図り、学生の成長を組織的に支援することを目的に、学部学科及びその他の学内組織と緊密な連携を図る組織として、2021（令和3）年10月に発足した新組織です。

今年度は、これまでの各センターの取組みをさらに発展させ、機構全体として、組織的に教育の質の向上と充実を図ってまいります。また、機構事務局は教務課が担当し、業務遂行に当たっては、教職協働を推進します。

ア) 教育推進センター

大学を取り巻く社会状況の変化や入学試験の多様化に伴い、本学の学生についても、高等学校で履修した科目の理解と定着が不十分である等の理由のため、学部教育に困難を来す例が見受けられる。また、このような変化に対する大学としての対応も十分なものではなかった。

このような状況で生じる諸問題に対して、本学では、2007（平成19）年4月に教育推進センターを発足させ、特に初年次の学生が学士課程教育にスムーズに移行できるように、また高等学校で履修した科目の理解と定着が不十分な学生に対するリメディアル（補習）教育を提供するとともに、学生一人一人に対する学習支援機能を強化してきた。

教育推進センターの役割

センターが担う役割は、本学の各学部において開設する授業科目のうち、獣医学部にあっては基礎教育科目及び生命・環境科学部にあっては教養に係る科目（以下「基礎・教養に係る科目」という。）の修学のためのリメディアル（補習）教育、本学に入学する学生が円滑に授業を受けるために必要な能力を身につけるための体系的な準備教育（入学前準備教育プログラム）及びチューター（非常勤で大学のリメディアル教育を担当する者）による個別学生指導等を行い、必要に応じて、個々の学生にあった学習計画の策定及び履修相談等の学習支援に当たっている。

教育推進センター 利用状況（2021（令和3）年4月～2022（令和4）年3月）

【リメディアル（補習）授業】

生物、化学、数学について、リメディアル（補習）授業及び入学前準備教育プログラムを行っている。

〈〔全学対象型〕リメディアル（補習）授業〉

開講回数については、次のとおりである。

生物（12回）、化学（12回）、数学（12回）

※新型コロナウイルス感染症の影響により、Google Meet を用いたオンライン形式にて実施。

出席数は、延べ198人。

〈附属高等学校生入学者対象入学前支援授業〉

生物（6コマ）、化学（6コマ）、数学（6コマ）。出席者数は、延べ83人。

※対面実施

〈推薦入試等合格者対象入学前準備教育プログラム〉

生物（5コマ）、化学（5コマ）、数学（5コマ）。出席者数は、延べ1,760人。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、Google Meet を用いたオンライン形式にて実施。

【チューター（補助教員）による個別指導】

生物、化学、物理、数学について、教育推進センター内でチューター（補助教員）による個別指導を行っている。

利用者数は、延べ 1,098 人。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、対面式個別指導または Google Meet を用いた複数指導を実施。

イ) 教育方法開発センター

教育方法開発センターは、学長方針で示された建学の精神「学理の討究と誠実なる実践」を拠り所とし、教育理念である「地球共生系 One Health」を軸に、固有の専門性を備えた大学として、SDGs, Society5.0 等の社会環境で活躍できる「フロントランナー」の育成を目指し、社会の要請を読み取り、時代に即した本学の特色を生かした教育を展開する。また、「麻布出る杭プロジェクト」を始めとした学生が個々の能力を活かし、実践力を身につけることができる質の高い教育の推進をサポートする。

さらに、Society5.0 時代に向けた人材育成の強化、即ち、「デジタル活用高度専門人材育成事業」等を活用した産業界デジタル化に貢献できる即戦力人材育成のための導入教育や各学科の専門科目における DX 教育の推進を行うとともに「オンライン授業」「オンデマンド授業」「反転授業」等、多様な授業形態による学修効果が高い教育の実施をサポートする。

ウ) データサイエンスセンター

データサイエンスセンターは、学部・学科との連携により生命科学領域に関係するデータサイエンス関連科目の開講及びサイエンスリテラシー教育に取り組むことを目的とする。

エ) 教学 IR センター

機関研究の一環として学修行動比較調査や授業アンケートなどの各種調査を実施し、教学の内部質保証にかかわる分析評価を行う。大学や各部局が各ポリシーの質保証を実行していくために、下記項目における客観的評価による支援を行う。

〈分析評価項目〉

- ・ DP：出口戦略に向けた教育内容の重点化
- ・ CP：学生個人の修学状況の可視化
- ・ CP：科目、科目群などの学習効率の検証
- ・ CP：成績不良者、留年学生の早期発見と早期対応
- ・ CP：強化学習モデルを組み込んだ、個別教育支援体制の強化
- ・ AP：入試方法、選抜試験などの効果検証

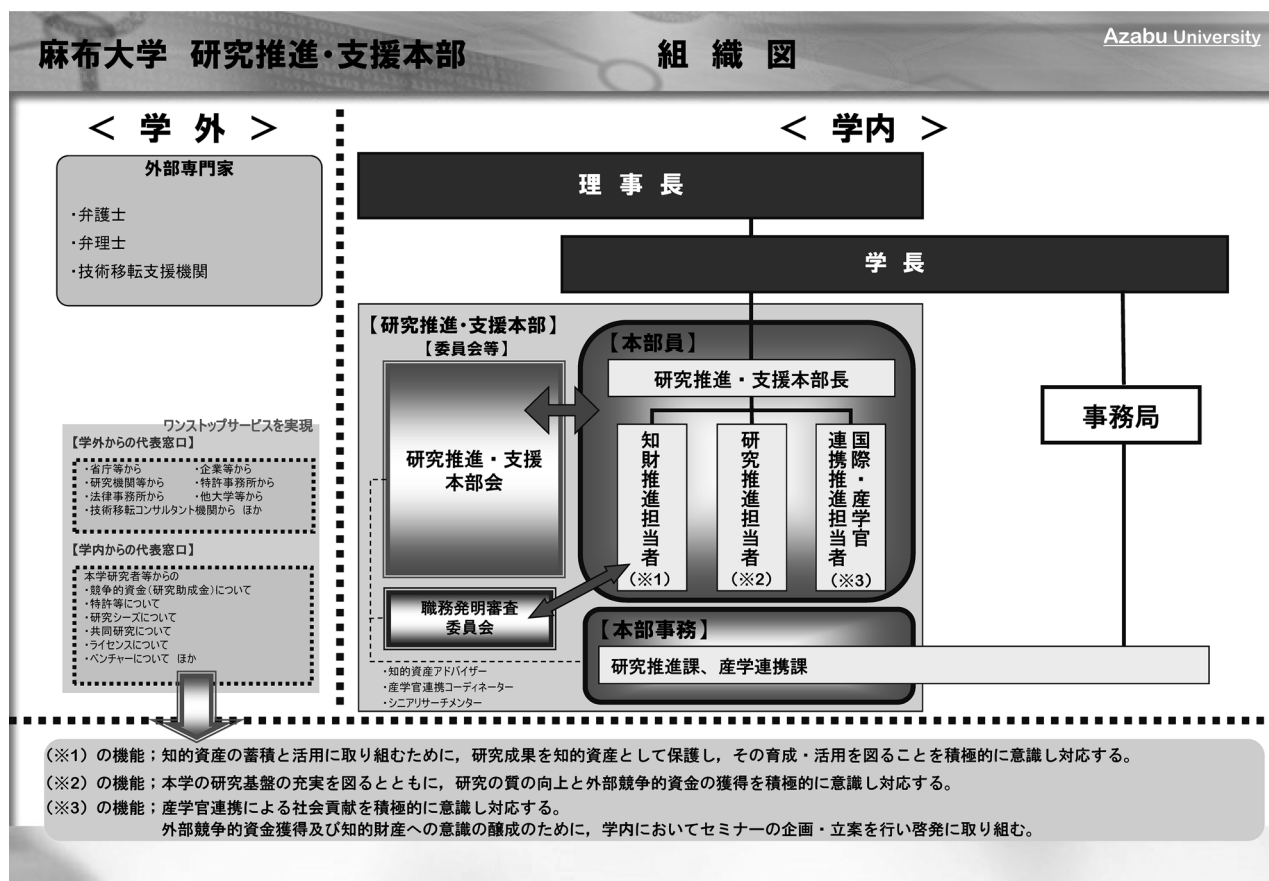
12) 研究推進・支援本部

本学では、2008（平成 20）年度に、研究及び社会貢献を推進する本格的な組織として研究推進・支援本部が設置され、知的資産に関して大学内外の一元化した窓口として活動している。

本部は、本学独自（本学発）の特徴的で個性的な研究の発掘と顕在化、知的財産活動の強化、産学官連携活動の推進、知財に対する意識啓発と普及を中心に本学に適した戦略を練りながら、研究の推進・支援を行い、本学の知的資産における活動の活性化や充実化を図ることによって、「麻布大学研究ブランドの確立」を目指している。

具体的には、競争的原理を取り入れた学内資金の活用、外部大型競争的資金獲得のための学内研究助成事業の実施、本学発先導的研究プロジェクトへの支援、外部資金獲得のためのセミナー開催、産学官連携の各種大型イベントへの出展、シーズ集などを利用した産学官への PR、研究活動と知財の連動性を意識したセミナーの開催などに取り組んでいる。また、昨今世間を騒がせている研究活動上の不正行為については、防止のための倫理教育として全教員、全大学院学生（前・後期課程含む）、公的研究費を取り扱う事務職員に対して、APRIN の e ラーニングプログラムの受講を義務付けており、誓約書の提出を求めている。

なお、本部の体制は次のとおりである。



【問い合わせ先】

麻布大学 研究推進・支援本部

Tel : 042-754-7111（内線 2438、2411）

Fax : 042-850-2511

<https://www.azabu-u.ac.jp/cooperation/>

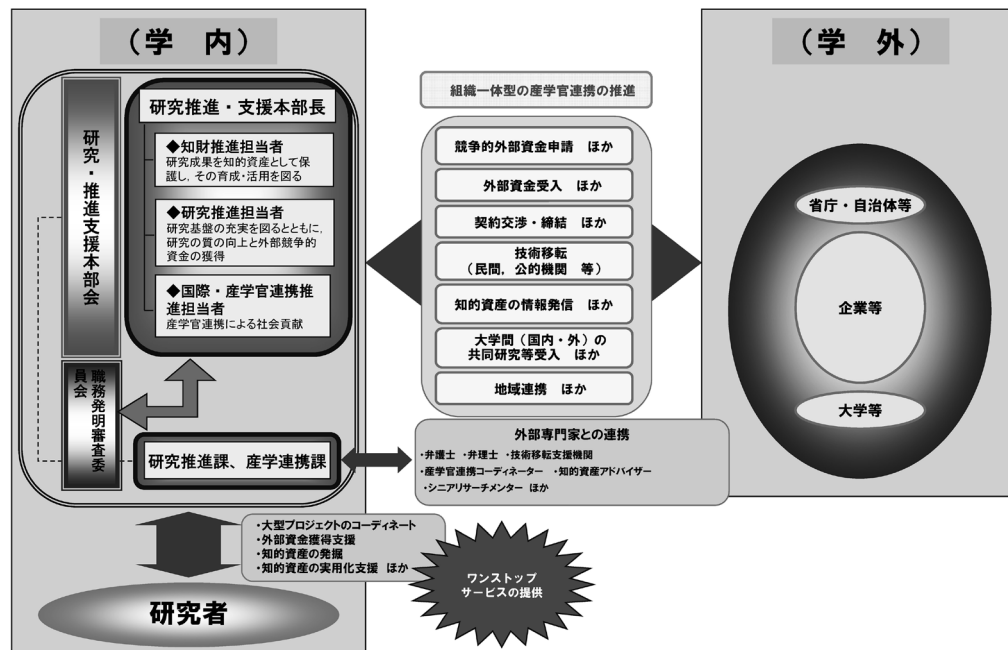
メール : research@azabu-u.ac.jp

本部の役割

本学の特徴である「ヒト」、「動物」、「生物を取り巻く環境」の関連分野における知的資産を一元管理し、学内での共同研究の企画や効率的な推進、研究シーズの創出、自治体や企業など国際・産学官連携活動の強化、特許出願手続き・維持管理、補助金申請支援等を行う。これにより、本学の知的資産の活用に関する学内外からの窓口の一本化を図り、「ワンストップサービスの提供」を目指す。以下に、「役割と機能」の一覧及び概略図を示す。

●役割と機能

①事業計画と活動方針の策定と推進 ・研究推進・支援本部の目的と運営に関する点検及び評価	④知的資産の蓄積及び活用と産学官連携に基づく社会貢献の推進 ・知的資産創出のための支援に関する方針の策定と推進 ・知的資産の権利化、維持及び管理に関する方針の策定と推進 ・知的資産の社会での活用促進に関する方針の策定と推進 ・知的資産に対する啓発活動に関する方針の策定と推進 ・知的資産の創出、管理及び活用のための関係規則の策定
②研究の質の向上の推進 ・学内助成金の採択基準及び配分に関する方針の策定と推進 ・先導的研究活動を活用した横断的研究プロジェクトの立ち上げに関する方針の策定と推進	
③外部資金等獲得の推進 ・大学として取り組む必要のある公募プログラムに関する方針の策定と推進 ・競争的資金獲得の奨励に関する方針の策定と推進 ・外部資金獲得のための方針の策定と推進	



●職務発明に係る特許等の出願状況

	2022 年度	2002 年度～ 2021 年度	合 計
国内出願件数	6	108	114
外国出願件数	7	74	81
審査請求件数	3	61	64
国内特許登録件数	6	34	40
海外特許登録件数	1	8	9
商標登録件数	1	8	9
技術移転 (ライセンス、譲渡等) 件数	5	43	48

13) 地域連携センター

2016（平成 28）年 4 月 1 日に、大学組織の一つに地域貢献を主たる目的として設置された。

地域連携センターの活動方針は、「社会連携及び社会貢献に関する方針」に基づき、人・動物・環境を教育研究する大学として、獣医療・人の健康・環境分析における社会貢献を積極的に推進し、その成果を社会に還元するほか、地域社会との連携の推進及び生涯学習教育（卒後教育を含む。）の充実を醸し、教育研究上の成果を社会に還元し、大学と地域との密着を図っていくものとしている。

また、地方自治体と連携して、学生教育の一環として、地域活性化及び環境教育などに協働し、必要に応じて、地域活性化に資する研究を推進するほか、行政機関から教職員の派遣依頼及び政策に対する提言などについて、積極的に協力している。

14) 麻布大学いのちの博物館

本学は 2015（平成 27）年に創立 125 周年を迎え、それを記念して同年 9 月 15 日に麻布大学いのちの博物館が開館した。

麻布大学いのちの博物館では、先人が残された貴重な遺産を継承するとともに、①研究内容、②動物標本、③歴史資料を広く社会に紹介している。

2022 年度開館日数及び入館者数

月	開館日数 ※2	入館者総数 (人)	(内) 土曜日 入館者数 (人)※3	1 日平均入館 者数(人)	イベント
4 月※1	21	164		7.8	予約制にて平日開館 入学式 (6 日)※2
5 月※1	19	182		9.6	予約制にて平日開館 高校教員入学説明会 (28 日、11 人)※2 L 学部説明会 (29 日、38 人)※2
6 月※1	25	294		11.8	予約制にて平日開館 卒業生後継者子女等入試説明会 (4 日、23 人)※2 父母会総会 (10 日、88 人)※2 オープンキャンパス (19 日、69 人)※2
7 月※1	22	424		19.3	予約制にて平日開館 同窓会 (2 日、16 人)※2 オープンキャンパス (17 日、203 人)※2
8 月※1	19	412		21.7	予約制にて平日開館 オープンキャンパス (6 日、120 人) (7 日、134 人) (23 日、4 人)※2
9 月※1	20	42		2.1	予約制にて平日開館
10 月※1	23	1,789		77.8	予約制にて平日開館 大学祭 (29 日、748 人) (30 日、900 人)※2
11 月※1	20	226		11.3	予約制にて平日開館 理科実験技術研修会 (5 日、4 人)※2
12 月※1	17	147		8.6	予約制にて平日開館
1 月※1	17	102		6.0	予約制にて平日開館 明星高等学校 (21 日、9 人)※2
2 月※1	20	179		9.0	予約制にて平日開館 1 日～3 日入学試験のため閉館※2 プレキャンパスライフ (14 日、30 人) (16 日、27 人) (18 日、44 人)※2
3 月※1	24	439		18.3	予約制にて平日開館 オープンキャンパス (25 日、107 人) (26 日、123 人)※2
合計	247	4,400	0	17.8	

※1：開館日変更（火曜日～土曜日 → 月曜日～金曜日）

※2：開館日数にはイベントや入試等、閉館で対応している日数を含む

※3：イベントで対応する日を含まない

15) 健康管理センター

本学は、学校保健安全法及び労働安全衛生法に基づき、学生及び教職員の健康管理に関する業務を行うため、健康管理センターを8号館1階に設置している。健康診断、健康相談、応急処置等を通し、学生及び教職員の健康維持・増進のための支援を行っている。

●健康診断受診状況

年 度	学生受診率	教職員受診率
2022 年度	90%	87%
2021 年度	88%	89%
2020 年度	63%	88%

●健康管理センター利用状況

年 度	学生利用件数	教職員利用件数
2022 年度	703 件	29 件
2021 年度	855 件	43 件
2020 年度	865 件	42 件

3 教員組織

学 部 等	学 科 等	研究室名	職 位	氏 名	学 位
獣医学部	獣医学科	解剖学第一	准教授 講 師	□ 市原 伸恒 ★ 大石 元治	博士（獣医学） 博士（獣医学）
		解剖学第二	教 授 講 師	□ 坂上 元栄 小澤 秋沙	博士（獣医学） 博士（獣医学）
		生理学第一	教授（兼） 講師（兼）	□ 村上 賢 松井 久実	博士（理学） 博士（理学）
		生理学第二	教 授 講 師	□ 折戸 謙介 井上 真紀	博士（医学） Ph. D.
		生化学	教 授 講 師	☆□ 山下 匡 永根 大幹	博士（獣医学） 博士（獣医学）
		分子生物学	教 授	□ 村上 賢	博士（理学）
		薬理学	教 授 准教授 講 師	□ 善本 亮 福山 朋季 梶 典幸	博士（獣医学） 博士（獣医学） 博士（獣医学）
		病理学	教 授 講 師 助 教	☆□ 上家 潤一 相原 尚之 志賀 崇徳	博士（医学） 博士（獣医学） 博士（獣医学）
		感染免疫学	教 授 講 師 講 師	□ 川本 恵子 岡本 まり子 佐藤 祐介	博士（獣医学） 博士（理学） 博士（獣医学）
		微生物学	教 授 講 師	●□ 田原口 智士 藤野 寛	博士（獣医学） 博士（医学）
		寄生虫学	教 授	★□ 平 健介	Ph. D.
		産業動物内科学	教 授 講 師 助 教	□ 恩田 賢 新井 佐知子 風間 啓	博士（獣医学） 博士（農学） 学士（獣医学）
			助 教	堀 香織	博士（獣医学）
		小動物内科学	教 授 講 師	□ 久末 正晴 五十嵐 寛高	博士（獣医学） 博士（獣医学）
			教 授	□ 藤井 洋子	博士（獣医学）
		小動物外科学	教 授 教 授 准教授 准教授	高木 哲 ☆ 藤田 幸弘 齋藤 弥代子 ★ 青木 卓磨	博士（獣医学） 博士（獣医学） 博士（獣医学） 博士（獣医学）
			講 師	金井 詠一	博士（獣医学）
		小動物臨床	准教授 助 教	□ 西田 英高 ★ 伊藤 哲郎	博士（獣医学） 学士（獣医学）
			助 教	高橋 広樹	博士（医学）
		臨床診断学	教 授 講 師	□ 山田 一孝 根尾 櫻子	博士（獣医学） 博士（獣医学）
		獣医放射線学	准教授 講 師	□ 圓尾 拓也 茅沼 秀樹	博士（獣医学） 博士（獣医学）
		獣医衛生学	教 授	□ 河合 一洋	博士（獣医学）
		伝染病学	教 授 准教授 助 教	□ 長井 誠 ★ 村上 裕信 石田 大歩	博士（獣医学） 博士（獣医学） 博士（獣医学）
		栄養学	教 授 准教授	☆□ 勝俣 昌也 鈴木 武人	博士（農学） 博士（学術）
		臨床繁殖学	教 授 准教授	□ 吉岡 耕治 野口 倫子	博士（獣医学） 博士（獣医学）
		公衆衛生学第一	准教授 講 師	★□ 吉岡 亘 杉田 和俊	博士（理学） 博士（理学）
		公衆衛生学第二	教 授 講 師	☆□ 森田 幸雄 岡谷 友三アレシヤンドレ	博士（獣医学） 博士（獣医学）
		実験動物学	教 授 准教授	□ 中村 紳一朗 塚本 篤士	博士（獣医学） 博士（獣医学）
	動物応用科学科	動物資源育種学	教授（兼） 准教授 准教授	●□ 茂木 一孝 神作 宜男 ☆ 戸張 靖子	博士（獣医学） 博士（農学） 博士（理学）
		動物繁殖学	教 授 教 授	□ 柏崎 直巳 伊藤 潤哉	博士（農学） 博士（農学）
		動物工学	教 授 講 師	□ 田中 和明 大我 政敏	博士（農学） 博士（生命科学）
		動物行動管理学	教 授 講 師	◎□ 植竹 勝治 加瀬 ちひろ	博士（農学） 博士（学術）
		野生動物学	教 授 准教授	□ 塚田 英晴 山本 誉士	博士（行動科学） 博士（理学）
		介在動物学	教 授 准教授 特任助教（特任教員Ⅲ種） 特任助手（特任教員Ⅲ種）	□ 菊水 健史 ☆ 永澤 美保 子安 ひかり 清水 稀恵	博士（獣医学） 博士（学術） 博士（学術） 博士（行動科学）
		伴侶動物学	教 授 講 師	●□ 茂木 一孝 久世 明香	博士（獣医学） 博士（獣医学）
		比較毒性学	准教授 講 師	□ 宗綱 栄二 寺川 純平	博士（学術） 博士（獣医学）
		食品科学	准教授 准教授	□ 水野谷 航 竹田 志郎	博士（農学） 博士（農学）
		動物資源経済学	教 授	☆□ 大木 茂	博士（農学）
		学部長付	講 師	一戸 登夢	博士（獣医学）
	基礎教育系		教 授 教 授 准教授 准教授 准教授 講 師	□ 佐原 弘益 ☆ 石井 康夫 委文 光太郎 ★ 紙透 伸治 廣田 祐士 三澤 宣雄	博士（医学） 文学修士 修士（イギリス文学）・M.A. 博士（理学） 博士（理学） 博士（理学）
		寄附講座	AMRSL 教授（兼） 教授（兼）	◎□ 植竹 勝治 河合 一洋	博士（農学） 博士（獣医学）

凡例……○学部長 ●学科長 △副学科長 ☆系主任 ★系副主任 □研究室担当

研 究 科	専 攻	分 野	専攻科目	研究領域	職 位	授業担当者
獣医学研究科	獣医学専攻 (博士課程)	動物構造機能学	生体構造学	獣医解剖学	教授 (兼) 准教授 講 師	上家 潤一 市原 伸恒 大石 元治
				獣医組織・発生学	教 授 講 師	坂上 元栄 小澤 秋沙
				分子生物学	教 授	村上 賢
			生体機能学	獣医生理学	教 授	折戸 謙介
				獣医生化学	教 授 講 師	山下 匡 永根 大幹
		動物疾病制御学	生体疾病制御学	獣医病理学	教 授 講 師	○上家 潤一 相原 尚之
				獣医薬理学	教 授 准教授	善本 亮 福山 朋季
				獣医微生物学	教授 (兼) 講 師	上家 潤一 藤野 寛
				感染症学	教 授 准教授	長井 誠 村上 裕信
				寄生虫学	教 授	平 健介
				獣医免疫学	教授 (兼) 講 師	上家 潤一 岡本まり子
					講 師	佐藤 祐介
			生体機能制御学	実験動物学	准教授	塚本 篤士
				獣医栄養学	教 授	勝俣 昌也
		獣医環境科学	獣医環境制御学	家畜衛生学	教 授	河合 一洋
			獣医環境科学	公衆衛生学	教 授 准教授	森田 幸雄 吉岡 亘
		獣医臨床科学	獣医診断治療学	獣医内科学	教 授 教 授 講 師 講 師	恩田 賢 久末 正晴 根尾 櫻子
					講 師	五十嵐寛高
				獣医外科学	教 授	藤井 洋子
					教 授	高木 哲
					教 授	藤田 幸弘
					准教授	青木 卓磨
					准教授	齋藤弥代子
					准教授	西田 英高
				獣医放射線学	講 師	金井 詠一
				臨床繁殖学	教 授 准教授	山田 一孝 圓尾 拓也
					教 授	吉岡 耕治
					准教授	野口 倫子
		応用動物科学	応用動物科学 ^{※1}	応用動物科学		
	動物応用科学専攻 (博士前期・後期課程)	動物生命科学	動物資源育種学		准教授	戸張 靖子
			動物生殖科学		教 授	柏崎 直巳
			動物工学		教 授	伊藤 潤哉
			比較毒性学		教 授 講 師	田中 和明 大我 政敏
			食品科学		准教授 講 師	宗網 栄二 寺川 純平
			基礎生命科学		准教授 准教授 教 授 教 授 准教授 准教授	水野谷 航 竹田 志郎 ◎佐原 弘益 落合 秀治 紙透 伸治 委文光太郎
		動物共生科学	動物行動管理学		教 授 講 師	植竹 勝治 加瀬ちひろ
			野生動物学		教 授	塚田 英晴
			介在動物学		准教授 教 授	山本 誉士 ●菊水 健史
			伴侶動物学		准教授 教 授	永澤 美保 茂木 一孝
			動物資源経済学		講 師	久世 明香
			動物倫理・文化学		教 授	大木 茂
		動物応用医科学	動物応用医科学 ^{※1}		教 授	石井 康夫
					教授 (兼)	田原口智士
					教授 (兼)	※2 上家 潤一
					教授 (兼)	※2 勝俣 昌也
					教授 (兼)	※2 村上 賢
					教授 (兼)	※2 長井 誠
					教授 (兼)	※2 森田 幸雄
					教授 (兼)	※2 恩田 賢
					准教授 (兼)	※2 福山 朋季
					准教授 (兼)	※2 塚本 篤士
					准教授 (兼)	※2 吉岡 亘

凡例……◎研究科長 ●専攻主任 (兼) 兼務担当者を示す。

※ 1 学生の修了等の異動に伴い、変更になる可能性があります。 ※ 2 博士前期課程のみ。

研 究 科	専 攻	専門分野	職 位	授業担当者
環境保健学研究科	環境保健科学専攻 (博士前期課程)	精神機能学	教 授 准教授 講 師	岩橋 和彦 小野澤裕也 永谷 真貴
		生体機能学	教 授 教 授	武田 守 島津 徳人
		生体防御学	教 授 教 授 准教授	宮武昌一郎 栗林 尚志 本田 晃子 松井 清彦
		微生物学	教 授 教 授 准教授 准教授	古畑 勝則 大河内由美子 石崎 直人 大仲 賢二
		病理学	准教授	高梨 正勝
		分子病態解析学	教 授 准教授	松下 暢子 曾川 一幸
		生活環境科学	教 授 教 授 教 授 准教授 講 師	伊藤 彰英 江口 祐輔 関本 征史 中野 和彦 片平 浩孝
		食品健康科学	教 授 教 授 准教授 准教授 講 師 講 師	三宅 司郎 守口 徹 小林 直樹 澤野 祥子 齊藤 千佳 山本 純平
		栄養疫学	教 授 講 師	◎石原 淳子 小手森綾香
		環境保健社会科学	教 授	大倉 健宏
		環境教育学	教 授 教 授 講 師 講 師	●小玉 敏也 福井 智紀 Jonathan Lynch 城山 光子
		共通教養	准教授 准教授	西脇 洋一 村山 史世
	環境保健科学専攻 (博士後期課程)	精神機能学	教 授 准教授 講 師	岩橋 和彦 小野澤裕也 永谷 真貴
		生体機能学	教 授 教 授	武田 守 島津 徳人
		生体防御学	教 授 教 授 教 授 准教授	宮武昌一郎 栗林 尚志 本田 晃子 松井 清彦
		微生物学	教 授 教 授 准教授 准教授	古畑 勝則 大河内由美子 石崎 直人 大仲 賢二
		病理学	准教授	高梨 正勝
		分子病態解析学	教 授 准教授	松下 暢子 曾川 一幸
		生活環境科学	教 授 教 授 教 授 准教授 講 師	伊藤 彰英 江口 祐輔 関本 征史 中野 和彦 片平 浩孝
		食品健康科学	教 授 教 授 准教授 准教授 講 師 講 師	三宅 司郎 守口 徹 小林 直樹 澤野 祥子 齊藤 千佳 山本 純平
		栄養疫学	教 授 講 師	◎石原 淳子 小手森綾香
		環境保健社会科学	教 授	大倉 健宏
		環境教育学	教 授 教 授 講 師 講 師	●小玉 敏也 福井 智紀 Jonathan Lynch 城山 光子
		共通教養	准教授 准教授	西脇 洋一 村山 史世

凡例……◎研究科長 ●専攻主任

4 役 職 員

1) 学校法人麻布獣医学園

(2023 年 5 月 1 日現在)

役員	理事長	小倉弘明	1 人
	理事	川上 泰 飯田敦往 折戸謙介 佐原弘益 村上 賢 有賀 誠 柴田武志 函城悦司 小澄正敬 林 徹	10 人
	監事	小林正明 佐藤 隆	2 人
	議長	白石政美	1 人
評議員	副議長	佐藤 泰	1 人
	評議員	五十嵐祐 折戸謙介 柏崎直巳 川上 泰 菊水健史 栗林尚志 齋藤真砂子 佐原弘益 武田 守 長井 誠 増田雄一 村上 賢 柳原新太郎 高橋 徹 佐々木 亨 安中憲治 有賀 誠 横尾清文 柴田武志 函城悦司 松田芳行 松家芳実 小澄正敬 佐藤正広 内山武史 小倉弘明 谷川 力 中田祐児 林 徹 村上 昇 飯田敦往	31 人
	学園顧問	村田元秀	1 人
	学園顧問		

2) 麻布大学

(2023 年 5 月 1 日現在)

学 長		川上 泰
学長補佐	学長補佐（特命・渉外担当）	村上 賢
	学長補佐（学生支援担当）	平 健介
	学長補佐（教務担当）	伊藤潤哉
	学長補佐（研究推進担当）	菊水健史
獣医学部	学部長	植竹勝治
	獣医学科長	田原口智士
	動物応用科学科長	茂木一孝
	基礎獣医学系主任	山下 匡
	病態獣医学系主任	上家潤一
	生産獣医学系主任	勝俣昌也
	臨床獣医学系主任	藤田幸弘
	環境獣医学系主任	森田幸雄
	専門共通教育系主任	大木 茂
	動物生命科学系主任	戸張靖子
	動物人間関係学系主任	永澤美保
	基礎教育系主任	石井康夫
生命・環境科学部	学部長	伊藤彰英
	臨床検査技術学科長	栗林尚志
	食品生命科学科長	石原淳子
	環境科学科長	大河内由美子
	臨床検査技術学科副学科長	松下暢子
	食品生命科学科副学科長	澤野祥子
	環境科学科副学科長	関本征史
大学院獣医学研究科	研究科長	佐原弘益
	獣医学専攻主任	上家潤一
	動物応用科学専攻主任	菊水健史
大学院環境保健学研究科	研究科長	石原淳子
	環境保健科学専攻主任	小玉敏也
附置生物科学総合研究所	所長	落合秀治
	副所長	坂上元栄
附属学術情報センター	センター長	勝俣昌也
	ネットワーク管理者	三澤宣雄
附属動物管理センター	センター長	恩田 賢
附属動物病院	病院長	折戸謙介
	副病院長	高木 哲
大学教育推進機構	機構長	村上 賢
	教育推進センター長	石井康夫
	教育方法開発センター長	伊藤潤哉
	データサイエンスセンター長	石原淳子
	教学 IR センター長	菊水健史
研究推進・支援本部	本部長	菊水健史
地域連携センター長	センター長	島津徳人
博物館	館長	島津徳人
健康管理センター	センター長	松下暢子
フィールドワークセンター	センター長	江口祐輔
DEI 推進センター	センター長	永澤美保
教職課程	主任	小玉敏也
附属高等学校	校長	飯田敦往
	副校長	坪井芳朗
	教頭	太田隼人

3) 事務組織

(2023 年 5 月 1 日現在)

事務局長	柳原聡
事務局次長	小田切夕子
総務部長	(小田切夕子)
教務部長	前田高志
監査室長	(白石一郎)
学長企画室長	鈴木さよ
企画課長	山内俊哉
人事課長	角野由香
財務管財課 課長 (総括担当)	堀江洋子
財務管財課 課長 (経理担当)	柳原新太郎
財務管財課 課長 (管財担当)	山口雄弘
財務管財課主監	小室雅一
渉外課長	白石一郎
渉外課主監	伊藤慎人
入試広報課 課長 (入試広報担当)	落合厳己
入試広報課 課長 (入試担当)	栗末知弘
教務課長	田中秀和
学生支援課長	目黒和敏
キャリア支援課長	久門鮎太
研究推進課長	大貫善久
産学連携課長	(大貫善久)
附属学術情報センター事務室 室長 (図書館担当)	北村岳志
附属学術情報センター事務室 室長 (情報システム担当)	(柳原新太郎)
学術情報センター事務室主監	禪野一貴
附属動物病院事務室事務長	西之宮正幸
附属動物病院事務室主監	(小室雅一)
DEI 推進センター事務室 室長	(角野由香)
附属高等学校事務室事務長	内田美緒

22 人

※ (氏名) は兼務者



5 教職員数

1) 教員（常勤）

(1) 大学教員（常勤）（人）

2023年5月1日現在

学部・学科等		学長		教授		准教授		講師		助教		助手		特任教員		合 計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
学 長		1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
獣医学部	獣医学科		—	19	2	9	2	12	5	5	1	0	0	0	0	55
	動物応用科学科		—	8	0	5	2	2	2	0	0	0	0	0	2	21
	基礎教育系		—	2	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6
	寄付講座			(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(2)
	小 計	—	—	29(2)	2	17	4	15	7	5	1	0	0	0	2	82(2)
生命・環境科学部	臨床検査技術学科		—	4	2	6	0	0	1	2	0	0	0	0	0	15
	食品生命科学科		—	4	1	2	1	1	2	0	0	0	0	0	1	12
	環境科学科		—	4(1)	1	2	0	1	0	0	2	0	0	0	1	11(1)
	国際コミュニケーション		—	(1)	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2(1)
	フィールドワーク			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	数理・データサイエンス			(1)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(1)
	教職課程		—	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	寄附講座		—	(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1(2)
	小 計	—	—	15(5)	4	11	1	3	4	2	2	0	0	0	3	45(5)
大学院	獣医学研究科	—	—	(29)	(1)	(14)	(4)	(9)	(5)	0	0	0	0	0	0	(62)
	環境保健学研究科	—	—	(14)	(4)	(10)	(1)	(3)	(4)	0	0	0	0	0	0	(36)
	小 計	—	—	(43)	(5)	(24)	(5)	(12)	(9)	0	0	0	0	0	0	(98)
附置生物科学総合研究所		—	—	1(3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(3)
附属学術情報センター		—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
附属動物管理センター		—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
附属動物病院		—	—	(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	8	15(2)
寄附講座		—	—	(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1(2)
大学教育推進機構		—	—	(4)	(1)	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	4(5)
研究推進・支援本部		—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
地域連携センター		—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
健康管理センター		—	—	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
合 計		1	0	45	6	28	5	18	12	7	3	0	0	10	14	149

【注】（ ）は、兼務者を表す。ただし、同一部門内兼務者を除く。

附属施設の長は兼務者とする。また、副病院長、寄附講座等責任者、寄附講座等教員も兼務者とする。

平均
年齢
46.8

(2) 高等学校教員（常勤）（人）

2023年5月1日現在

	校長		副校長		教頭		教諭		契約講師		合 計	平均 年齢
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
附属高等学校	1	0	1	0	1	0	33	12	2	0	50	40.4

(3) 事務職員（常勤）（人）

2023年5月1日現在

校名等	事務局長		事務局次長		部長		課長 事務長 室長・主監		補佐		主査		主任		一般職		契約職員		合 計	平均 年齢
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
麻布大学	1	0	0	1	1	0	15	3	2	1	14	5	13	5	8	7	1	6	83	42.3
附属高等学校	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	4	39.5
合 計	1	0	0	1	1	0	15	4	2	1	14	6	15	5	8	7	1	6	87	

【注】（ ）は、兼務者を表す。

(4) 常勤教職員【(1)～(3)の実人数の合計】

常勤教職員数(人)	男 204	女 82	総合計 286
平均年齢(歳)	男 45.3	女 41.9	男女 44.3

(5) 非常勤職員(人)

2023年5月1日現在

	非常勤講師	非常勤職員	合 計
獣医学部	43	33	76
生命・環境科学部	43	11	54
附属高等学校	30	1	31
事務組織	0	40	40
合 計	116	85	201

- 【注】 1. 非常勤講師欄は、両学部を兼務していても代表身分に片寄せた実人数である。
2. 非常勤講師には、後期のみ授業を担当する者及び業務委託による講師を含む。
3. 非常勤職員には、派遣職員を含む。

2) 年齢別大学教員数

2023年5月1日現在(人)

学部・学科等		～35歳	～45歳	～55歳	～65歳
獣医学部	獣医学科	2	20	18	15
	動物応用科学科	2	9	7	3
	基礎教育	0	1	3	2
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	2	1	4	8
	食品生命科学科	3	2	4	3
	環境科学科	0	3	4	4
	国際コミュニケーション	0	1	0	1
	フィールドワーク	0	0	1	0
	数理・データサイエンス	0	0	1	0
	教職課程	0	0	1	1
	寄附講座(機能性脂質学)	0	1	0	0
	生命・環境科学部長付	0	0	0	1
	附置生物科学総合研究所	0	0	0	1
附属動物病院	大学附属動物病院	14	0	1	0
	寄附講座(高度先端動物医療)	1	0	0	0
大学教育推進機構	大学教育推進機構 教学IRセンター	1	0	1	0
	大学教育推進機構 データサイエンスセンター	1	1	0	0
合 計		26	39	45	39
		総合計		149	

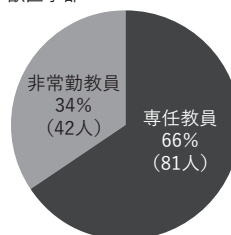
3) 専任教員と非常勤教員の比率

2023年5月1日現在

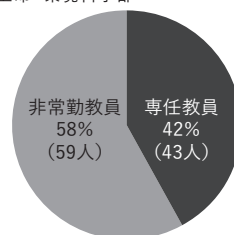
学部	専任教員	非常勤教員
獣医学部	81	42
生命・環境科学部	43	59

- 【注】 1. 獣医学部の教員には、獣医学科、動物応用科学科、基礎教育系、附置生物科学総合研究所、附属動物病院を含み、特任教員を除く。
2. 生命・環境科学部の教員には、臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科、国際コミュニケーション、教職課程を含み、特任教員を除く。

■ 獣医学部



■ 生命・環境科学部



2023年5月1日現在（人）

学部・学科等名			入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計	
学部	獣医学部	獣医学科	120	720	170	161	140	154	134	144	903	
		動物応用科学科	130	520	188	140	124	122	—	—	574	
		小 計	250	1,240	358	301	264	276	134	144	1,477	
	生命・環境科学部	臨床検査技術学科	80	320	132	101	88	80	—	—	401	
		食品生命科学科	80	320	58	46	63	52	—	—	219	
		環境科学科	80	320	79	77	55	65	—	—	276	
		小 計	240	960	269	224	206	197	—	—	896	
	学 部 計		490	2,200	627	525	470	473	134	144	2,373	
研究科	獣医学大学院	獣医学専攻博士課程	10	40	7	12	5	5	—	—	29	
		動物応用科学専攻	博士前期課程	20	40	35	22	—	—	—	—	57
			博士後期課程	4	12	3	1	1	—	—	—	5
		小 計	34	92	45	35	6	5	—	—	91	
	環境保健大学院	環境保健科学専攻	博士前期課程	7	14	9	10	—	—	—	—	19
			博士後期課程	2	6	1	2	—	—	—	—	3
		小 計	9	20	10	12	—	—	—	—	22	
		研究科計		43	112	55	47	6	5	—	—	113
総 合 計			791	3,086	682	572	476	478	134	144	2,486	

獣医学部

研究生等	在籍学生数
研究生	16
研修生	1
聴講生	1
科目等履修生	2
附属動物病院研修獣医師	73

生命・環境科学部

研究生等	在籍学生数
研究生	6
研修生	0
聴講生	0
科目等履修生	3

社会人学生数

(2023年5月1日現在) (人)

研究科・専攻	社会人学生数
獣医学専攻博士課程	18
獣医学研究科 動物応用科学専攻博士前期課程	1
動物応用科学専攻博士後期課程	0
環境保健学 環境保健科学専攻博士前期課程	0
研究科 環境保健科学専攻博士後期課程	1
合 計	20

7 入学試験状況

2023 年度入学試験状況

(人)

獣医学部						
学 科	区 分	総合型	推薦等	一 般	共通 テスト	編入学
獣医学科	志願者		183	2,002	723	
	受験者		181	1,840	716	
	合格者		70	236	131	
動物応用科学科	志願者	48	25	321	264	0
	受験者	48	25	292	261	0
	合格者	46	25	271	225	0

獣医学研究科			
専 攻	区 分	10 月期	1 期・2 期
獣医学専攻 博士課程	志願者	2	6
	受験者	2	6
	合格者	1	6
動物応用科学専攻 博士前期課程	志願者	1	36
	受験者	1	36
	合格者	1	34
動物応用科学専攻 博士後期課程	志願者	0	3
	受験者	0	3
	合格者	0	3

生命・環境科学部						
学 科	区 分	総合型	推薦等	一 般	共通 テスト	編入学
臨床検査 技術学科	志願者	14	37	188	153	2
	受験者	14	37	173	153	2
	合格者	10	37	137	126	1
食品生命 科学科	志願者	6	33	108	115	0
	受験者	6	33	102	115	0
	合格者	6	33	102	110	0
環境科学科	志願者	14	37	156	145	0
	受験者	13	37	139	145	0
	合格者	13	37	139	145	0

環境保健学研究科			
専 攻	区 分	10 月期	1 期・2 期
環境保健科学専攻 博士前期課程	志願者	0	11
	受験者	0	11
	合格者	0	10
環境保健科学専攻 博士後期課程	志願者	0	1
	受験者	0	1
	合格者	0	1

注 1) 各学科の「推薦等」は、次の入学試験区分を含む。

- 獣医学科 (推薦、外国人特別、帰国生特別、社会人特別、附属高等学校生特別、卒業生後継者特別、地域枠産業動物獣医師育成特別、学士特別)
- 動物応用科学科 (推薦、外国人特別、帰国生特別、社会人特別、附属高等学校生特別、指定校推薦特別)
- 臨床検査技術学科 (推薦、帰国生特別、社会人特別、卒業生子女等特別、附属高等学校生特別、指定校推薦特別、縁結び)
- 食品生命科学科 (推薦、帰国生特別、社会人特別、卒業生子女等特別、附属高等学校生特別、指定校推薦特別、縁結び)
- 環境科学科 (推薦、帰国生特別、社会人特別、卒業生子女等特別、附属高等学校生特別、指定校推薦特別、縁結び)

8

卒業生数・学位授与者数及び研究生等の修了状況

■学部

(2022 年度)

(人)

獣医学科	学士（獣医学）	131
動物応用科学科	学士（動物応用科学）	127
臨床検査技術学科	学士（保健衛生学）	77
食品生命科学科	学士（保健衛生学）	76
環境科学科	学士（環境科学）	73
学部合計		484

■大学院

獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	博士（獣医学）	8
獣医学研究科	動物応用科学専攻博士前期課程	修士（動物応用科学）	26
獣医学研究科	動物応用科学専攻博士後期課程	博士（学術）	0
環境保健学研究科	環境保健科学専攻博士前期課程	修士（環境保健科学）	11
環境保健学研究科	環境保健科学専攻博士後期課程	博士（学術）	1
獣医学研究科	（論文博士）	博士（獣医学）	1
獣医学研究科	（論文博士）	博士（学術）	0
環境保健学研究科	（論文博士）	博士（学術）	2
大学院合計			49

■研究生等

獣医学部	研究生	19
生命・環境科学部	研究生	7
獣医学部	研修生	2
生命・環境科学部	研修生	0
獣医学部	聴講生	21
生命・環境科学部	聴講生	4
獣医学部	科目等履修生	2
生命・環境科学部	科目等履修生	1
環境保健学研究科	科目等履修生	0
附属動物病院	研修獣医師	34
研究生等合計		90

総合計

623

2022 年度 卒業生進路状況

(2023 年 5 月 1 日現在)

区分		卒業者数	獣医学部				生命・環境科学部						合計		
			獣医		動物応用科		臨床検査技術		食品生命科		環境科				
			131		127		77		76		73				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
就職希望者	就 職 者 就職先未定者	58	73	44	83	21	56	37	39	58	15	218	266	484	
		43	66	28	57	15	50	29	34	52	13	167	220	387	
		43	65	28	55	12	47	27	34	49	12	159	213	372	
		0	1	0	2	3	3	2	0	3	1	8	7	15	
就職率（％）		100.0	98.5	100.0	96.5	80.0	94.0	93.1	100.0	94.2	92.3	95.2	96.8	96.1	
		99.1%		97.6%		90.8%		96.8%		93.8%		96.1%			
公務員	国家	2	1		2							2	3	5	
	都道府県	1	5									1	5	6	
	市区町村	1	2	1			1					2	3	5	
農・林・漁・鉱・採石・砂利採取業			1	2	3					1		3	4	7	
建設業					1			1		4	1	5	2	7	
製造業	食料品製造業			2	2			8	11			10	13	23	
	飲料・たばこ・飼料製造業			2					1			2	1	3	
	繊維工業											0	0	0	
	印刷・関連産業											0	0	0	
	化学工業	1	3	1	2	1				1		4	5	9	
	石油・石炭製品製造業											0	0	0	
	鉄鋼業・非金属・金属製品製造業											0	0	0	
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業			2		1				3		4	2	6	
	電子部品・デバイス・精密機械器具製造業											0	0	0	
	電気・情報通信機械器具製造業									1		1	0	1	
	輸送用機械器具製造業											0	0	0	
その他の製造業											0	0	0		
電気・ガス・熱供給・水道業											0	0	0		
情報通信業		1		2	3			1	2	3		7	5	12	
運輸業・郵便業									1	1		1	1	2	
卸売・小売業	卸売			7	5			4	4		1	11	10	21	
	小売			2	4			4	9	7	2	13	15	28	
	小売				1							0	1	1	
金融業						1		1				2	0	2	
保険業												0	0	0	
不動産取引・賃貸・管理業				1								1	0	1	
物品賃貸業												0	0	0	
宿泊業・飲食サービス業				2	5			2	2		1	4	8	12	
医療・福祉	医療業				1	7	26		1			7	28	35	
	診療所						8					0	8	8	
	その他の医療（臨床検査所・治験等）						10					0	10	10	
	保健衛生	1	1		2	1		2		1		5	3	8	
社会保険・社会福祉・介護事業					1				1	1	1	1	3	4	
習教育支援学	学校教育			1						2		3	0	3	
	動物園・水族館		1									0	1	1	
	その他の教育・学習支援業				3							0	3	3	
複合サービス	NOSAI	8	4									8	4	12	
	その他の複合サービス事業	2										2	0	2	
サービス業	専門サービス											0	0	0	
	動物病院	25	45		7							25	52	77	
	コンサルタント											0	0	0	
	広告業											0	0	0	
	その他の専門・技術サービス			1	1			1	2	1	1	3	4	7	
	学術・開発研究機関	1			1		1					1	2	3	
	法務											0	0	0	
	生活関連サービス業				2					1	2	1	4	5	
	洗濯・理容・美容・浴場業											0	0	0	
	娯楽業			1								1	0	1	
	JRA											0	0	0	
	その他の娯楽業											0	0	0	
	廃棄物処理業											0	0	0	
	宗教											0	0	0	
その他のサービス業				3	9	1	1	3		21	3	28	13	41	
上記以外のもの										1		1	0	1	
計		43	65	28	55	12	47	27	34	49	12	159	213	372	
進学	大学院	2		11	22	2		1	1	5		21	23	44	
	大学				1							0	1	1	
	編入学											0	0	0	
	留学（海外渡航含む）								1			0	1	1	
	研究生											0	0	0	
	聴講生						1					0	1	1	
	専門学校			4	1			1			1	5	2	7	
	進学未定者											0	0	0	
	その他（科目等履修生など）					2						2	0	0	
計		2	0	15	24	4	1	2	2	5	1	28	28	56	
就職しない		2	0	0	1	0	0	3	3	1	1	6	5	11	
その他 ※		11	7	1	1	2	5	3	0	0	0	17	13	30	

※ 国家試験不合格者及び未提出者等、上記に区分されない者を含む。

獣医師国家試験

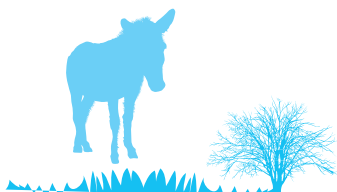
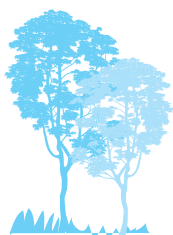
年 度	受験者	合格者	合格率
2022 年度（2023 年 3 月発表）	129	108	83.7%
2021 年度（2022 年 3 月発表）	146	120	82.2%
2020 年度（2021 年 3 月発表）	133	123	92.5%
2019 年度（2020 年 3 月発表）	136	130	95.6%
2018 年度（2019 年 3 月発表）	133	112	84.2%
2017 年度（平成 30 年 3 月発表）	138	133	96.4%
2016 年度（平成 29 年 3 月発表）	151	132	87.4%
2015 年度（平成 28 年 3 月発表）	142	118	83.1%
2014 年度（平成 27 年 3 月発表）	157	121	77.1%

臨床検査技師国家試験

年 度	受験者	合格者	合格率
2022 年度（2023 年 3 月発表）	64	57	89.1%
2021 年度（2022 年 3 月発表）	82	71	86.8%
2020 年度（2021 年 3 月発表）	76	69	90.8%
2019 年度（2020 年 3 月発表）	72	66	91.7%
2018 年度（2019 年 3 月発表）	80	68	85.0%
2017 年度（平成 30 年 3 月発表）	73	70	95.9%
2016 年度（平成 29 年 3 月発表）	81	76	93.8%
2015 年度（平成 28 年 3 月発表）	65	54	83.1%
2014 年度（平成 27 年 3 月発表）	73	65	89.0%

(2023年3月31日現在)

学 科 名	認定者数	認定単位総数		一人当たり 平均認定単位数
		基礎（教養）科目	専門科目	
獣医学科	18	122	19	6.8
動物応用科学科	0	0	0	0
臨床検査技術学科	1	4	14	18
食品生命科学科	0	0	0	0
環境科学科	0	0	0	0
合 計	19	126	33	8.4



1) 学業成績優秀者

毎年6月に、各学科から年次毎に原則として3人（獣医学科及び動物応用科学科は4人）の学業成績及び人物の優秀な者を表彰し、賞状・副賞及び奨学金が授与される。

また、毎年度の卒業生各学科から原則として3人（獣医学科及び動物応用科学科は4人）の学業成績及び人物の優秀な者に対して、賞状と副賞が授与される。

2) 越智賞

麻布獣医学園越智基金により、1988（昭和63）年度から設けられた制度で、毎年度の卒業生で特に学業成績が最も優秀でかつ人物が優秀な者に対して、各学科1人を表彰する。表彰は、卒業式に行われ、賞状と副賞が授与される。

3) 古泉賞

麻布獣医学園古泉基金により、2016（平成28）年度から設けられた制度で、毎年度の卒業生で卒業論文の評価が最も高く、かつ人物が優秀な者に対して、各学科1人又は複数人に、賞状と副賞が授与される。

4) 増井光子賞

学部学生及び大学院学生で、専門領域において、各種の受賞など学会等で高く評価され、今後の可能性が期待されると認められる者又は社会活動等で顕著な功績を上げた者を表彰する。受賞者には6月に、賞状と副賞が授与される。

5) 日本獣医師会優等卒業生

日本獣医師会より、獣医学教育の振興のため、獣医学科の中から、特に成績が優秀な卒業生1人に対し、賞状と副賞が授与される。

6) 日臨技学生表彰

日本臨床衛生検査技師会より、臨床検査の将来を担う優秀な学生を表彰しており、臨床検査技術学科の中から特に成績が優秀な卒業生1人に対し、賞状と副賞が授与される。

7) 学生功労賞

本学の学生及び団体が、スポーツ若しくは文化活動において、顕著な業績を上げ、又は社会に対して模範となることを行い、もって本学の名誉を著しく高めた場合に表彰する。また、受賞者には6月に、賞状と副賞が授与される。

※これらの表彰については、それぞれ受賞者が決定した際、学内に公示するとともに、当該学生の父母に通知する。

1) 学生ホール

学生ホールは、大学の南側にあり温かい緑の芝生に囲まれた2階建ての建物で、1階にクラブ部室等（8室）、シャワー室、2階にはクラブ部室（25室）があり、クラブ活動の拠点や憩いとコミュニケーションの場として活用している。

2) クラブハウス

クラブハウスは、学生ホールに隣接して建設されており、2階建ての1階には、防音設備完備の音楽練習場、弓道場、土俵、ボクシング練習場が、2階には学生自治会及びクラブ部室（11室）がある。

3) 厩舎

厩舎は、老朽化した旧建物から2020（令和2）年2月に大学正門の馬場に隣接して建替えられた鉄骨造2階建ての建物で、1階には馬房（22頭分）、準備室、馬具・飼料置場や馬体洗い場などが、2階には馬術部のミーティングルームと男女更衣室があり、馬術部の活動の拠点として活用している。

4) 麻布総合グラウンドの管理棟・倉庫棟

麻布総合グラウンド西側にある管理棟及び倉庫棟は、附属高等学校との共同施設として建設された。2階建ての管理棟2階には、多目的室（2室）が設置され、ミーティング等に利用できる。管理棟に隣接された倉庫棟には広い収納スペースがある。

5) 学生相談室

大学時代は、自由で可能性に満ちた時期であると同時に様々な問題にも直面し、自分自身の生き方についても考えさせられるような大切な時期である。学生相談室は、学生生活において直面する様々な問題について、カウンセラー（臨床心理士）と話し合うことができる。

自主的に来室したり、友人と一緒に来たり、先生に勧められて来たりと様々だが、学生がより充実した大学生活を送り、その中で何か大切なものを見つけられるように対応している。

年 度	2022年度	2021年度	2020年度
件 数	346	256	198

6) メンタルヘルス相談室

メンタルヘルス相談室は、学生がより充実した学生生活を送れるよう、精神科医の立場から、精神面の支援を必要とする学生についてサポートする。

年 度	2022年度	2021年度	2020年度
相談件数	34	25	27

7) 就職相談室

就職相談室は、8号館1階キャリア支援課内にあり、専任の相談員による学生のキャリア形成、進路、就職などの相談対応を行う場として開室している。

進路についての考え方、業界・業種の選択、自己PRの方法、提出書類、OB・OG訪問、企業との連絡方法などについての指導、相談が行われ、学生の社会性及び就職意識の形成に大いに役立っている。

年 度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
相談件数	1,572	1,636	1,290	1,243	1,032

8) 麻布総合グラウンド

敷地面積は15,906m²であり、各種球技（野球、サッカー、ラグビー等）及び陸上競技に使用できる総合グラウンドである。

9) 大学テニスコート

敷地面積は1,517.7m²、設置コートは2面。学生ホールの北側に設置しており、学生は、クラブ活動等で利用している。

10) カフェテリア さくら

創立125周年記念事業の一環として、2014（平成26）年3月に竣工した鉄骨造平家建てである。薪ストーブを中心とした温かな雰囲気の建物であり、昼食だけでなく、喫茶スペースとしても利用することができる。また、授乳室を設けており、教職員や来客への福利厚生にも寄与している。

階 数	延床面積	施設内容
1 階	578.81m ²	ホール（214席）、厨房、授乳室

11) テラス いちょう

創立125周年記念事業の一環として、2015（平成27）年3月に竣工した鉄骨造2階建てである。1階には、カフェテリア方式の食堂と生協売店及び生協事務室があり、2階には、学生が自習・談話できるホール、セミナーやグループ学習といった様々な用途に利用可能な多目的室（3室）、教職員用の会議室及び麻布大学同窓会の事務室がある。

階 数	延床面積	施設内容
1 階	934.48m ²	食堂（270席）、厨房、売店、生協事務室
2 階	934.48m ²	ホール（224席）、多目的室1～3（54席、10席、8席）、自動販売機スペース、会議室（12席）、同窓会事務室、防災備蓄倉庫

14 奨学金給付・貸与状況

(2023 年 3 月 31 日現在)

奨学金の名称	学内・学外の別	給付・貸与の別	奨学生数
成績優秀者に対する奨学金	学 内	給 付	65 人
麻 布 大 学 金 奨 学 金	学 内	貸 与	6 人
麻布大学父母会 奨 学 金	学 内	貸 与	3 人
日本学生支援機構 奨 学 金	学 外	給 付	170 人
		貸 与	706 人



1) 公開講座（市民大学）

(1) 市民大学

● 開催日時

牛などの産業動物の健康・機能・形態：ヒトの役に立つのももっともです。

2022（令和4）年11月1日～2022（令和4）年11月15日

毎週火曜日 18：00～19：30

食べることは生きることー美味しく、安全に、健康にー

2022（令和4）年10月13日～2022（令和4）年11月17日

11月3日を除く毎週木曜日 18：00～19：00

● 対象者

原則として相模原市及び座間市在住・在勤・在学の15歳以上の人

	テーマ		定員
担当： 獣医学部	牛などの産業動物の健康・機能・形態：ヒトの役に立つのももっともです。		30人
	開催日	タイトル	
	11月1日（火）	骨を観て、触り、知る	
	11月8日（火）	牛の泌乳生理を識る	
	11月15日（火）	牛の健康のために、麻布大学附属動物病院がしていること。	

	テーマ		定員
担当： 生命・環境科学部	食べることは生きることー美味しく、安全に、健康にー		20人
	開催日	タイトル	
	10月13日（木）	美味しく食べる～うま味の相乗効果について～	
	10月20日（木）	食と健康～ヒトの歯周病菌が動物園の動物に移っている？～	
	10月27日（木）	安全に食べる～どのように食中毒は防がれているか～	
	11月10日（木）	食と健康～健康な身体を維持するための食事と運動～	
	11月17日（木）	安全に食べる～カビが作る食品とカビが生むリスク～	

(2) 市民公開講座 in 日本獣医学会

● 開催日時

2022（令和4）年9月8日（木）13：00～17：10

● 対象者

一般の方、小動物臨床検査技師、動物・食品・環境衛生・健康に関わる職場で働く方や関連学校出身者等

テーマ	
「動物と人のウェルビーイングな未来へ」	
プログラム	タイトル／講演者
第1部 人と伴侶動物がすこやかに暮らせる取り組み	遺伝性疾患のゲノムを解析して病気の個体を減らす 松本 悠貴（アニコム損害保険株式会社、麻布大学）
	動物の先端医療の開発 動物再生医療の社会実装に向けた取り組み 福田 威（動物再生医療技術研究組合）
	飼い主がコロナウイルスに感染した時のペットへの対応 河本 光祐（アニコム先進医療研究所株式会社）
	犬猫の献血システムの普及の取り組み 内田 恵子（日本獣医輸血研究会）

第2部 テクノロジーで変わる獣医療と獣医学教育	畜産業界の課題と畜産IoT（スマート畜産）の活用 菊池 遼介（デザミス株式会社）
	動物の負担軽減を目指すICTを中心とした獣医学部実習教育 高木 哲（麻布大学）、藤田 良治（愛知淑徳大学）、塚本 篤士（麻布大学）、佐藤 礼一郎（宮崎大学）、川本 恵子（麻布大学）

(3) 生涯学習講座

● 開催日時

2022（令和4）年7月13日（水）13：30～15：00

● 対象者

一般の方、概ね60歳以上の方

タイトル / 講演者	参加人数
シニアが摂るべき食事とは 講師：生命・環境科学部 山本純平講師	43人

2) 国際交流

(2023 年 5 月 1 日現在)

(1) 学術交流協定校・機関一覧

協定校名称	国 名	設置形態	協定締結年月日	協定形態
フロリダ大学	アメリカ合衆国	州立	2019 年 8 月 13 日	獣医学部間
ベルン大学	スイス連邦	州立	2015 年 5 月 26 日	獣医学部間
国立台湾大学	台 湾	国立	2013 年 9 月 18 日	獣医学部間
エディンバラ大学 (準協定)	スコットランド (英国)	公立	2008 年 8 月 6 日	大学－獣医学部間
モンゴル大学	モンゴル国	国立	2008 年 7 月 20 日	大学間
モンゴル科学アカデミー	モンゴル国	国立	2008 年 7 月 20 日	機関間
フスタイ国立公園	モンゴル国	国立	2008 年 7 月 20 日	機関間
モンゴル自然史博物館	モンゴル国	国立	2008 年 7 月 20 日	機関間
チェンマイ大学	タイ王国	国立	2007 年 1 月 26 日	大学間
北京農学院	中華人民共和国	公立	2006 年 10 月 14 日	大学間
吉林農業大学	中華人民共和国	公立	2005 年 4 月 27 日	大学間
全北大学校	大韓民国	国立	2004 年 4 月 30 日	大学間
国立中興大学	台 湾	国立	1997 年 6 月 17 日	大学間
ペンシルヴァニア大学	アメリカ合衆国	私立	1990 年 11 月 3 日	獣医学部間
アスンシオン大学	パラグアイ共和国	国立	1986 年 2 月 8 日	大学間

(2) 2022 (令和 4) 年度学術交流協定校からの受入れ・派遣者数

・実績なし

※ 2022 (令和 4) 年度は新型コロナウイルス感染症の全世界における蔓延状況を鑑み、受入れ・派遣を行わなかった。

(3) 2022 (令和 4) 年度外国人教員及び研究者等受入れ人数 (累計)

・実績なし

※ 2022 (令和 4) 年度は新型コロナウイルス感染症の全世界における蔓延状況を鑑み、外国人教員及び研究者等の受入れを行わなかった。

16 外部資金受入状況

1) 2022(令和4)年度 競争的研究費制度による科研費交付決定状況・区分一覧

(新規及び継続含む)

交付元	研究種目	学 科 等											合 計
		獣医学科	動物応用 科学科	基礎 教育系	臨床検査 技術学科	食品生命 科学科	環境科 学科	教職 課程	動物 病院	生物科学 総合研究所	事務 職員	共同 研究員	
文 部 科 学 省	基 盤 研 究 (S)												0
													0 ()
	基 盤 研 究 (A)		1										1
			8,500 (2,550)										8,500 (2,550)
	基 盤 研 究 (B)	3	5			2							10
		6,500 (1,710)	15,800 (4,740)			3,400 (1,020)							25,700 (7,470)
	基 盤 研 究 (C)	9	7	1	2	4	7	2					32
		9,100 (2,730)	5,500 (1,650)	1,100 (330)	2,400 (720)	2,400 (720)	4,400 (1,320)	1,100 (330)					26,000 (7,800)
	挑戦的研究(萌芽)		1										1
			2,500 (750)										2,500 (750)
	若 手 研 究	5				1	1						7
		4,100 (1,230)				1,300 (390)	900 (270)						6,300 (1,890)
	研 究 活 動 スタート支援	3			1								4
		3,400 (1,020)			900 (270)								4,300 (1,290)
	特 別 研 究 員 奨 励 費	2	5										7
		1,900 (360)	3,900 (900)										5,800 (1,260)
	奨 励 研 究		1										1
			480 (0)										480 (0)
合 計		22	20	1	3	7	8	2	0	0	0	0	63
		25,000 (7,050)	36,680 (10,590)	1,100 (330)	3,300 (990)	7,100 (2,130)	5,300 (1,590)	1,100 (330)	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	79,580 (23,010)

※上段は人数／下段は 交付金額（単位千円）を示す。（ ）は間接経費。なお学外分担者への配分額も含む。

2) 2022（令和4）年度 私立大学等経常費補助金特別補助交付一覧

（単位：千円）

項 目	補助金額
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育	
1. 数理・データサイエンス・AI教育の充実	5,000
II. 大学院等の機能の高度化	
1. 大学院における研究の充実	4,920
2. 研究施設運営支援	32,309
3. 大型設備等運営支援	1,615
III. 私立大学等改革総合支援事業	
1. タイプ2 特色ある高度な研究の展開	26,000
2. タイプ4 社会実装の推進	14,000
学 校 計	83,844

3) 2022（令和4）年度 共同研究等の受入れ状況

（単位：千円）

	獣 医		生命・環境		生物研		動物病院		その他		合 計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	35件	93,186	5件	14,678	0件	0	1件	1,200	0件	0	41件	109,064
受託研究	13件	4,619	0件	0	0件	0	0件	0	0件	0	13件	4,619
学術指導	8件	7,297	5件	2,076	0件	0	0件	0	0件	0	13件	9,373
奨学寄附	23件	20,272	5件	3,850	0件	0	0件	0	0件	0	28件	24,122
寄付講座	2件	51,000	1件	10,000	0件	0	0件	0	0件	0	3件	61,000
合 計	81件	176,374	16件	30,604	0件	0	1件	1,200	0件	0	98件	208,178

※件数及び金額は、契約した年度を以って記載した。

※覚書については、金額には含めるが、件数には含めない。

※2020年度から、文部科学省の「産学連携等実施状況調査」に合わせ、公的機関からの委託研究を受託研究の集計対象から除外した。

財務状況の推移

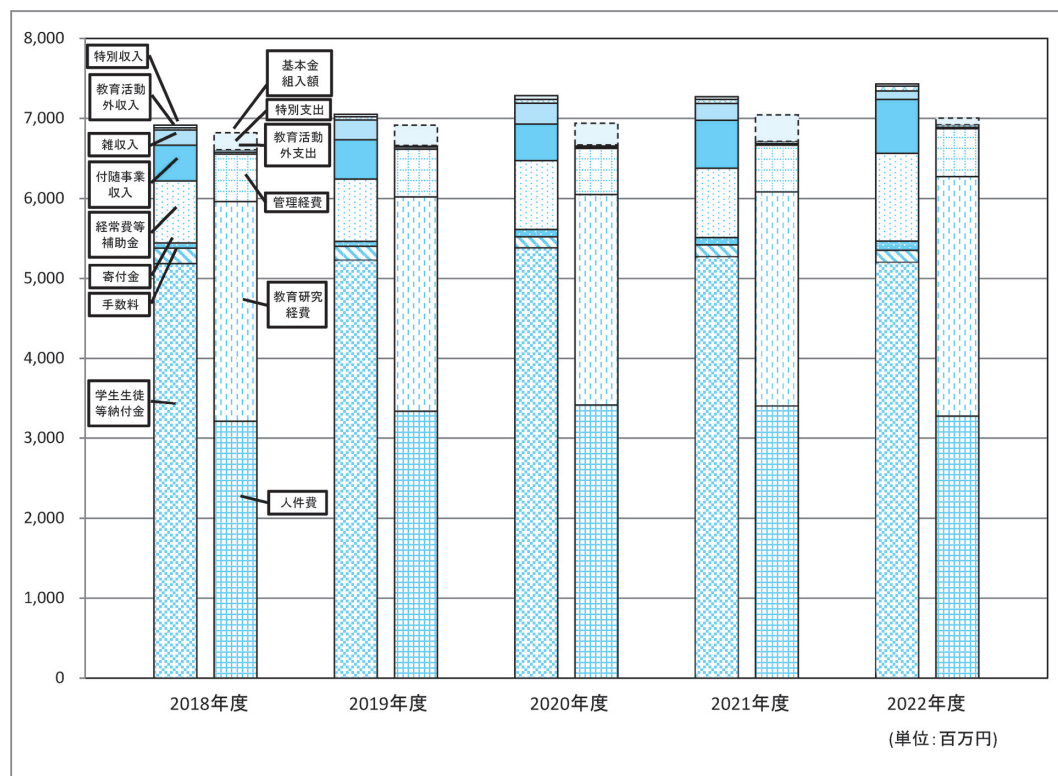
事業活動収支計算書

(単位:円)

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業活動収入関係					
学生生徒等納付金	5,186,120,750	5,226,284,700	5,381,757,800	5,268,701,500	5,200,219,900
手数料	193,137,680	175,484,270	139,810,024	150,184,128	150,557,694
寄付金	63,440,645	60,207,121	89,426,199	92,788,679	116,586,863
経常費等補助金	777,086,696	780,751,089	858,451,844	867,252,222	1,094,155,426
付随事業収入	443,431,310	487,409,283	457,407,252	595,915,105	676,791,868
雑収入	188,949,763	247,468,414	264,280,187	209,671,644	103,612,366
教育活動外収入計	29,393,321	43,152,860	47,451,384	52,067,635	60,083,736
特別収入計	34,687,410	31,201,589	45,567,402	34,656,464	29,691,853
事業活動収入計	6,916,247,575	7,051,959,326	7,284,152,092	7,271,237,377	7,431,699,706

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業活動支出関係					
人件費	3,209,227,307	3,337,057,862	3,412,984,416	3,402,189,467	3,273,890,869
教育研究経費	2,751,012,010	2,682,880,229	2,635,573,620	2,679,350,838	2,998,386,320
管理経費	590,776,183	592,957,706	575,861,232	581,142,191	597,225,813
徴収不能額等	1,230,625	2,124,662	545,318	978,611	1,587,997
教育活動外支出計	24,912,794	22,912,815	20,912,834	18,912,854	16,912,875
特別支出計	27,556,014	22,466,372	20,031,071	28,767,940	31,094,496
事業活動支出計	6,604,714,933	6,660,399,646	6,665,908,491	6,711,341,901	6,919,098,370

基本金組入額	214,135,190	254,235,627	273,361,055	331,997,010	83,738,193
基本金取崩額	0	0	0	0	0



※ 基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして事業活動収入のうちから組み入れた金額で、組み入れるべき金額としては、教育の用に供される固定資産額で、以下のようなものがある。
建物、構築物、教育研究用機器備品、図書などの取得価額の合計

18 土地及び建物面積・配置図

1) 土 地

(2022 年 5 月 1 日現在)

区 分	敷地面積 (m ²)
淵野辺キャンパス	110,078.31
島根県美郷町	1,470
敷地面積合計	110,078.31

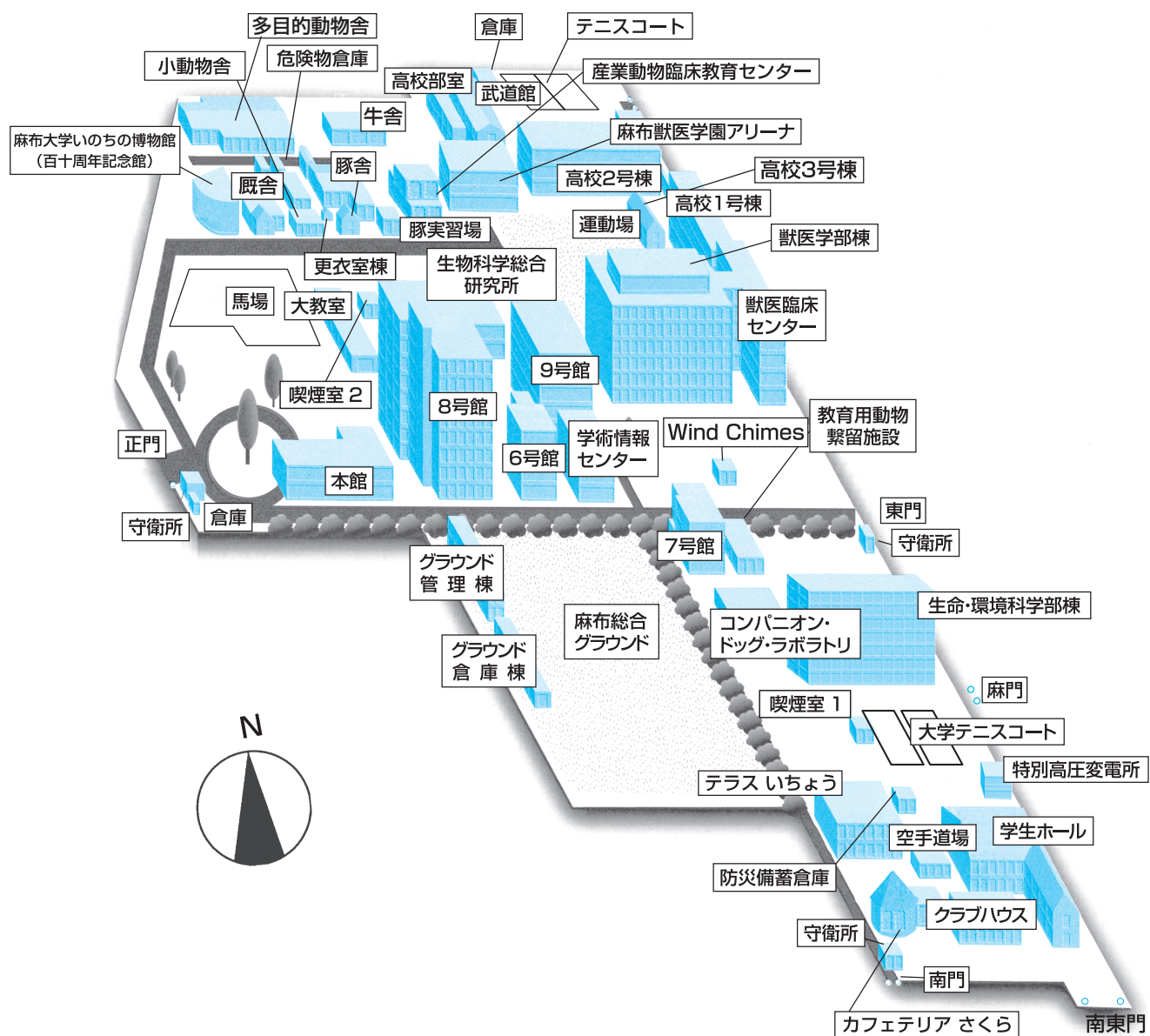
2) 建 物

区 分	建 物 名 称	床面 (m ²)	構 造 ・ 階 建
淵 野 辺 キ ャ ン パ ス	6 号館	2,685.03	鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建
	7 号館	1,233.86	鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建
	8 号館	6,387.84	鉄骨鉄筋コンクリート・鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺・陸屋根 8 階建
	9 号館	4,704.40	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建
	獣医学部棟	19,348.37	鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根 7 階建
	生命・環境科学部棟	10,317.00	鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根 6 階建
	大教室	468.22	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建
	生物科学総合研究所	3,423.22	鉄筋コンクリート造陸屋根 5 階建
	本館	1,656.95	鉄筋コンクリート造陸屋根 2 階建
	学術情報センター (図書館)	1,846.96	鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 3 階建
	獣医臨床センター	5,583.43	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 6 階建
	産業動物臨床教育センター	2,911.30	鉄骨造合金メッキ鋼板葺 2 階建
	コンパニオン・ドッグ・ラボラトリ	214.11	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	豚実習場	238.43	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	教育用動物繋留施設	164.03	軽量鉄骨プレハブ平家建
	学生ホール	1,276.08	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺 2 階建
	クラブハウス	729.75	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺 2 階建
	麻布大学のちの博物館 (百十周年記念会館)	764.01	鉄骨造ルーフィング葺 2 階建
	カフェテリア さくら	578.81	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺・陸屋根平家建
	テラス いちよう	1,868.96	鉄骨造合金メッキ鋼板葺 2 階建
	ウィンドチャイム	100.56	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	空手道場	197.55	軽量鉄骨プレハブ造平家建
	小動物舎	182.33	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建
	牛舎	413.10	鉄骨造鋼板葺平家建
	厩舎	579.48	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺 2 階建
	厩舎 (小)	18.90	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	豚舎	492.75	木造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	更衣室棟	41.76	木造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	飼料倉庫	15.00	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	多目的動物舎	728.72	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	危険物倉庫	7.68	コンクリートブロック造波スレート葺平家建
	倉庫 (守衛所横)	38.66	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建
	正門守衛所	28.57	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建
	東門守衛所	20.12	軽量鉄骨造合金メッキ鋼板葺平家建
	南門守衛所	8.82	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	特別高圧変電所	223.23	鉄骨造合金メッキ鋼板葺平家建
	標本保管庫	138.78	軽量鉄骨造合金メッキ鋼板葺平家建
	ゴミ置場	55.29	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	喫煙室 1	11.71	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	喫煙室 2	9.77	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
大 学	高校 1 号棟	4,325.82	鉄筋コンクリート造陸屋根 5 階建
	高校 2 号棟	3,026.29	鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建
	高校 3 号棟	1,091.98	鉄骨造スレート葺 2 階建
	麻布獣医学園アリーナ	3,547.81	鉄骨鉄筋コンクリート造ステンレス鋼板葺 2 階建
	武道館	777.49	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺 2 階建
	高校部室	337.60	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺 2 階建
	倉庫	138.80	鉄骨造合金メッキ鋼板葺 2 階建
	総合グラウンド管理棟	222.31	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺 2 階建
	総合グラウンド倉庫棟	280.80	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
	高校施設の総床面積	83,992.44	
島根県美郷町	麻布大学フィールドワークセンター	530	鉄骨造平家建
	大学建物の総床面積	70,243.54	
	高校建物の総床面積	13,748.90	
学園施設総床面積		83,992.44	

●建物の耐震化状況 大学 100.0%
高校 100.0%

※集計方法は、文部科学省が実施する「私立学校施設の耐震改修状況等調査」に準ずる。

3) 淵野辺キャンパス配置図



1) 麻布大学父母会

(1) 概要紹介

本会は、会員相互の親睦を図ると共に、麻布大学の教育施設及び学生の課外活動施設の整備並びに学生及び教職員の福利厚生など麻布大学の運営について後援している。

(2) 2022 (令和 4) 年度年間活動

・理事会	5月14日(土)	・地区懇談会 仙台会場	8月27日(土)
・代議員会	6月11日(土)	・地区懇談会 さいたま会場	8月28日(日)
・定期総会	6月11日(土)	・地区懇談会 名古屋会場	9月3日(土)
・理事会	12月10日(土)	・地区懇談会 広島会場	9月4日(日)
		・教員との個別面談	10月29日(土)

※大学祭がオンライン開催のため中止

2) 麻布大学同窓会

(1) 概要紹介

本会は、母校との連携を密にし、会員相互の親睦を図るとともに会員活動を支援し、もって母校の発展に寄与することを目的としている。

本会の組織は、在学中は準会員、卒業後は一般会員として構成され、学部学科ごとの部会と都道府県に支部が置かれ、次の事業を行っている。

(2) 事業内容

準会員（在学生）への支援

- ・学内に自動販売機、証明写真機及び複写機を設置し、安価に提供している。
- ・クラス会及び県人会の開催を支援している。
- ・課外活動（学生自治会）及び大学祭（実行委員会）の活動を支援している。
- ・卒業時のお祝いとして記念品を贈呈している。
- ・ホームページに動物病院を掲載し、就職を支援している。

一般会員（卒業生）への支援

- ・同窓会報を発行し、またホームページを開設し、広報活動している。
- ・大学祭に参加し、各県支部が特産品を販売し、動物相談コーナーを設け、地域住民及び準会員との交流を図っている。
- ・市民公開講座を開催し、地域住民及び会員に情報を提供している。
- ・会員名簿を管理し、運用している。

3) 麻布獣医学会

(1) 概要紹介

麻布獣医学会は獣医学、畜産学並びに動物応用科学等関連領域に関する学術の向上と情報交換及び会員相互の親睦を図る事を目的として、学会及び講演会又は講習会等の事業を行っている。

従来は本学又は地方で年一回開催していたが、2018（平成 30）年度より隔年の開催とし、会場は本学を基本とすることとなった。本会の会員は登録制で、本学の卒業生及び大学院修了者、本会の趣旨に賛同するものが登録できる。なお、学術発表で優秀な学術研究に対しては、学会賞等を授与して表彰を行っているほか、特別講演や市民公開講座も同時に開催し、地域市民に向けての社会貢献を図っている。

(2) 年間活動（2022（令和 4）年度実績）

2022（令和 4）年度に麻布獣医学会の開催を予定していたが、第 165 回日本獣医学会学術集会の司宰当番校だったため、開催を差し控えた。

4) 麻布環境科学研究会

(1) 概要紹介

麻布環境科学研究会は、環境科学に関する学術技術の錬磨向上と情報交換及び会員の親睦を図ることを目的として、学術研究会及び講演会等の事業を行っている。従来は本学で年一回開催していたが、2018（平成 30）年度より隔年の開催となった。なお、学術発表で優秀な学術研究に対しては、褒賞等を授与して表彰を行っているほか、環境保健や食品等に関する市民公開講座も同時に開催し、地域市民に向けての社会貢献を図っている。

(2) 年間活動（2022（令和 4）年度実績）

麻布環境科学研究会は、開催していない。

沿 革

本学は、建学の精神に基づき、一途に獣医畜産学の教育研究に精進してきたが、獣医師法の一部改正に伴い1978（昭和53）年4月から獣医学教育年限延長の第1年次が発足した。一方、経済成長に伴う社会の要請により人間の健康維持と、これを阻害する環境因子との相互関係を総合的に把握し、究明する創造力に富んだ研究者並びに専門技術者を養成する目的で環境保健学部を開設した。また、環境保健学部の設置に伴い、大学名を1980（昭和55）年4月から「麻布大学」と変更した。

創立以来130余年、幾多の変遷を経て今日、獣医、環境保健両学部そして、2008（平成20）年度から環境保健学部を改組し新たに設置した生命・環境科学部と大学院からなる特色ある大学に発展した。なお、1983（昭和58）年5月には学校教育法の一部が改正され、獣医学教育の修業年限が6年と定められ、1984（昭和59）年4月の入学者から学部6年の一貫教育が行われるようになった。その歩を要約すると次のとおりである。

1890（明治23）年 9月10日	東京獣医講習所開設 松方正義（第4代内閣総理大臣）は、先進国から優秀な家畜を輸入して日本の家畜を改良しようと計画し、この事業に呼応して獣医師に新しい獣医学の学術を教授することをもくろみ、その実施を東京農林学校（現在の東京大学農学部的前身）獣医学科長獣医学博士與倉東隆に委嘱した。與倉博士は農商務省の支持を受け東京市麻布区本村町私立慈育小学校内に東京獣医講習所を設け、全国各都道府県から選抜推薦された獣医師に6か月間新しい獣医学を教授した。学科目は解剖、生理、薬物、内科、外科、蹄鉄、病院実習、蹄鉄実習であった。
1894（明治27）年 4月	麻布獣医学校開設 東京獣医講習所は3年でその教育目的を達成した。この機会に学則を制定して農商務省認可麻布獣医学校を開設した。これに本科（修業年限3年で卒業生には無試験で開業の資格を与えた。）、別科（獣医師免許試験受験資格を授けた。）、蹄鉄工科（装蹄鉄の資格を与えた。昭和14年麻布蹄鉄専修学校と改めた。）を設置した。
1895（明治28）年 10月	麻布区新堀町に校舎新築 東京市麻布区新堀町（戦火を被るまで本学園の所在した土地）に校舎を新築し移転した。
1912（明治45）年 3月	麻布獣医畜産学校と改称 獣医師は獣医、畜産両面の教育を受けることが必要であるとされ、畜産学の時間を増加し、畜産関係学科を新たに加え、また東京市目黒区中目黒に附属畜産場を設け、各種の家畜、家禽を飼育し、畜産実習に供することとし、校名を麻布獣医畜産学校と改めた（麻布獣医畜産学校は昭和14年3月31日廃止となる。）
1920（大正9）年 9月	学校設置者を個人から財団法人に改め、財団法人麻布獣医畜産学校を設立
1934（昭和9）年 4月 11日	麻布獣医専門学校に校名変更 獣医師法改正に即応して実業専門学校令による専門学校に昇格させ、麻布獣医専門学校と校名変更した。
1944（昭和19）年 12月 30日 1945（昭和20）年 5月 25日	麻布獣医畜産専門学校と改称 戦災 多年の苦心努力からようやく充実した学校は、激しい爆撃をうけ諸施設はすべて灰燼に帰し、東京都立園芸学校（東京都世田谷区深沢町）、旧海軍相模工廠跡（神奈川県寒川町）、旧陸軍獣医資材廠跡（東京都立川市）、本学分舎（東京都目黒区上目黒）等に移動して授業を継続した。
1947（昭和22）年 6月 9日	現在地に移転 神奈川県高座郡相模原町矢部新田字長久保133番地（相模原市中央区淵野辺1-17-71）旧陸軍兵器学校跡に移転し、授業を開始した。
10月 13日	麻布蹄鉄専修学校廃止

1950（昭和25）年 4月 1日	大学開学（第1・2年次同時開講認可） 麻布獣医科大学が開学となり、初代学長に農学博士板垣四郎が選任された。
1951（昭和26）年 3月 6日 7月12日	学校法人となり、板垣四郎初代理事長となる（財団法人から改組） 鈴木三郎理事長となる
1952（昭和27）年 3月14日	麻布獣医畜産専門学校廃止
1954（昭和29）年 7月20日	中村道三郎理事長となる
1956（昭和31）年 4月 1日	獣医学科教職課程（高等学校教諭2級普通免許状理科、中学校教諭1級普通免許状理科）認定
1957（昭和32）年 4月 1日	獣医学部獣医学専攻科開設 獣医学専攻科の開設が許可され、開講した。 獣医学科教職課程（高等学校教諭2級普通免許状農業）認定
9月10日	講堂竣工（1986[昭和61]年、別館分棟に名称変更 2000[平成12]年3月解体）
1960（昭和35）年 3月21日	大学院修士課程開設 大学院獣医学研究科（獣医学専攻）修士課程の設置が許可となり、同年4月から開講した。
11月 4日	学園創立70周年記念式典挙行
1961（昭和36）年 5月17日	渋野辺高等学校開校
1962（昭和37）年 3月20日	大学院博士課程開設 大学院獣医学研究科（獣医学専攻）博士課程の設置が許可となり、同年4月1日から開講、初代大学院委員長に教授農学博士吉田信行が選任された。
11月29日	堀本宜実理事長となる
1963（昭和38）年 4月19日	越智勇一学長となる 学長任期満了に伴う選挙の結果、前東京大学農学部長農学博士越智勇一が選任された。なお、前学長板垣四郎は名誉学長となる。
1964（昭和39）年 4月 1日 4月12日	麻布公衆衛生学院開学（麻布公衆衛生短期大学の設置に伴い、翌年廃止） 学生寮竣工（1986[昭和61]年、別館に名称変更し、1995[平成7]年、4号館に名称変更 2014[平成26]年7月解体） 昭和38年3月6日に学生寮焼失のため、新たに鉄筋3階建学生寮を建設し、4月15日から入寮させた。
6月 4日	体育館竣工（2012[平成24]年8月解体）
1965（昭和40）年 4月 1日	麻布公衆衛生短期大学開学 本邦最初の公衆衛生短大を開設し、公衆衛生・環境衛生の技術者養成を目指すこととなった。初代学長に越智勇一が選任された。
8月31日	獣医学部鉄筋4階建研究室等一部（旧第1号館）竣工
1966（昭和41）年 8月31日	同学部の教室関係棟（旧第2号館）竣工
1968（昭和43）年 8月31日	同学部実習室・研究室等（旧第3号館）竣工
1969（昭和44）年 9月30日	竹岸政則理事長となる
1970（昭和45）年 1月15日 11月14日	麻布公衆衛生短期大学校舎竣工（2号館）（2008[平成20]年3月解体） 学園創立80周年記念式典挙行
1971（昭和46）年 8月10日	動物病院棟竣工（5号館）（2006[平成18]年12月一部解体、2014[平成26]年11月解体）
1973（昭和48）年 4月15日	越智勇一理事長となる
1976（昭和51）年 2月12日	獣医学部に家畜環境学科を新設、4月から開講
1977（昭和52）年 4月 1日 7月31日 11月14日	家畜環境学科教職課程（高等学校教諭2級普通免許状農業）認定 長野県信濃研修場寄宿舎竣工 長野県信濃研修場職員棟竣工
1978（昭和53）年 2月10日	環境保健学部設置認可

4月1日	環境保健学部開設 麻布公衆衛生短期大学は募集停止 家畜環境学科教職課程（高等学校教諭2級普通免許状理科、中学校教諭1級普通免許状理科）認定
11月22日	獣医学部獣医学専攻科廃止
1979（昭和54）年2月19日	環境保健学部環境保健学科教職課程（中学校教諭2級普通免許状理科、高等学校教諭2級普通免許状理科）認定 衛生技術学科教職課程（中学校教諭1級普通免許状保健、高等学校教諭2級普通免許状保健）認定
1979（昭和54）年3月20日	環境保健学部鉄筋4階建校舎（3号館）竣工（2012[平成24]年8月解体）、管理棟（本館）鉄筋2階建竣工
6月5日	麻布公衆衛生短期大学廃止
12月20日	大学名、学科名の変更認可
1980（昭和55）年4月1日	麻布獣医科大学を麻布大学に名称変更、同時に獣医学部家畜環境学科を環境畜産学科に変更
11月9日	学園創立90周年記念式典挙行
1981（昭和56）年2月25日	附属図書館竣工、5号館増築（2014[平成26]年11月解体）
1982（昭和57）年1月5日	麻布大学大学院獣医学研究科獣医学専攻（修士課程）入学定員15人から120人に変更 昭和52年5月に獣医師法の一部改正（昭和52年法律47条）、獣医師国家試験の受験資格が修士課程修了になったことに伴い、獣医学6年制積み上げ教育学生が修士課程に進学するための対応措置。
3月10日	6号館竣工
1983（昭和58）年9月25日	厩舎竣工
1984（昭和59）年4月1日	獣医学教育6年制発足 昭和58年5月に学校教育法の一部改正（昭和58年法律第55号）、獣医学教育の修業年限が6年となり、昭和59年4月入学者から実施。
1985（昭和60）年10月2日	淵野辺高等学校が、麻布大学附属淵野辺高等学校に名称変更認可
1986（昭和61）年3月31日	学生寮廃止
4月30日	大教室竣工、7号館竣工
7月19日	牛舎竣工
1987（昭和62）年3月30日	茨城県西茨城郡岩瀬町（現：茨城県桜川市大泉）を実習用地として、越智勇一理事長・学長から寄贈
3月31日	豚舎竣工
4月19日	尾形 學学長となる 学長任期満了に伴う選挙の結果、麻布大学教授農学博士尾形 學が選任された。なお、前学長越智勇一は、名誉学長となる。
4月19日	尾形 學理事長代行となる
6月30日	糞尿処理施設竣工
1988（昭和63）年4月1日	附置生物科学総合研究所設置
6月1日	尾形 學理事長となる
1989（平成元）年12月21日	大学院獣医学研究科博士課程（4年制）認可
12月22日	獣医学部環境畜産学科・環境保健学部の期間付入学定員増に係る学則変更認可
1990（平成2）年4月1日	大学院獣医学研究科博士課程（4年制）開講
6月2日	中村経紀学長となる 尾形 學学長退職に伴う選挙の結果、麻布大学教授理学博士中村経紀が選任された。

	高橋 貢理事長代行となる
7月25日	椿 精一理事長となる
11月3日	学園創立100周年記念式典挙行
1992（平成 4）年 5月15日	中村經紀理事長代行となる
7月28日	中村經紀理事長となる
1993（平成 5）年 3月19日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻（修士課程）設置承認
4月1日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻（修士課程）開講
9月28日	学生ホール竣工
12月21日	獣医学部動物応用科学科の設置認可
1994（平成 6）年 3月9日	獣医学部動物応用科学科教職課程（理科コース：中学校教諭一種免許状理科、高等学校教諭一種免許状理科、農業コース：高等学校教諭一般免許状農業）認定
3月15日	附属刈野辺高等学校武道館竣工
3月16日	大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻（修士課程）の設置認可
4月1日	獣医学部動物応用科学科開講 獣医学部環境畜産学科は募集停止 大学院環境保健学研究科を開設 環境保健科学専攻（修士課程）は同日から開講 獣医学部並びに環境保健学部にて学芸員課程開設
6月1日	倉益茂實理事長となる
1995（平成 7）年 2月27日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻（修士課程）収容定員変更
3月16日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻博士課程（後期）設置承認
4月1日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻博士課程（前・後期）開講
4月5日	8号館竣工
12月22日	大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻博士課程（後期）設置承認
1996（平成 8）年 4月1日	大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻博士課程（前・後期）開講
7月8日	上條 峻理事長となる
1997（平成 9）年 7月1日	麻布大学附属動物管理センター設置 麻布大学学生部保健課を麻布大学健康管理センターに組織変更
1998（平成 10）年 2月4日	環境保健学部環境保健学科を健康環境科学科へ名称変更認可
4月1日	環境保健学部健康環境科学科開講 環境保健学科は募集停止
12月22日	環境保健学部環境政策学科の設置認可 獣医学部動物応用科学科・環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員増に係る学則変更認可（平成 11 年度まで）
1999（平成 11）年 3月29日	獣医学部環境畜産学科廃止
4月1日	環境保健学部環境政策学科開講
6月30日	獣医臨床センター竣工
7月28日	獣医学部動物応用科学科・環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員増に係る学則変更認可（平成 16 年度まで） 獣医学部動物応用科学科・環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員の廃止に伴う収容定員増に係る学則変更認可
10月22日	環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の編入学定員設定認可
2000（平成 12）年 2月28日	環境保健学部衛生技術学科教職課程（中学校教諭一種免許状理科、高等学校教諭一種免許状理科）認定 環境保健学部環境政策学科教職課程（中学校教諭一種免許状社会、高等学校教諭一種免許状公民）認定
2月28日	9号館竣工

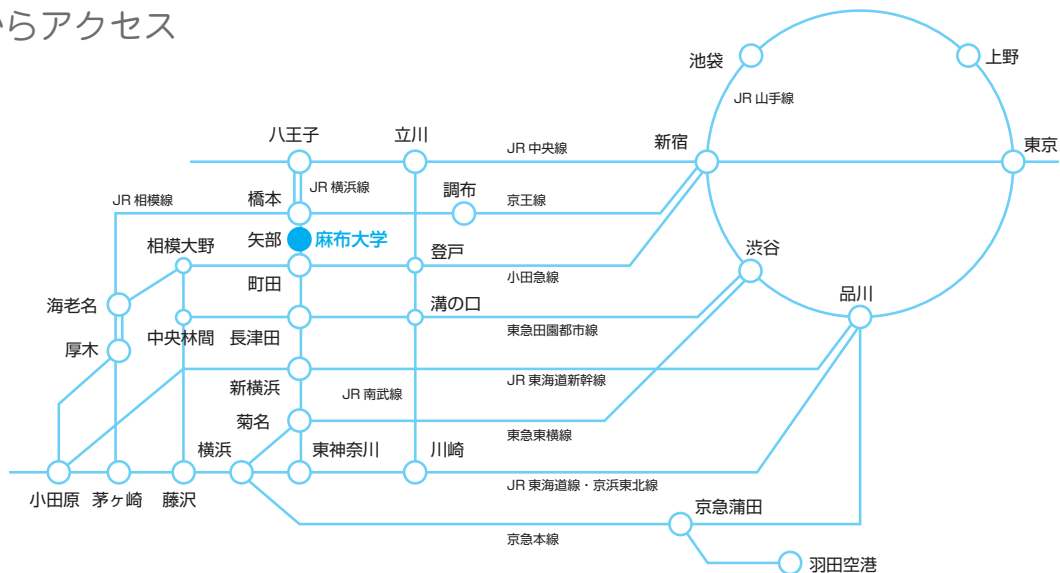
2002（平成 14）年	4 月 1 日	麻布大学附属図書館と麻布大学附属情報処理センターを統合し、麻布大学附属学術情報センターを設置
	5 月 13 日	学園創立 110 周年記念式典挙行
	5 月 23 日	麻布大学クラブハウス竣工
	6 月 1 日	高橋 貢理事長となる
	6 月 25 日	政岡俊夫学長となる 学長任期満了に伴う選挙の結果、麻布大学教授獣医学博士政岡俊夫が選任された。 なお、前学長中村経紀は名誉学長となる。
2003（平成 15）年	9 月 30 日	百十周年記念会館竣工
	10 月 21 日	麻布総合グラウンド竣工
	12 月 19 日	大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻（修士課程）設置承認
	3 月 5 日	大学院獣医学研究科獣医学専攻教職課程（中学校教諭専修免許状理科、高等学校教諭専修免許状理科、高等学校教諭専修免許状農業）認定
		大学院獣医学研究科動物応用科学専攻教職課程（中学校教諭専修免許状理科、高等学校教諭専修免許状理科、高等学校教諭専修免許状農業）認定
2006（平成 18）年		大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻教職課程（中学校教諭専修免許状理科、高等学校教諭専修免許状理科）認定
		大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻教職課程（中学校教諭専修免許状社会、高等学校教諭専修免許状公民）認定
	4 月 1 日	大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻（修士課程）開講
	10 月 1 日	事務組織を抜本的に改組（企画課、庶務課、入学広報課、研究交流課、教務課、共同施設事務室等の設置、各課等の事務分掌整理）
	6 月 1 日	村田元秀理事長となる
2007（平成 19）年	7 月 28 日	獣医学部動物応用科学科の入学定員増に係る学則変更認可
	8 月 31 日	獣医学部棟竣工
	12 月 1 日	事務組織を一部改組（共同施設事務室廃止等）
	4 月 1 日	麻布大学獣医学部附属動物病院を麻布大学附属動物病院に組織及び名称変更 麻布大学附属教育推進センターを設置 事務局に改革室を設置
	7 月 31 日	生命・環境科学部臨床検査技術学科、食品生命科学科及び環境科学科の設置届出 生命・環境科学部臨床検査技術学科、食品生命科学科及び環境科学科編入学定員設定届出
2008（平成 20）年	12 月 25 日	生命・環境科学部臨床検査技術学科教職課程（中学校教諭一種免許状理科、高等学校教諭一種免許状理科）認定 生命・環境科学部食品生命科学科教職課程（中学校教諭一種免許状理科、高等学校教諭一種免許状理科）認定 生命・環境科学部環境科学科教職課程（中学校教諭一種免許状理科、中学校教諭一種免許状社会、高等学校教諭一種免許状理科、高等学校教諭一種免許状公民）認定
	4 月 1 日	生命・環境科学部臨床検査技術学科、食品生命科学科及び環境科学科開講 環境保健学部健康環境科学科、衛生技術学科及び環境政策学科は募集停止 麻布大学研究推進・支援本部を設置
	6 月 1 日	政岡俊夫理事長となる
	10 月 1 日	事務組織を改組（総務部及び教務部の二部制施行、監査室及び事務改革室の設置）
	3 月 17 日	Companion Dog Laboratory（コンパニオン・ドッグ・ラボラトリ）竣工
2010（平成 22）年	4 月 1 日	事務局総務部経営企画課に事務支援センターを設置
	5 月 26 日	茨城県桜川市の学園所有地を処分

2012（平成 24）年 3 月 31 日	9 月 30 日	生命・環境科学部棟、麻布獣医学園アリーナ及び特別高压変電所竣工
		事務改革室を業務終了に伴い廃止
		学芸員課程を廃止
2013（平成 25）年 3 月 31 日	4 月 1 日	事務局総務部経営企画課に学長室を設置
		環境保健学部健康環境科学科、衛生技術学科及び環境政策学科廃止
		事務局総務部経営企画課事務支援センター廃止
	6 月 28 日	生命・環境科学部臨床検査技術学科、食品生命科学科及び環境科学科の入学定員変更及び編入学定員の廃止届出
2014（平成 26）年 3 月 28 日	7 月 30 日	馬場の移設竣工
		カフェテリアさくら竣工
	4 月 1 日	麻布大学附属渋野辺高等学校の校名を麻布大学附属高等学校に名称変更
	6 月 25 日	柏崎直巳理事長となる
		浅利昌男学長となる
		学長任期満了に伴う選挙の結果、麻布大学教授獣医学博士浅利昌男が選任された。
		なお、前学長政岡俊夫は名誉学長となる。
2015（平成 27）年 3 月 31 日	7 月 14 日	産業動物臨床教育センター（LAVEC）竣工
	12 月 22 日	長野県信濃研修場（佐久市）を処分
		テラスいちよう竣工
		事務局総務部経営企画課学長室を業務終了に伴い廃止
	4 月 1 日	麻布大学地域連携センターを設置
		事務局総務部に IR 室を設置
		メンタルヘルス相談室を設置
	7 月 10 日	麻布大学いのちの博物館竣工（9 月 15 日開館）
	8 月 31 日	ウィンドチャイム（Wind Chimes）竣工
	9 月 12 日	学園創立 125 周年記念式典挙行
	10 月 1 日	事務組織を改組（経営企画課、IR 室、人事課、入試・広報課、経理課、管財課、教務課、学生支援・国際交流課、キャリア支援・地域連携課、学術支援課）
2016（平成 28）年 3 月 31 日		大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻（修士課程）廃止
	4 月 1 日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻博士前期課程の収容定員変更
	10 月 1 日	事務組織を改組（一部機能の統合・分轄を行い、広報・IR 室、地域連携室、入試課、キャリア・就職支援課を改組・設置）
2017（平成 29）年 1 月 20 日		豚舎及び更衣室棟竣工
	4 月 1 日	獣医学部動物応用科学科の収容定員変更
2018（平成 30）年 8 月 10 日		小動物舎竣工
	10 月 1 日	事務組織を改組（一部機能の強化、呼称を見直し、IR 室、広報課、地域連携課を改組・設置）
2020（令和 2）年 2 月 17 日		厩舎竣工
	6 月 15 日	浅利昌男理事長となる
2020（令和 2）年 11 月 1 日		事務組織を改組（一部機能の分轄、呼称を見直し、地域連携・渉外課を改組・設置）
2021（令和 3）年 4 月 1 日		島根県美郷町に麻布大学フィールドワークセンターを開設
2021（令和 3）年 7 月 1 日		事務改組（一部機能を分轄し、研究推進課、産学連携室を改組・設置）
2021（令和 3）年 9 月 1 日		小倉弘明理事長となる
2021（令和 3）年 10 月 1 日		大学教育推進機構を設置し、同機構の下に教育推進センター、教育方法開発センター、データサイエンスセンター及び教学 IR センターを設置
2021（令和 3）年 11 月 1 日		川上泰学長となる
2022（令和 4）年 4 月 1 日		事務組織を改組（一部機能の統合・分割、呼称を見直し、学長企画室、企画課、財務管財課、渉外課、入試広報課、学生支援課、キャリア支援課、産学連携課を改組・設置）

2022（令和 4）年 8 月 22 日	牛舎竣工
2022（令和 4）年 12 月 1 日	DEI 推進センター及び DEI 推進センター事務室を設置
2023（令和 5）年 2 月 20 日	羊舎竣工

学年始め及び前期始め	4月 1日 (土)
在学者健康診断	4月 3日 (月)・4日 (火)・5日 (水)
在学者・編入学者ガイダンス	4月 5日 (水)
入学式	4月 6日 (木)
入学者オリエンテーション	4月 6日 (木)・7日 (金)、10日 (月)
大学院入学者オリエンテーション	4月 7日 (金)
大学院在学者ガイダンス	4月 7日 (金)
入学者健康診断 (大学院入学者を含む。)	4月 7日 (金)
前期授業開始日	4月 11日 (火)
休日の授業実施に伴う休業日	5月 1日 (月)・2日 (火)
休日における授業実施日	7月 17日 (月)
前期補講日	7月 25日 (火)
前期定期試験期間	7月 26日 (水)～28日 (金) 8月 1日 (火)～4日 (金)・7日 (月) 8日 (火)
夏期休業期間	8月 9日 (水)～9月 30日 (土)
学園創立記念日	9月 10日 (日)
前期成績発表日	9月 25日 (月)
前期終わり	9月 29日 (金)
後期始め	10月 1日 (日)
後期授業開始日	10月 2日 (月)
休日における授業実施日	10月 9日 (月)
大学祭	10月 28日 (土)・29日 (日)
休日の授業実施に伴う休業日	11月 22日 (水)
後期授業一時終了日	12月 22日 (金)
冬期休業期間	12月 25日 (月)～1月 9日 (火)
後期授業再開日	1月 10日 (水)
後期補講日	1月 29日 (月)
後期定期試験期間	1月 31日 (水)～2月 2日 (金)・8日 (木) 9日 (金) 2月 13日 (火)～2月 16日 (金)・19日 (月)
卒業式・修了式	3月 15日 (金)
春期休業期間	3月 25日 (月)～31日 (日)
後期終わり及び学年終わり	3月 31日 (日)

●主要駅からアクセス



●関東近郊からの所要時間



電車

新宿	町田 橋本	約 55 分
	八王子	約 1 時間
渋谷	長津田 菊名	約 1 時間 5 分
横浜		約 52 分
川崎	東神奈川	約 1 時間 5 分
大宮	新宿 町田	約 1 時間 45 分
川越	八王子	約 1 時間 35 分
船橋	新宿 町田	約 1 時間 50 分

矢部

〒 252-5201

神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71

TEL : 042-754-7111 (代)

FAX : 042-754-7661

URL : <http://www.azabu-u.ac.jp/>



JR 横浜線 矢部駅北口から徒歩 4 分

麻布大学 要覧 2023

発行 麻布大学
編集 事務局総務部 渉外課
住所 〒252-5201
神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71
TEL 042-754-7111 (代表)
E-mail koho@azabu-u.ac.jp